

◎淀川支川ニ關スル占用並収益其ノ他取扱規程 (明治三十三年十月十一日)

改(明治四五年六月訓令第一八號、大正二) 正(年六月第一九號、一五年六月第四二號)

町村役場 水利組合役場

(淀川ノ支川ニ關係ナキ郡市町村及水利組合ヲ除ク)

第一條 河川、敷地、堤防、流水ノ占用ヲ許可セムトスルトキハ第一號様式ノ調査表並圖面ヲ添付シ認可ヲ受クヘシ但シ許可セサル場合ニ在リテハ其ノ事由ヲ具シ認可ヲ受クヘシ

河川敷地及流水占用規則第六條ノ許可ヲ爲サムトスルトキハ認可ヲ受クヘシ

第二條 河川法第十七條ニ該當スル行爲ニ付許可ヲ受ケタル者ニ對シ其ノ目的ノ爲ニ占用ヲ許可スル場合ニ在リテハ前條ノ認可ヲ受ケルコトヲ要セス

第三條 河川敷地及流水占用規則第七條ノ届出ヲ受ケタルトキハ即時報告スヘシ

第四條 土石、砂利ノ採取又ハ生産物ノ刈採リヲ許可セムトスルトキハ第二號様式ノ調査表並圖面ヲ添付シ認可ヲ受クヘシ

第五條 官有土石砂利拂下規程第六條乃至第八條又ハ河川内生産物拂下規程第六條、第七條ノ場合ニ於テハ本知事ノ指揮ヲ受ケ處分スヘシ但シ急施ヲ要スル場合ニ限り便宜處分シ報告スルコトヲ妨ケス

第六條 第一條、第四條ノ場合ニ於テ許可ニ附スル條件又ハ出願ノ事項ヲ變更シテ許可セムトスルノ必要アルトキハ其ノ事由ヲ詳具スヘシ

第七條 町村其ノ他公共團體ニ於テ直接ニ河川敷地、堤防、流水ヲ占用シ又ハ土石砂利ヲ採取シ若ハ生産物ノ刈採リヲ爲サムトスル場合ニ在リテモ本規程ヲ準用ス

第八條 國、府ノ事業ノ爲河川敷地、堤防、流水ヲ占用シ若ハ土石砂利ノ採取ヲ要スル場合ハ町村長其ノ他公共團體ノ管理者ヘ通知スルモノトス

第九條 公益ノ爲必要アルトキ又ハ公害アルヲ發見シタルトキ其ノ他本知事ニ於テ必要アリト認ムルトキハ認可シタル條件ヲ變更シ若ハ必要ナル處分ヲ爲サシムルコトアルヘシ (様式略)

◎水防委員設置規程 (大正七年六月十一日) 改(大正一五年六月府令第七四號) (府令第五十七號) 正(昭和二年七月府令第六七號)

第一條 河川法ヲ施行シ及之ヲ準用シタル河川ニ於ケル洪水防禦事務指導監督ノ爲水防委員ヲ設置ス

第二條 水防委員ハ委員長一人委員若干人トス

第三條 水防委員長ハ土木部長ヲ以テ之ニ充ツ委員長事故アルトキハ警察部長タル委員ニ於テ其ノ事務ヲ代理ス

水防委員ハ左ニ掲クル者ノ内ヨリ知事之ヲ任命ス
一 土木ニ關係アル官吏更員

第三類 河 川 淀川支川ニ關スル占用並収益其ノ他取扱規程 水防委員設置規程

第三類 河 川 水防委員設置規程 水防委員職務規程

- 二 警察部長、警察部在勤ノ警察官吏、消防職員
- 三 洪水防禦區域ノ警察署在勤ノ警察官吏
- 四 特ニ命シタル官吏
- 第四條 官吏タル水防委員ハ洪水防禦ニ際シ河川法第二十三條第一項及第二項ノ處分ヲ爲スヘシ

◎水防委員職務規程 (大正七年六月十一日) 改(昭和二年七月)
 (府訓令第九號) 正(訓令第一九號)

内務部 土木部 警察部 警察署

- 第一條 水防委員長ハ水防事務ヲ掌理ス
 委員長事故アルトキハ警察部長タル委員其ノ職務ヲ代理ス
 水防委員ハ委員長ノ命ヲ受ケ水防事務ノ指導監督ニ從事ス
- 第二條 本廳在勤ノ水防委員ハ委員長ノ指示ニヨリ出張ノ命ヲ受ケタル河川ヲ擔任スヘシ
- 第三條 警察署長、土木出張所主幹タル水防委員ニ於テ洪水若ハ其ノ兆アリト認ムルトキハ委員長ニ報告シ直ニ其ノ所屬吏員タル水防委員ヲ適當ニ配置出張セシメ本廳派出ノ水防委員ト協同シ各所轄河川ヲ擔任スヘシ
- 第四條 左ニ掲グル水防委員ハ之ヲ巡視員トス
 土木事務ニ關係アル地方事務官、地方技師、地方待遇職員タル技師、主席屬、警察部在勤ノ地方警視、課長タル警部
 洪水防禦區域ニ關係アル警察署長、土木出張所主幹

特ニ命ヲ受ケタル者

水防巡視員ハ委員長ノ命ヲ受ケ水防區域ヲ巡視シ他ノ水防委員ト協議シ防禦上必要ナル處置ヲ爲スモノトス

- 第五條 水防委員ハ指定ノ擔任區域ニ出張シ左ノ各號ノ分擔ニヨリ執務スヘシ
 - 一 現品徴收
 - 二 夫役ノ集配
 - 三 技術上ノ指揮
 - 四 水量報告及通信事務
- 第六條 水防委員ハ擔任區域外ニ危險切迫ノ箇所アリト認ムルトキハ相互援助スヘシ
- 第七條 水防委員ハ擔任ノ河川ニ於テ左ノ各號ノ一ニ該當スルトキハ直ニ之ヲ水防委員長ニ報告シ同時ニ關係警察署長、土木出張所主幹タル委員ニ通知スヘシ
 - 一 防禦ノ必要ヲ生シタルトキ
 - 二 危險ノ虞アリト認メタルトキ
 - 三 防禦ノ效果アリシトキ又ハ無カリシトキ但シ堤防、河岸若ハ樋剛、橋梁ノ破壊シタル場合ニ於テハ其ノ狀況、浸水スヘキ概測段別竝ニ家屋數、人畜死傷ノ有無
 - 四 其ノ他必要ト認ムル事項
- 第八條 本規程ニ依ル報告ハ機宜ニ依リ電信、電話又ハ特夫ヲ以テ爲スヘシ
- 第九條 水防委員ハ左ノ徽章ヲ左腕ニ付スヘシ
 - 巡視員 赤色 幅二寸
 - 其ノ他ノ委員 白色 幅二寸

第三類 河 川 水防委員職務規程

第三類 河 川 水防委員職務規程 洪水防禦準備規程

一八六

第十條 水防委員其ノ任務ヲ了リタルトキハ復命書ヲ作り左ノ書類ヲ添ヘ水防委員長ヲ經テ知事

ニ報告スヘシ

一 水防狀況書

一 河川法第二十三條ニ依リ損害ノ補償ヲ要スヘキ物件ノ種類、員數、金額並ニ氏名調書

◎洪水防禦準備規程 (大正七年六月十一日) 改(大正一五年六月) 正(府令 第五十六號) 正(府令 第七五號)

第一條 洪水ノ害ヲ受クヘキ地域ト認メ特ニ指定ヲ受ケタル市町村其ノ他ノ公共團體ハ本規程ニ

依リ豫メ水防員ノ設置、水防ノ設備其ノ他洪水防禦ノ準備ヲ爲スヘシ

第二條 水防員ノ組織ハ知事ニ於テ特ニ命スル場合ヲ除ク外左ノ各號ニ準據スヘシ

水防長 (水防事務ヲ掌理スル者)

一名

水防部長 (水防事務ヲ分擔シ又ハ水防長ノ事務ヲ代理スル者)

若干名

水防組頭 (水防部長ノ命ヲ承ケ部下ヲ指揮スル者)

若干名

水防小頭 (水防組頭ヲ補佐シ水防組頭故障アルトキ之カ代理ヲ爲ス者)

若干名

水防手 (水防長以下ノ命ヲ承ケ水防ニ從事スル者)

若干名

前項ノ水防員ハ市町村長又ハ其ノ他ノ公共團體ノ管理者ニ於テ命免スヘシ但シ水防長、水防部

長ノ命免ハ知事ノ認可ヲ受クルコトヲ要ス

第三條 水防長ニ於テ出水ノ虞アリト認ムルトキハ水防員ヲシテ量水標ヲ監視セシメ洪水警戒水

位ニ達シタルトキハ直ニ電信電話又ハ特夫ヲ以テ其ノ旨知事ニ報告シ洪水防禦ノ措置ヲ爲スヘ

シ

前項ノ場合ニ於テハ其ノ水位ヲ直近下流水防分區又ハ水害防禦團體ニ通報スルコトヲ要ス爾後

増水一尺以上ニ及フトキ亦同シ

第四條 水防設備ハ左ノ各號ニ準據スヘシ

一 材料藏置場

材料藏置場ハ堤防又ハ堤防附近若ハ防禦スヘキ工作物附近ニ設置シ材料保存ニ適當ナル設備

ヲ爲スヘシ

藏置場ハ堤防ニ對シテハ三百間乃至千間毎ニ一箇所ヲ設クルコトヲ要ス

二 量水標

沿川町村又ハ其ノ他ノ公共團體ハ其ノ地域内ニ於ケル洪水防禦準備ヲ要スル各箇所毎ニ一箇

所以上

三 器具材料

空俵、繩、杭木、竹、鐵線、粗朶、土、蝟木、掛天、鋸、鎌、鍬、手斧、蕤、シヨベル、提

燈、薪火用燃料、小車、小船

量水標ノ構造其ノ建設位置、器具材料ノ種類、數量其ノ藏置場ノ位置及人夫、車馬其ノ他物

件等ノ徵收方法ハ豫メ知事ノ認可ヲ受クヘシ其ノ之ヲ變更セムトスルトキ亦同シ

前項ノ器具材料ハ毎年四月末日迄ニ準備シ直ニ知事ニ届出テ検査ヲ受クヘシ

第五條 第四條第三號ノ材料中竹ハ生立ノ竹林ヲ以テ藏置ニ代ユルコトヲ得

前項ノ場合ニ於テハ左ノ事項ヲ記載シタル標札ヲ建設スヘシ

第三類 河 川 洪水防禦準備規程

一八七

第三類 河 川

洪水防禦準備規程
洪水防禦ヲ爲スヘキ市町村及公共團體指定

- 一 洪水防禦準備材料タルコト
- 一 使用シ得ヘキ材料ノ數量
- 一 市町村又ハ公共團體ノ名稱

第六條 洪水防禦ノ爲器具材料ノ全部若ハ一部ヲ使用シ又ハ其ノ他ノ事由ニ依リ準備スヘキ員數ニ不足ヲ生シタルトキハ直ニ之ヲ補充スヘシ

第七條 市町村長又ハ其ノ他ノ公共團體ノ管理者ハ洪水防禦ノ方法並之カ練習ニ關スル規程ヲ設ケ知事ノ認可ヲ受クヘシ其ノ之ヲ變更セムトスルトキ亦同シ

附 則

第四條ノ期限ハ本令施行ノ際ニ限り第一條ノ指定ヲ受ケタル日ヨリ三十日トス

◎洪水防禦ヲ爲スヘキ市町村及公共團體指定

(大正七年六月十二日 府告示第百六十號)

改 大正七年七月告示第一七九號
正 昭和四年九月告示第四九七號

大正七年六月大阪府令第五十六號洪水防禦準備規程第一條ニヨリ洪水防禦ヲ爲スヘキ市町村及公共團體ヲ左ノ通指定ス

淀川左岸ノ洪水防禦準備ヲ爲スヘキ市町村及公共團體

淀川左岸水害豫防組合

淀川右岸ノ洪水防禦準備ヲ爲スヘキ市町村及公共團體

削除

大和川右岸ノ洪水防禦準備ヲ爲スヘキ市町村及公共團體

大和川北岸第一水害豫防組合

中河内郡 堅下村、南高安村、曙川村、八尾町、中高安村、彌刀村、西郡村、巽村、長瀬村、久寶寺村、大正村、瓜破村、矢田村

東成郡 喜連村、南百濟村、北百濟村、田邊町、生野村、平野郷町

◎水路取締規則

(明治四十三年八月十九日 府令第六十八號)

改(大正元年九月) 正(府令第一三號)

第一章 通 則

第一條 本則ニ於テ水路ト稱スルハ河川、運河及港灣ヲ謂フ

第二條 水路ニ於テハ左ノ行爲ヲ禁ス

- 一 水制、測量標、量水標、檢潮標、檢潮器、水道取水塔、水管橋、瓦斯管橋、電纜橋及其ノ保護杭ニ舟筏ヲ繫留シ又ハ之ニ障害ヲ及ホスヘキ行爲ヲ爲スコト
- 二 他船ニ引曳セラレル舟筏ノ操舵ヲ忽ニスルコト
- 三 「テントウ」船、劍先船、三十石船其ノ他之ニ類スル船舶若ハ長二十尺以上ノ筏ヲ船夫又ハ筏夫一人ニテ運航スルコト
- 四 船體不相當ト認ムヘキ重量物件ヲ搭載航行スルコト

第三類 河 川 洪水防禦ヲ爲スヘキ市町村及公共團體指定
水路取締規則

第三類 河 川 水路取締規則

- 五 舟筏、竹木等ノ繫留ヲ忽ニスルコト
 - 六 土砂、瓦石、石炭殻、塵芥、木片等ヲ投棄スルコト
 - 七 他ノ舟筏等ニ碍口類ヲ鉤シテ運航スルコト
 - 八 大阪市、堺市ニ在リテハ許可外ノ場所ニ於テ游泳ヲ爲スコト
 - 九 安治川筋、木津川筋及築港ニ於テハ本則ノ指定シタ 場所外ニ船舶ヲ碇泊スルコト
 - 十 碇泊船舶ニ故ナク看守人ヲ置カサルコト但シ舢舨「テントウ」船其ノ他之ニ類スル小形船ハ此ノ限ニアラス
 - 十一 入津料取立所、渡船場、巡航船寄航場、汽船繫泊場、船渠、共同物揚場ノ附近ニ舟筏其ノ他ノ物件ヲ繫留スルコト
- 第三條** 水路ニ於テ左ノ事項ヲ爲サムトスルトキハ警察官署ノ許可ヲ受クヘシ
- 一 假足場、日覆、又ハ燒臺ヲ設ケ其ノ他一時水路ヲ使用セムトスルトキ
 - 二 神輿渡御又ハ川施餓鬼ノ類ヲ執行セムトスルトキ
 - 三 積石數二百石以上總噸數二十噸以上ノ船舶ヲ上架又ハ進水セムトスルトキ
 - 四 積石數百石以上總噸數十噸以上ノ船舶ヲ解船、修繕、休航、積裝等ノ爲五日以上繫留セムトスルトキ、筏ニ付亦同シ
 - 五 多衆ヲ會シ端艇競漕ヲ爲サムトスルトキ
 - 六 淀川筋天滿橋上流ニ於テ長六十尺幅六尺以上其ノ他大阪市内ノ河川ニ於テ長四十五尺幅六尺以上ノ筏又ハ操縱自由ナラサル物件ヲ運航セムトスルトキ
 - 七 舟筏其ノ他ノ物件ヲ連繫シテ運航シ又ハ之ヲ引曳セムトスルトキ

八 火藥類搭載船ヲ碇泊セムトスルトキ

第四條 水路使用ノ許可ヲ受ケタル者ハ區域、期間及使用者ノ住所氏名ヲ記シタル目標ヲ其ノ晴

易キ場所ニ建設スヘシ但シ一時使用ノモノハ此ノ限ニ在ラス

大阪市及其ノ接續町村ニ在リテノ前項ノ目標ニ當該處ノ檢印ヲ受クヘシ

第五條 運航中ニ非サル筏ニハ所有者若ハ占有者ノ住所氏名ヲ記シタル目標ヲ其ノ晴易キ箇所ニ掲クヘシ

第六條 船舶ノ航法ハ左ノ規定ニ遵フヘシ

- 一 航路及浮筋ニ於テハ其ノ右側ヲ航行スヘシ
 - 二 航路及浮筋ニ於テハ他船ト並航スヘカラス
 - 三 航路及浮筋ニ於テ行逢フトキハ互ニ右方ニ避クヘシ若之ニ依リ難キ場合ハ上リ船ニ於テ避讓スヘシ
 - 四 航路及浮筋ヲ横切ラムトスル船舶ハ上リ船又ハ下リ船ニ對シ避讓スヘシ
 - 五 汽艇、發動機艇、舢舨、端艇其ノ他權權ヲ以テ航行スル船舶ハ汽船及帆船ニ對シ避讓スヘシ
 - 六 航路ノ屈角、埠頭、棧橋又ハ碇泊船ニ接シ回航スルトキハ之ヲ右舷ニ見テ航行スルモノハ小廻リヲ爲シ左舷ニ見テ航行スルモノハ大廻リヲ爲スヘシ
 - 前項ハ之ヲ筏ニ準用ス
- 第七條** 船舶ハ海上衝突豫防法其ノ他法令ニ規定アル場合ヲ除クノ外濫リニ汽笛、汽角又ハ號角ヲ吹鳴スヘカラス

第三類 河 川 水路取締規則

第八條 汽船ハ他船ニ危害ヲ加ヘサル程度ノ速力ニ於テ進行シ特ニ總噸數四十噸以上ノモノハ安
治川筋第二區第三區木津川筋第二區内ニ於テハ舵效ヲ失セサル程度ニ於テ徐行スヘシ
第九條 航行中ハ見張ヲ嚴密ニシ若帆ヲ揚ケ又ハ積荷高キ等ノ爲前路ヲ見透シ難キトキハ船首ニ
見張人ヲ置クヘシ

第十條 船舶ハ錨ヲ船胸ニ垂下スヘカラス

船舶航行中ハ投錨準備トシテ左舷錨ヲ水面以下ニ垂下シ置クヘシ

總噸數百噸以上ノ汽船川筋ヲ航行中ハ必要ニ應シ速ニ投入シ得ル様中錨以上ノ錨ヲ船尾ニ準備
シ置クヘシ

第十一條 積石數百石以上、總噸數十噸以上ノ船舶、川筋ニ於テ投錨シタルトキハ浮標ヲ設クヘ
シ

第十二條 船舶航行中ハ海上衝突豫防法第十條ニ規定セル白燈ヲ船尾ニ掲グヘシ但シ同法第七條
乃至第九條ノ船舶ハ白色燈ヲ以テ之ニ代用スルコトヲ得

海上衝突豫防法第七條第三號第四號ニ該當スル船舶航行中ハ同條第三號ニ規定セル燈火ヲ其ノ
前方ニ掲グヘシ

第十三條 碇泊船ハ海上衝突豫防法第十一條ニ規定セル碇泊燈ヲ表出スヘシ但シ舢舨、「テント
ウ」船、其ノ他小型ノ空船ハ航路ニ面シタルモノヲ除ク外之ニ依ラサルコトヲ得

第十四條 川筋ニ於テ回轉中ノ積石數二百石以上總噸數二十噸以上ノ船舶ハ最晴易キ場所ニ晝間
ハ萬國信號旗及夜間ハ前橋ノ頂部ニ紅燈一箇ヲ掲グヘシ

第十五條 船舶ノ點燈、信號及航行ニ關シテハ前各條ノ外海上衝突豫防法ニ依ルヘシ

第十六條 舟筏運航上障害若ハ危險ノ虞アル場所ニ膠砂、沈没、顛覆シタル船舶其ノ他ノ物件ノ
所有者又ハ占有者ニ於テ速ニ之ヲ除却スヘシ
前項ノ除却ヲ終ル迄ハ相當ノ標識ヲ設クヘシ

第十七條 船夫及筏夫ハ年齢十八年以上ニシテ身體強壯ノ者タルヲ要ス

第十八條 警察官吏ニ於テ危害豫防又ハ交通上ニ關シ必要アリト認ムルトキハ臨時其ノ處置ニ付
指示又ハ命令スルコトアルヘシ

第十九條 大阪市、堺市及其ノ接續町村ニ於テハ水路ニ臨ミタル屋根、物干、窓、手摺等ニ濘穢
其ノ他見苦敷物品ヲ懸ケ置クヘカラス

第二十條 本則ニ依ル願届ハ大阪市及其ノ接續町村ニ在リテハ水上警察官署其ノ他ニ在リテハ沿
岸地所轄警察官署ニ差出スヘシ

第二章 大阪港

第二十一條 大阪港界内ヲ内港、外港ニ區別ス

内港ハ築港内ノ海面

外港ハ開港港則ニ定メタル大阪港ノ區域内ヨリ築港内ヲ除キタル海面

第二十二條 内港ヲ左ノ二區ニ區別ス

第一區 築港關門口ヨリ内方一千間ノ地點迄

第二區 第一區ヲ除キタル海面

第二十三條 内港ニ出入スル航路ハ關門口兩燈臺ヨリ眞方位北六十五度東、南六十五度西ニ走ル
ニ並行線内トシ航路ノ延長ハ防波堤外ニ於テハ該燈臺ヨリ五百間防波堤内ニ於テハ第一區境界

第三類 河 川 水路取締規則

第三類 河 川 水路取締規則

一九四

線迄トス

安治川筋ニ出入スル航路ハ内港第一區航路ノ南終點ヨリ眞方位北四十二度四十五分東ニ八百十六間、更ニ其ノ點ヨリ北五十度十分東ニ三百十三間、同航路ノ北終點ヨリ眞方位北四十八度東ニ七百五十四間、更ニ其ノ點ヨリ北五十二度東ニ三百二十間ノ二線内トス

第二十四條 内港第一區中關門口ヨリ航路ニ沿ヒ北側三百間以内ハ燃燒シ易キ物件ヲ其ノ南側三百間以内ハ傳染病患者ヲ搭載スル船舶ノ碇泊所トシ殘餘ノ區域ハ帆船ノ假泊所トス

内港第二區ハ汽船及帆船ノ碇泊所トス但シ總噸數三百噸未滿ノ船舶ハ陸岸ニ接近シテ碇泊スヘシ

第三十一條

第三章 安治川筋

第二十五條 安治川筋ノ區域ハ安治川口(櫻島運河入口ト天保山燈臺トヲ連結シタル一線)ヨリ上

流春日出橋、端建藏橋及船津橋迄ノ間トシ左ノ三區ニ區別ス

第一區 官設鐵道線堀割口北岸ヨリ直角ニ南岸ニ引キタル一線ト安治川口迄ノ間

第二區 逆川中心ヨリ直角ニ南岸ニ引キタル一線及春日出橋ト第一區境界線迄ノ間

第三區 端建藏橋及船津橋ヨリ第二區境界線迄ノ間

第二十六條 安治川筋ニ於ケル航路ハ浮筋ノ中央ヨリ左右ヘ各十間トス

第二十七條 安治川筋第一區ハ空船、荷役未定船、休航船、修繕船及燃燒シ易キ物件ヲ搭載シタル船舶ノ碇泊所トス但シ棧橋ニ繫留スルモノ又ハ警察官吏ノ承認ヲ得タルモノハ此ノ限ニアラス

安治川筋第二區ハ前項以外ノ各種船舶ノ碇泊所トス

安治川筋第三區ハ航洋汽船及稅關手數未濟貨物搭載船ノ碇泊所トス但シ曳船汽船、汽艇及舢舨ハ元安治川橋上流北岸ニ碇泊スルコトヲ得

第二十八條 安治川筋ニ於テハ筏ヲ運航スヘカラス但シ警察官署ノ許可ヲ受ケタルモノハ此ノ限ニアラス

第二十九條 安治川筋第二區第三區ニ於テハ船舶ノ帆走ヲ爲スヘカラス但シ第二區ニ於テハ「テントウ」船、劍先船、其ノ他之ニ類スル小型船ハ此ノ限ニアラス

第四章 木津川筋

第三十條 木津川筋ノ區域ハ木津川口浮標ノ西端ヨリ上流日吉橋及千代崎橋迄ノ間トシ左ノ二區ニ區別ス

第一區 中口町南端ヨリ木津川口浮標ノ西端迄ノ間

第二區 第一區ニ屬セサル區域

第三十一條 木津川筋ニ於ケル航路ハ浮筋ノ中央ヨリ左右ヘ各七間トス

第三十二條 木津川筋第一區ハ空船、荷役未定船、休航船、修繕船及燃燒シ易キ物件ヲ搭載シタル船舶ノ碇泊所トス但シ棧橋ニ繫留スルモノ又ハ警察官吏ノ承認ヲ得タルモノハ此ノ限ニ在ラス

木津川筋第二區ハ前項以外ノ各種船舶ノ碇泊所トス

第三十三條 木津川筋第二區ニ於テハ船舶ノ帆走ヲ爲スヘカラス

第五章 罰 則

第三類 河 川 水路取締規則

一九五

第三類 河 川 水路取締規則 河川法施行ノ河川又ハ河川法ニ規 一九六
定シタル河川ニ於ケル渡船營業ノ件 渡船營業取締規則

- 第三十四條 第三條第八號、第六條、第八條及第九條ニ違背シタル者及第十六條第一項ノ除却ヲ怠リタル者ハ三十日未滿ノ拘留又ハ二十圓未滿ノ料料ニ處ス
- 第三十五條 第二條第一號乃至第七號、第九號乃至第十一號、第三條第一號乃至第七號、第四條、第五條、第七條、第十條第一項、第二十八條、第二十九條、第三十三條ニ違背シタル者ハ二十日以下ノ拘留又ハ十五圓以下ノ料料ニ處ス
- 第三十六條 第二條第八號、第十九條ニ違背シタル者ハ十圓以下ノ料料ニ處ス
- 第三十七條 前三條ノ料料ニ關スル罰則ハ法人ニ在リテハ其ノ代表者、犯罪無能力者ニ在リテハ其ノ法定代理人ニ之ヲ適用ス

◎河川法施行ノ河 又ハ河川法ニ規定シタル河川ニ於ケル渡船營業ノ件
(明治三十四年六月二十四日)
府令 第九十四號

河川法施行ノ河川又ハ河川法ニ規定シタル事項ヲ準用セシ河川ニ於ケル渡船營業ニ付テハ明治二十四年大阪府令第七十四號渡船營業規則ヲ準用ス但シ從前渡船營業ノ許可ヲ受ケタル者ハ本令ニ依リ許可ヲ受ケタルモノト看做ス

◎渡船營業取締規則 (明治四十四年三月十六日)
府令 第二十一號

第一條 渡船營業ヲ爲サムトスル者ハ左記各號ヲ具シ當廳ニ願出許可ヲ受ケヘシ其ノ事項ヲ變更

- 一 渡船場ノ名稱並渡船乗降場ノ位置
- 二 渡船線路ノ常水面ニ於ケル幅員並水流ノ狀況
- 三 渡船乗降場ノ構造設備並乗降場及其ノ附近ノ見取圖
- 四 營業時間
- 五 船數及船夫數
- 六 渡船賃
- 七 渡船賃一ケ年ノ收入見込額
- 八 渡船止ニ關スル制限
- 九 渡船場使用許可書若ハ承諾書
- 十 二十町以内ニ渡船場アルトキハ其ノ距離
- 十一 渡船場ヲ設置セムトスル理由
公安又ハ風俗ヲ害スルノ虞アリト認ムルトキハ前項ノ許可ヲ取消シ又ハ許可シタル事項ノ變更ヲ命スルコトアルヘシ
- 第十二條 營業者ノ住所氏名ニ異動アルトキハ五日以内ニ當廳ニ届出ヘシ
- 第十三條 渡船場ニハ兩岸見易キ場所ニ第一號様式ノ渡船場標及第二號様式ノ賃錢標ヲ建設スヘシ但シ橋梁架換又ハ修繕中其ノ他一時限リノモノハ渡船場標ヲ建設セサルモ妨ケナシ
- 第十四條 水量ニ依リ渡船賃ヲ變更シ若ハ渡船止ヲ爲スモノニ在リテハ第三號様式ノ量水標ヲ建設スヘシ

第三類 河 川 渡船營業取締規則

第五條 量水標及貨錢標ハ建設前警察官署ニ届出檢印ヲ受クヘシ

第六條 渡船ノ用ニ供スル船體ハ使用前警察官署ニ届出檢印ヲ受ク爾後毎年一回指定ノ日時ニ檢印ヲ受クヘシ

前項船體ノ使用ヲ廢止シタルトキハ五日以内ニ届出消印ヲ受クヘシ

第七條 警察官署ニ於テ必要ト認ムルトキハ何時ニテモ船體船具ノ檢査ヲ行ヒ又ハ渡船乗降場若ハ船體船具ノ改造修繕ヲ命スルコトアルヘシ

第八條 乗客定員及貨物ノ積載定量ハ船體毎ニ之ヲ定メ警察官署ノ認可ヲ受クヘシ其ノ之ヲ變更セムトスルトキ亦同シ

前項ノ定員及定量ハ船内見易キ場所ニ揭示シ置クヘシ

第九條 船夫タラムトスル者ハ警察官署ニ届出鑑札ヲ受ケ就業中之ヲ顯帶スヘシ
公安又ハ風俗ヲ害スルノ虞アリト認ムルトキハ警察官署ニ於テ前項鑑札ノ返納ヲ命スルコトアルヘシ

第十條 前條ノ鑑札面ニ異動ヲ生シタルトキハ五日以内ニ届出書換ヲ受クヘシ

第十一條 左記各號ノ資格ナキ者ハ船夫タルコトヲ得ス

- 一 滿十八年以上六十年未滿ノ男子ニシテ身體強健ナル者
- 二 渡船操縦ノ技ニ熟シタル者

第十二條 渡船ハ使用中第四號様式ノ標旗ヲ樹テ夜間ハ渡船乗降場及船内ニ點燈スヘシ

第十三條 名義ノ如何ヲ問ハス許可以外ノ貨錢ヲ請求スヘカラス

第十四條 左ニ掲クル者ニ對シ渡船賃ヲ請求スヘカラス

一 充員並應召ノ陸海軍人及召集令狀配達人

二 公務中ノ憲兵、警察官吏並消防官吏

三 公務中ノ消防夫

四 犯人追跡中ノ司獄官吏並市内ニ於テハ其ノ市所屬ノ掃除監視吏員

五 法令ニ依リ身體ノ自由ヲ拘束セラレタル者及其ノ押送者

第十五條 船夫ハ左記各號ヲ遵守スヘシ

一 強テ乗船ヲ勸メ又ハ徒ニ乗客ヲ待セ置キ若ハ故ナク渡船ヲ拒ミ其ノ他操船上怠慢ノ行爲アルヘカラス

二 乗客ノ迷惑ト爲ルヘキ物件ヲ積載シ又ハ船内ヲ不潔ニスヘカラス

三 定限外ノ乗客及貨物ヲ積載スヘカラス

第十六條 左ノ場合ニ於テハ當廳ノ許可ヲ受クヘシ但シ第三號ノ場合ニ於テハ双方連署ヲ要ス若シ連署シ能ハサルトキハ其ノ事由ヲ附記スヘシ

一 期間經過後營業ヲ繼續セムトスルトキ

二 期限内ニ營業ヲ廢止セムトスルトキ

三 他人ノ營業ヲ承繼セムトスルトキ

第十七條 天候不良其ノ他止ムヲ得サル場合ノ外許可時間中渡船ヲ休止スルコトヲ得ス

第十八條 臨時必要ノ爲渡船場ヲ設置セムトスルトキハ警察官署ノ許可ヲ受クヘシ

第十九條 警察官署ニ於テ必要ト認ムルトキハ渡船ノ停止ヲ命シ若ハ營業時間外ノ渡船ヲ命スルコトアルヘシ

第三類 河 川 渡船營業取締規則

1100

- 第二十條 營業上ニ關シテハ家族又ハ雇人ノ行爲ト雖營業者其ノ責ニ任スヘシ
- 第二十一條 本則第一條乃至第三條、第六條乃至第十二條、第十五條乃至第十九條、第二十二條乃至第二十四條ノ規定ハ非營業ノ渡船ニ之ヲ準用ス
- 第二十二條 本則ニ依ル願届ハ大阪市及其ノ接續町村ニ在リテハ水上警察官署其ノ他ニ在リテハ沿岸地所轄警察官署ニ提出スヘシ
- 第二十三條 本則第一條、第六條、第八條、第九條、第十三條、第十五條乃至第十八條ニ違背シタル者又ハ第七條ノ檢査ヲ拒ミ若ハ第七條、第十九條ノ命ニ從ハサル者ハ三十日未滿ノ拘留又ハ二十日未滿ノ科料ニ處ス
- 第二十四條 第二條乃至第五條、第十條、第十二條、第十四條ニ違背シタル者ハ十五日以下ノ拘留又ハ十圓以下ノ科料ニ處ス
- 第二十五條 前二條ノ科料ニ關スル罰則ハ法人ニ在リテハ其ノ代表者又ハ清算人、犯罪無能力者ニ在リテハ其ノ法定代理人ニ之ヲ適用ス

附 則

- 第二十六條 從來許可ヲ受ケタル渡船場ハ本則ニ依リ許可ヲ受ケタルモノト看做ス
- 第二十七條 明治二十四年大阪府令第七十四號ハ本則施行ノ日ヨリ之ヲ廢止ス

◎河川使用料規程

(明治四三年五月二七日 大阪市告示第四五號)

改(大正三年四月告示第三二號、七年四月同第三五號) 正(九年四月同第四九號、一一年五月同第四六號)

- 第一條 本市内川中ノ使用又ハ河川法ニ規定シタル事項ヲ準用セル河川占用ノ許可ヲ受ケタルモノニ對シテハ此ノ規程ニ據リ使用料若クハ占用料ヲ徵收スヘシ
- 第二條 使用料及占用料ハ別表ノ區分ニ依リ徵收スヘシ
- 第三條 使用料又ハ占用料徵收期左ノ如シ
 - 一 年ヲ以テ使用又ハ占用ヲ許可シタルモノハ左ノ二期ニ徵收ス

第一期	其 年	四月ヨリ 九月マテ	其 年	四月一日ヨリ 四月十五日限
第二期	其 年	十月ヨリ 三月マテ	其 年	十月一日ヨリ 同月十五日限
 - 二 月又ハ日ヲ以テ使用又ハ占用ヲ許可シタルモノハ其許可ノ日ヨリ十日以内ニ全額ヲ徵收ス
- 第四條 公益ノ爲メ使用又ハ占用スルモノニ對シテハ市參事會ニ於テ特ニ其料金を輕減又ハ免除スルコトアルヘシ

附 則

- 第五條 明治二十四年五月本市告示第十六號川中使用料徵收法ハ本規程施行ノ日ヨリ廢止ス
- 第三類 河 川 河川使用料規程

二〇一

第三類 河川 河川使用料規程

(別表)

等級	河川名	河川使用及占用料 (一坪年額)			
		諸廣告	料理船	物置場、工作物掛出、工作物施設	遊船、貯藏、及居住、洗濯、回漕、修繕、造解、諸船業、スル諸船外、以上ノ列記外
一	道頓堀川、深里橋上流、西横、京町橋、二	二八、〇〇〇	一四、〇〇〇	一〇、〇〇〇	八、〇〇〇
二	堀川、以外、東横堀川、	三三、五〇〇	一〇、〇〇〇	七、〇〇〇	五、五〇〇
三	江戶川、百間、阿波川、	一七、〇〇〇	八、〇〇〇	五、五〇〇	四、〇〇〇
四	阿波川、岡崎橋、下流、	三三、五〇〇	五、五〇〇	三、五〇〇	三、〇〇〇

11011

等級	河川名	諸廣告	料理船	物置場、工作物掛出、工作物施設	遊船、貯藏、及居住、洗濯、回漕、修繕、造解、諸船業、スル諸船外、以上ノ列記外
五	天満川、初寺橋、上流、高津、	八、五〇〇	四、〇〇〇	三、〇〇〇	二、〇〇〇
六	猫間川、三萬歳橋、上流、	五、五〇〇	三、〇〇〇	二、〇〇〇	一、〇〇〇

使用又ハ占用ノ期間一箇年未滿ハ一箇月ニ付年額ノ十分ノ一、一箇月未滿ハ一日ニ付月額ノ二十分ノ一トス

一箇年又ハ一箇月ニ滿タサルモノニシテ料金ノ總額カ一箇年分又ハ一箇月分ヲ超過スルモノハ之ヲ年額又ハ月額ニ止ム

一箇年又ハ一箇月ヲ超過スルモノニシテ年又ハ月ニ滿タサル端數アルトキハ其ノ端數ニ對シテハ前二項ノ例ニ依ル

諸廣告ノ爲メ使用又ハ占用スルモノニシテ其廣告板ノ面積カ敷地ノ面積ヨリ廣キトキハ廣告板ノ面積ニ依ル前項廣告板ノ面積ハ利用セラレタル各面ノ面積ヲ加算シタルモノヲ謂フ

◎曳船道使用料及徵收方 (明治四二年四月二二日大阪市參事會議決)

改正(大正九年四月、同一一年一月)

第三類 河川 河川使用料規程 曳船道使用料及徵收方 11011

第三類 河 川 曳船道使用料及徴收方

二〇四

曳船道使用料別表ノ通増額ノ儀本年五月二十六日付ヲ以テ其ノ筋ヨリ認可相成候條認可ノ日ヨリ日割計算ヲ以テ増徴スルコトニ御取計相成度此段及通牒候也
曳船道使用料

等級	年坪料金	所 屬 河 川
一 等	二、〇〇〇 ^円	道頓堀川(深里橋上流)、西横堀川(信濃橋上流京町橋ニ至ル)
二 等	八、五〇〇	道頓堀川(深里橋下流)、西横堀川(一等以外)、東横堀川、長堀川、京町堀川
三 等	七、〇〇〇	江戸堀川、阿波堀川(岡崎橋上流)、百間堀川(江之子鳥橋上流)、立賣堀川、堀江川、海部堀川
四 等	五、五〇〇	阿波堀川(岡崎橋下流)、百間堀川(江之子鳥橋下流)、薩摩堀川、曾根崎川、高津入堀川、古川
五 等	四、〇〇〇	鉢江川(野田橋下流)
六 等	三、〇〇〇	同 (野田橋上流)

料金徴收ニ關シテハ河川使用料規程ヲ準用ス

第四類 運 河

運 河 法

(大正二年四月 法律第一六號) 改(大正四年一月 法律第三號)

第一條 一般運送ノ用ニ供スル目的ヲ以テ運河ヲ開設セムトスル者ハ内務大臣ノ免許ヲ受クヘシ

第二條 免許ヲ受ケタル者ハ内務大臣ノ指定シタル期限内ニ工事設計ノ認可ヲ地方長官ニ申請スヘシ

第三條 國、公共團體又ハ行政廳ノ許可ヲ受ケタル者ニ於テ運河ニ接続若ハ接近シ又ハ之ヲ横斷シテ河川、溝渠、道路、橋梁、鐵道、軌道其ノ他公共ノ用ニ供スルモノヲ造設スルモ免許ヲ受ケタル者ハ運河ノ效用ニ妨ナキ限り之ヲ拒ムコトヲ得ス
前項ノ場合ニ於テ内務大臣又ハ地方長官ハ公益上必要ト認ムルトキハ免許ヲ受ケタル者ニ命シ接続、横斷ノ場所ニ於ケル設備ヲ共用ニ供セシメ又ハ之ヲ變更セシムルコトヲ得

第四條 前條第一項ノ場合ニ於テ運河ノ效用ニ妨アリヤ否ニ付争アルトキ又ハ同條第二項ノ場合ニ於テ設備ノ共用若ハ變更ニ要スル費用ノ負擔ニ付協議調ハサルトキハ地方長官之ヲ決定ス其ノ決定ニ不服アル者ハ内務大臣ニ訴願スルコトヲ得

第四類 運 河 運 河 法

二〇五

第五條 工事カ其ノ設計又ハ免許、許可若ハ認可ノ條件ニ違反スルトキハ地方長官ハ其ノ改築、除却又ハ停止ヲ命スルコトヲ得

第六條 工事ノ全部又ハ一部竣功シ運送ヲ開始セムトスルトキハ地方長官ノ許可ヲ受クヘシ

第七條 免許ヲ受ケタル者ハ通航料其ノ他運河使用ニ關スル規程ヲ定メ地方長官ノ認可ヲ受クヘシ

第八條 地方長官ニ於テ公益上必要ト認ムルトキハ前項ノ規程ノ變更ヲ命スルコトヲ得

第九條 內務大臣又ハ地方長官ハ免許ヲ受ケタル者ニ對シ運河及附屬物件ノ維持修繕ヲ命シ其ノ他公益上必要ナル處分ヲ爲スコトヲ得

第十條 運河及附屬物件ハ免許ノ效力存續スル間及其ノ效力消滅後一年間ハ內務大臣ノ許可ヲ受クルニ非サレハ之ヲ讓渡シ又ハ擔保ニ供スルコトヲ得ス

第十一條 株式會社又ハ株式合資會社カ事業經營者タル場合ニ於テハ株式ノ第一回拂込金額ハ株金ノ十分一迄下ルコトヲ得

第十二條 左ニ掲クルモノヲ以テ運河用地トス

- 一 水路用地及運河ニ屬スル道路、橋梁、堤防、護岸、物揚場、繫船場ノ築設ニ要スル土地

二 運河用通信、信號ニ要スル土地

三 上屋、倉庫等ノ建設ニ要スル土地

四 運河ニ要スル船舶、器具、機械ヲ修理製作スル工場ノ建設ニ要スル土地

五 職務上常住ヲ要スル運河從事員ノ舍宅及從事員ノ駐在所等ノ建設ニ要スル土地

前項第三號乃至第五號ニ掲クル土地ハ運河ニ沿ヒタルモノニ限ル

第十三條 明治四十二年法律第二十八號ハ運河ノ抵當ニ之ヲ準用ス

第十四條 運河財團ハ左ニ掲クルモノニシテ運河財團ノ所有者ニ屬スルモノヲ以テ之ヲ組成ス

一 水路其ノ他ノ運河用地及其ノ上ニ存スル工作物並之ニ屬スル器具、機械

二 工場、上屋、倉庫、事務所、舍宅及其ノ敷地並之ニ屬スル器具、機械

三 運河用通信、信號ニ要スル工作物及其ノ敷地並之ニ屬スル器具、機械

四 前三號ニ掲クル工作物ヲ所有シ又ハ使用スル爲他人ノ不動產ノ上ニ存スル地上

權、登記シタル賃借權及前三號ニ掲クル土地ノ爲ニ存スル地役權

五 運河ニ要スル船舶並之ニ屬スル器具、機械

六 運河ノ維持修繕ニ要スル材料及器具、機械

第十五條 國又ハ公共團體ハ免許ノ效力消滅シタル後運河開設ニ要シタル費用ヲ支拂

ヒ其ノ運河及附屬物件ヲ買收スルコトヲ得但シ運河及附屬物件ニシテ開設當時ニ比シ價格ヲ減損シタルモノアルトキハ開設ニ要シタル費用ヨリ之ヲ控除ス

前項費用ノ範圍及金額ニ付協議調ハサルトキハ地方長官之ヲ決定ス其ノ決定ニ不服アル者ハ内務大臣ニ訴願スルコトヲ得

第十六條 國又ハ公共團體ニ於テ必要ト認ムルトキハ免許年限ノ滿了前ト雖運河及附屬物件ヲ買收スルコトヲ得

前項ノ買收價格ニ付協議調ハサルトキハ鑑定人ノ意見ヲ徵シ地方長官之ヲ決定ス其ノ決定ニ不服アル者ハ内務大臣ニ訴願スルコトヲ得

第十七條 左ニ掲クル場合ニ於テハ免許ヲ取消スコトヲ得

一 法令又ハ法令ニ基キテ爲ス處分ニ違反シタルトキ

第十八條 工事竣功前免許ノ效力消滅シタル場合ニ於テハ地方長官ハ免許ヲ受ケタル者ニ對シ原狀ノ回復其ノ他必要ナル措置ヲ命スルコトヲ得

第十九條 前二條ノ場合ニ於テ同一路線ニ當リ運河ノ開設ヲ免許セラレタル者ハ運河及附屬物件ヲ買收スルコトヲ得

前項ノ買收價格ニ付協議調ハサルトキハ第十六條第二項ノ規定ニ依ル本條ノ規定ハ運河財團ニ屬スルモノニハ之ヲ適用セス

附則

第二十條 本法施行ノ期日ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

第二十一條 本法施行前免許ヲ受ケタル運河ニ關シ本法ヲ適用スヘキ範圍ハ内務大臣之ヲ定ム

第二十二條 本法ノ適用ヲ受ケル運河ノ用地ニシテ免許條件ニ依リ官有ニ歸屬シタルモノハ之ヲ運河經營者ニ下付スルコトヲ得

◎運河法施行期日ノ件 (大正二年十一月二十五日勅令第三〇五號)

運河法ハ大正二年十二月一日ヨリ之ヲ施行ス

◎運河法施行規則 (大正二年十一月二十八日) 改(大正七年四月) 正(内務省令第七號)

- 第一條 運河開設免許ノ申請書ニハ左ノ書類及圖面ヲ添附スヘシ
 - 一 起業目論見書
 - 二 運河豫測圖
 - 三 開設費概算書
 - 四 事業上ノ收支概算書
 - 五 組合事業ニ在リテハ其ノ組合契約書ノ謄本
 - 六 會社發起人ニ在リテハ定款ノ謄本
 - 七 會社ニ在リテハ其ノ會社ノ登記及定款ノ謄本並運河事業經營ニ關スル株主總會ノ決議錄若
- 第四類 運河 運河法施行期日ノ件 運河法施行規則 二〇九

第四類 運 河 運河法施行規則

1110

ハ總社員ノ同意書ノ附本

八 公共團體ニ在リテハ其ノ團體ノ運河事業經營ニ關スル決議書ノ附本

第二條 起業目論見書ニハ左ノ事項ヲ記載スヘシ

一 起業ノ目的及理由

二 運河ノ名稱及主タル事務所設置地

三 事業資金ノ總額及財源

四 運河ノ起點、終點及經過地名

五 運河ノ延長、底幅及水深(里町間尺ヲ以テ示スヘシ)

六 運河ヲ通航スヘキ最大舟筏ノ長、幅及吃水並航行ノ方法

七 工事施行期間

八 事業經營期間

第三條 運河豫測圖ハ左ノ三種トス

一 平面圖

縮尺ハ二萬分一以上トシ運河ノ中心線、開門、水門、隧道、物揚場、乘降場、繫船場、船溜、待避場等ノ位置並附近ノ鐵道、軌道、重要ナル道路、水流、水面等ノ位置及名稱ヲ記載シ運河中心線ノ距離ハ六町毎ニ記入スヘシ

二 縱斷面圖

縮尺ハ距離ヲ二萬分一以上、高ヲ二百分一以上トシ地盤及運河底數ノ高位、諸水位(成ルヘク陸地測量部水準基線ニ據ルヘシ)並平面圖ニ示シタル各種工作物ノ位置ヲ記載シ距離ハ六

町毎ニ記入スヘシ

三 橫斷定規圖

縮尺ハ二百分一以上トシ縱橫ノ各寸法ヲ記入スヘシ
運河豫測圖ニハ運河經過地ノ地勢、水路選定ノ理由並運河及附近ノ鐵道、軌道、重要ナル道路、水流、水面、社寺、公園、名勝、舊蹟等トノ關係ヲ説明シタル書類ヲ添付スヘシ

第四條 開設費概算書ニハ其ノ總額ヲ測量費、監督費、用地費、土工費、開門費、水門費、隧道費、橋梁費、通信信號設備費、建物費、船舶費、器具機械費、總係費等ノ各項ニ分チ數量及金額ヲ記載スヘシ

第五條 事業上ノ收支概算書ニハ收入及支出ノ總額、内譯並其ノ計算ノ基ク所ヲ示シ且事業資金ニ對スル純益ノ割合ヲ記載スヘシ

第六條 工事設計認可ノ申請書ニハ左ノ書類及圖面ヲ添付スヘシ

一 運河實測圖

二 構造圖

三 工事説明書

四 土坪計算書

五 開設費豫算書

第七條 運河實測圖ハ左ノ三種トス

一 平面圖

縮尺ハ三千分一以上トシ運河ノ中心線、曲線ノ半徑及交角、運河用地ノ境界、水路、開門、水門、隧道、道路、曳船道、堤防、物揚場、繫船場、船溜、待避場、上屋、倉庫、工場、倉

第四類 運 河 運河法施行規則

1111

第四類 運 河 運河法施行規則

二二二

宅、駐在所、通信所、信號所等及之ニ要スル土地ノ區劃、用地以外左右各百間以内ノ地勢、附近ノ市街、村落、鐵道、軌道、道路、水流、水面、社寺、公園、名勝、舊蹟等及其ノ名稱、運河開設ニ伴ヒ鐵道、軌道、道路、水流、水面等ヲ變換スル爲施設スヘキ工作物、府、縣、郡、市、區、町、村ノ境界及方位ヲ記載シ運河中心線ノ距離ハ一町毎ニ記入スヘシ

二 縱斷面圖

縮尺ハ距離ヲ平面圖ト同一ニシ高チニ百分一以上トシ地盤運河底敷及兩岸堤防ノ高位、諸水位(成ルヘク陸地測量部水準基線ニ據ルヘシ)並平面圖ニ示シタル各種工作物ノ位置ヲ記載シ距離ハ一町毎ニ記入スヘシ

三 橫斷面圖

縮尺ハ百分一以上トシ一町毎ニ調製スヘシ但シ水路幅員ノ異ナル箇所ニ付テハ其ノ斷面ヲ示スヘシ

第八條 構造圖ハ左ノ二種トス

- 一 護岸、閘門、水門、隧道、曳船道、堤防、物揚場、乗降場、繫船場、船溜、待避場、通信所、信號所等ノ構造圖
- 二 運河開設ニ伴ヒ鐵道、軌道、道路、水流、水面等ヲ變換スル爲施設スヘキ橋梁、伏越其ノ他ノ工作物ノ構造圖

前項第二號ノ構造圖ニハ運河ト新舊工作物トノ關係ヲ明ニシタル平面圖及斷面圖ヲ添附スヘシ

第九條 工事説明書ニハ水路測定ノ理由、運河實測圖及構造圖ニ示シタル各工事設計ノ要領、工事施行ノ順序、作業方法、掘鑿及淺濠土砂處分方法等ヲ記載スヘシ

第十條 土坪計算書ニハ一町毎(地盤ノ起伏甚シキカ又ハ幅員ニ廣狹アルトキハ仍其箇所毎)ニ橫斷面ヲ取リ其ノ番號、距離、平積、立積ヲ記載シ土質ヲ區別シテ切取、盛土ノ數量ヲ示スヘシ

第十一條 開設費豫算書ニハ第四條記載ノ各項ヲ目ニ分チ各其ノ數量、金額及内譯ヲ示スヘシ

第十二條 免許ヲ受ケタル者會社發起人ナルトキハ會社成立ノ後ニ非サレハ工事設計ノ認可ヲ申請スルコトヲ得ス

第十三條 指定ノ期限内ニ工事設計ノ認可ヲ申請スルコト能ハサルトキハ正當ノ事由アル場合ニ限り期限ノ伸長ヲ許可スルコトアルヘシ

第十四條 免許ヲ受ケタル者ハ工事設計ノ認可ヲ得タル日ヨリ六箇月内ニ工事ニ着手シ指定ノ期限内ニ之ヲ竣功スヘシ但シ正當ノ事由ニ依リ期限内ニ着手又ハ竣功スルコト能ハサルトキハ期限ノ伸長ヲ許可スルコトアルヘシ

第十五條 工事ニ着手シ又ハ竣功シタルトキハ遲滞ナク地方長官ニ届出ツヘシ

第十六條 免許ヲ受ケタル者ハ地方長官ノ許可ヲ受クルニ非サレハ全部又ハ一部ノ通航ヲ停止スルコトヲ得ス

第十七條 免許ヲ受ケタル者ハ每事業年度後一箇月内ニ事業報告書ヲ地方長官ニ提出スヘシ

第十八條 運河法第四條、第十五條第二項、第十六條第二項又ハ第十九條第二項ニ依ル決定ノ申請書ハ正副二通ヲ作成シ左ノ事項ヲ記載スヘシ

一 當事者ノ表示

第四類 運 河 運河法施行規則

二二三

第四類 運 河 運河法施行規則

二一四

二 申請ノ目的及理由

三 協議ノ願末

第十九條 前條ノ申請書ヲ受理シタル地方長官ハ其ノ副本ヲ相手方ニ送付シ一定ノ期限内ニ答辯

書ヲ提出セシムヘシ

指定ノ期限内ニ答辯書ヲ提出セサルトキハ地方長官ハ申請書ノミニ依リテ決定ヲ爲スコトヲ得

副本ノ交付ヲ爲スコト能ハサルトキ亦同シ

第二十條 決定ハ理由ヲ附シタル文書ヲ以テ之ヲ爲シ當事者雙方ニ送付スヘシ

第二十一條 左ノ場合ニ於テハ遲滯ナク内務大臣ニ届出ツヘシ

一 免許申請者又ハ免許ヲ受ケタル者其ノ氏名若ハ住所ヲ變更シ又ハ死亡シタルトキ

二 會社成立シ又ハ解散シタルトキ

三 定款又ハ組合契約ヲ變更シタルトキ

四 本則第二條第二號及第三號ニ記載シタル事項ヲ變更シタルトキ

五 事業ヲ廢止シタルトキ

第二十二條 本則ニ依リ内務大臣ニ提出スル書類ハ總テ副本ヲ作成シ運河開設地ノ地方長官ヲ經

由スヘシ

附 則

第二十三條 本則ハ運河法施行ノ日ヨリ之ヲ施行ス(大正二年十二月一日ヨリ施行)

第二十四條 運河法施行前免許ヲ受ケタル運河ニシテ免許ノ條件ニ因リ免許年限滿了後官有ニ歸

スヘキモノニ付テハ運河法第十五條以外ノ規定ヲ、其ノ他ノモノニ付テハ運河法ノ規定全部

ヲ適用ス

第二十五條 運河法ニ依リ許可若ハ認可ヲ受ケヘキ事項ニシテ其ノ施行ノ際既ニ許可若ハ認可ヲ

受ケタルモノハ運河法ニ依リ許可若ハ認可ヲ受ケタルモノト看做ス

第二十六條 運河法第二十二條ニ依リ運河用地ノ下付ヲ受ケムトスル者ハ内務大臣ニ申請スヘシ

第四類 運 河 運河法施行規則

二一五

第五類 水道及下水道

水道條例

(明治二十三年二月十三日) 法律第九號

改(明治四十四年三月法律第四三號、大正二年四月同第一五號、十年四月八日同第五六號)

第一條 水道トハ市町村ノ住民ノ需要ニ應シ給水ノ目的ヲ以テ布設スル水道ヲ云ヒ水道用地トハ水源地、貯水地、濾水場、唧水場及水道線路ニ要スル地ヲ云フ

第二條 水道ハ市町村其公費ヲ以テスルニ非サレハ之ヲ布設スルコトヲ得ス但當該市町村ニ於テ其資力ニ堪ヘサルトキハ市町村以外ノ企業者ニ水道ノ布設ヲ許可スルコトアルヘシ

第三條 市町村ニ於テ水道ヲ布設セントスルトキハ命令ノ定ムル所ニ依リ其目論見書ニ左ノ事項ヲ詳記シ地方長官ヲ經テ内務大臣ノ認可ヲ受クヘシ

第一 水道事務所ノ所在地

第二 水源ノ位置 河川池湖又ハ堀井及其水量ノ概算但圖面及水質ノ試驗表ヲ添フヘシ

第三 水道線路及水道線路ニ沿フタル地名貯水地、濾水場、唧水場ノ位置但圖面ヲ添フヘシ

第四 給水ノ區域其人口及其一人一日ニ對スル平均給水量

第五類 水道及下水道 水道條例

第五類 水道及下水道 水道條例

三二八

第五條 人口増殖及多量ノ水ヲ用フル製造場等ニ對スル給水量増加ノ見込

第六條 水壓ノ概算

第七條 工事方法

第八條 起工並竣工期限

第九條 工費ノ總額其收入支出ノ方法及其豫算

第十條 水料ノ等級、價格、水料徴收ノ方法及經常收支ノ概算

市町村ニ非サル企業者ニ在リテハ前掲各號ノ外企業ノ組織、資本ノ總額及許可年限ヲ記載スヘシ

第四條 内務大臣ハ前條ノ圖面書類ヲ審査シ不都合ナシト認ムルトキハ水道布設ノ認可狀又ハ許可書ヲ與フヘシ

市町村ニ非サル企業者ノ出願ニ對シテハ内務大臣ハ必要ト認ムル事項ヲ許可書ニ附シテ命令スルコトヲ得

第五條 水道用地ハ國稅其他ノ公課ヲ免除ス

第六條 官有ノ土地ニシテ水道用地ニ必要ナルモノハ之ヲ拂下ケ又ハ貸付スヘシ

第七條 水管ヲ官有地又ハ公道ノ地下ニ布設セントスルトキハ當該行政廳ノ許可ヲ受クヘシ

第八條 地方長官ハ隨時當該官吏又ハ技術官ヲ派遣シテ水道工事及水質水量ヲ検査セシメ其改築修理ヲ要シ又ハ水質不良、水量不足ナリト認ムルトキハ相當ノ猶豫期日

ヲ定メテ之カ改良ヲ市町村ニ命スヘシ

第九條 市町村ハ工事落成又ハ改築修理ヲ了リタルトキハ地方官廳ニ届出監査ヲ受クヘシ

第十條 水道ノ給水ヲ受クル者ハ水質水量ノ検査ヲ市町村長ニ請求スルコトヲ得

第十一條 家屋内ノ給水用具及本支水管ヨリ之ニ接続スル細管ハ市町村ノ所定ニ從ヒ之ヲ設置シ其費用ハ水道ノ給水ヲ受クル家主ノ負擔トス但市町村ハ命令ノ定ムル所ニ依リ之ヲ設置シ其費用ヲ負擔スルコトヲ得

第十二條 市町村ノ水道掛ハ午前八時ヨリ午後五時迄ノ内ニ於テ家屋内ノ給水用具ヲ検査スルコトヲ得但水道掛ハ其證票ヲ携帯スヘシ

第十三條 市町村長ハ水道掛ノ報告ニ依リ家屋内ノ給水用具不完全ナリト認ムルトキハ相當ノ猶豫期日ヲ定メテ之カ修繕ヲ爲サシムヘシ

第十四條 家主若シ其修繕ヲ怠ルトキハ市町村ニ於テ之ヲ修繕シ其費用ヲ徴收スルコトヲ得

第十五條 家主ハ家屋内給水用具ノ設置又ハ其修繕ヲ了リタルトキハ市町村ノ水道掛ニ届出ツヘシ水道掛ハ速ニ之ヲ検査スヘシ

第十六條 市町村ハ消防用ノ爲メニ消火栓ヲ設置スヘシ消防用ニ消費シタル水ハ水料ヲ徴收スヘカラス

第五類 水道及下水道 水道條例

二二九

第五類 水道及下水道 水道條例

第十七條 市町村ニ非サル企業者ノ布設シタル水道ニシテ許可年限ノ滿了シタル後ハ關係市町村ハ水道布設ニ要シタル費用ヲ支拂ヒ其水道及水道經營ニ必要ナル土地物件ヲ買收スルコトヲ得但水道及水道經營ニ必要ナル土地物件ニシテ布設當時ニ比シ價格ヲ減損シタルモノアルトキハ水道布設ニ要シタル費用ヨリ之ヲ控除ス
前項費用ノ範圍及金額ニ關シ當該市町村ト企業者トノ間ニ爭アルトキハ地方長官之ヲ決定ス其決定ニ不服アル者ハ内務大臣ニ訴願スルコトヲ得

第十八條 市町村ニ非サル企業者ノ布設シタル水道ニシテ關係市町村ニ於テ必要ト認ムルトキハ許可年限ノ滿了前ト雖之ヲ買收スルコトヲ得
前項ノ買收價格ハ協議ニ依リ之ヲ定ム協議調ハサルトキハ鑑定人ノ意見ヲ徵シ地方長官之ヲ決定ス其決定ニ不服アル者ハ内務大臣ニ訴願スルコトヲ得

第十九條 本法又ハ本法ニ基キテ發スル命令ニ依リ市町村又ハ市町村ニ非サル企業者ニ於テ履行スヘキ事項ヲ履行セス又ハ之ヲ履行スルモ充分ナラスト認ムルトキ又ハ必要ノ時限内ニ履行シ得スト認ムルトキハ地方長官ハ府縣費ヲ以テ之ヲ施行シ其費用ヲ市町村又ハ市町村ニ非サル企業者ヨリ之ヲ追徵スルコトヲ得
前項ノ處分ハ豫メ履行期間ヲ指定シテ戒告スルニ非サレハ之ヲ爲スコトヲ得但第八條ノ場合ハ此ノ限ニ在ラス

第二十條 市町村ニ非サル企業者ニシテ前條ノ費用ヲ指定ノ期限内ニ納付セザルトキハ國稅徵收ニ關スル規定ニ依リ之ヲ徵收ス

第二十一條 内務大臣ハ必要ト認ムルトキハ水道ノ布設ヲ市町村ニ命スルコトヲ得

第二十二條 本法中市又ハ市長トアルハ〔北海道區制又ハ沖繩縣區制ニ依ル區ニ在リテハ區又ハ區長〕トシ府縣費トアルハ北海道ニ在リテ北海道地方費トス

第二十三條 本法ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

第二十四條 本法施行ノ期日ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム (大正十年八月一日ヨリ施行)

第二十五條 水道條例第三條及第十一條但書ノ規定ニ依ル命令ニ關スル件 (大正十年七月十九日 内務省令第二二號)

第二十六條 水道條例第三條ニ規定スル目論見書ニ添附スヘキ水質ノ試驗表ニハ左ノ事項ニ關スル試驗ノ結果ヲ記載スヘシ

一 色及清濁

二 臭味

第五類 水道及下水道 水道條例第三條及第十一條但書ノ規定ニ依ル命令ニ關スル件

二二二

第五類 水道及下水道 水道條例第三條及第十一條但書ノ規定ニ依ル 二二三
命令ニ關スル件

- 三 沈滓
 - 四 反應
 - 五 亞硝酸
 - 六 アムモニア
 - 七 過マンガン酸カリウム消費量
 - 八 クロール
 - 九 硝酸硬度
 - 十 蒸發殘渣
 - 十一 細菌聚落數
 - 十二 前項各號ニ掲クルモノノ外異常成分混在ノ疑アルトキハ特ニ其ノ試驗ノ結果ヲ記載スベシ
- 第二條 水道條例第三條ニ規定スル目論見書ニハ工事方法ニ關スル左ノ圖面及書類ヲ添附スベシ
- 一 實測平面圖 縮尺六千分一以上
 - 二 實測縱斷面圖 縮尺長六千分一以上高二百分一以上但シ配水管ニ限リ本圖ヲ省略スルコトヲ得
 - 三 取水口、取水管又ハ取水渠、隧道、沈砂池、貯水池、堰堤、餘水路、排泥管又ハ排泥渠、送水管又ハ送水渠、沈澱池、濾水池、殺菌裝置、配水池、配水塔、唧水場、量水室、配水管又ハ配水渠、橋梁、伏越等水道設備ノ構造ニ關スル圖面其ノ他必要ナル細分圖 縮尺百分一以上
 - 四 取水量決定ノ理由書
 - 五 一位代價表

六 工費計算書
七 計畫說明書

- 第三條 實測平面圖ニハ郡市區町村ノ名稱及境界、道路、河川、視形線其ノ他地形ヲ表スニ必要ナルモノ、取水管又ハ取水渠、隧道、沈砂池、貯水池、堰堤、餘水路、排泥管又ハ排泥渠、送水管又ハ送水渠、沈澱池、濾水池、殺菌裝置、配水池、配水塔、唧水場、量水室、配水管又ハ配水渠、橋梁、伏越、排氣管、消火栓、制水弁、配水區劃等ヲ記載スヘシ但シ管又ハ渠ニ付其ノ徑又ハ幅員ノ異ナルモノハ適宜ノ符號ヲ以テ之ヲ區別スヘシ
- 第四條 實測縱斷面圖ニハ地盤高、計畫線ノ高低、取水管送水管及配水本管ノ大サ勾配、動水勾配線、水平距離、水源貯水池沈澱池濾水池唧水場配水池配水塔量水室等ノ標高並其ノ水位、排氣管排泥管又ハ排泥渠橋梁及伏越ノ位置等ヲ記載スヘシ
- 第五條 第二條第三號ニ規定スル水道設備ノ構造ニ關スル圖面ニハ地盤線及斷面其ノ他構造ヲ表スニ必要ナル事項ヲ記載スヘシ
- 第六條 取水量決定ノ理由書ニハ水源ノ狀態、湧水量既設水利事業又ハ灌溉ニ必要ナル分水量及消火用其ノ他給水量(各設備ノ設計ノ基礎トナルヘキ水量)法定ノ理由ヲ記載スヘシ
- 貯水池又ハ調整池ヲ設クルモノニ在リテハ其ノ容量流域ノ面積及狀況、雨量觀測表等計畫ノ基礎トナルヘキ事項ヲ記載スヘシ
- 第七條 計畫說明書ニハ施工箇所ノ地形及地質、給水區域、現住人口及將來増殖スヘキ豫定人口、基本計畫給水人口、豫定給水人口、給水量、清淨方法、配水方法、配水本管線選定ノ理由、管渠ノ斷面及水壓ノ計算方法、各種構造物設計ノ根據其ノ他水道計畫ニ關スル必要ナル事項ヲ記載スヘシ
- 第五類 水道及下水道 水道條例第三條及第十一條但書ノ規定ニ依ル 二二三
命令ニ關スル件

第五類 水道及下水道

水道條例第三條及第十一條但書ノ規定ニ依ル
命令ニ關スル件 下水道法

二二四

載スヘシ

第八條 地方長官ニ於テ大正十年七月勅令第三百三十一號各號ニ掲クル事項ノ認可又ハ許可ヲ爲ス場合ニハ水道條例第三條第一項第三、第五及第六並本令第二條第二號乃至第七號ニ規定スル事項ヲ省略セシムルコトヲ得

第九條 市町村ハ左ノ各號ノ施設ヲ爲シ其ノ費用ヲ負擔スルコトヲ得

- 一 本支水管ヨリ家屋内ノ給水用具ニ接続スル細管ニシテ公道ノ地下ニ屬スル部分
 - 二 衛生上特ニ必要アリト認め設置スル家屋内ノ給水用具及本支水管ヨリ之ニ接続スル細管
- 前項ノ規定ハ市町村ニ非サル企業者ニ之ヲ準用ス

附 則

本令ハ大正十年八月一日ヨリ之ヲ施行ス

下水道法

(明治三十三年三月七日)
法律 第三二二號

第一條 本法ニ於テ下水道ト稱スルハ土地ノ清潔ヲ保持スル爲汚水雨水疏通ノ目的ヲ以テ布設スル排水管其ノ他ノ排水線路及其ノ附屬裝置ヲ謂フ

本法ニ於テ築造ト稱スルハ新築改築及増築ヲ包含ス

第二條 市ニ於テ下水道ヲ築造セムトスルトキハ其ノ設計工費ノ收支豫算及起工並竣工ノ期限ヲ定メ内務大臣ノ認可ヲ受クヘシ但シ命令ヲ以テ定ムル種類ノ改築又ハ増築工事ニ關シテハ此ノ限ニ在ラス

第三條 下水道ヲ設ケタル地ニ於テハ命令ノ定ムル所ニ依リ市又ハ土地ノ所有者使用若ハ占有者ハ汚水雨水ヲ下水道ニ疏通スル爲必要ナル施設ヲ爲シ及之ヲ管理スルノ義務ヲ負フ

市ニ於テ前項ノ施設ヲ爲シ及之ヲ管理スル場合ニ於テハ市條例ノ定ムル所ニ依リ其ノ費用ヲ土地ノ所有者使用者又ハ占有者ヨリ徵收スルコトヲ得

第四條 前條ノ場合ニ於テ甲地ノ汚水雨水ヲ疏通スル爲必要アルトキハ乙地ニ汚水雨水ヲ通過セシメ又ハ乙地ノ汚水雨水ヲ通過セシムル爲設ケタル工作物ヲ使用スルコトヲ得但シ乙地ノ爲ニ損害最少キ場所及方法ヲ選ムヘシ

前項ニ依リ他人ノ工作物ヲ使用スル者ハ其ノ利益ヲ受クル割合ニ應シテ工作物ノ施設及管理ノ費用ヲ負擔スヘシ

第五條 下水道ヲ築造シ若ハ之ヲ管理シ又ハ第三條ノ施設ヲ爲シ若ハ之ヲ管理スル爲必要アルトキハ他人ノ土地ヲ使用スルコトヲ得但シ之カ爲他人ノ受ケタル損害ニ對シ償金ヲ拂フコトヲ要ス

第六條 當該吏員ハ下水道又ハ第三條ノ施設ノ實況ヲ監視スル爲其ノ事由ヲ告知シテ私人ノ土地ニ立入ルコトヲ得

第七條 下水道ノ用地ニ必要ナル國有ノ土地ハ之ヲ市ニ讓與シ又ハ無償ニテ使用セシムルコトヲ得

第八條 本法又ハ本法ニ基キテ發スル命令ニ依リ私人ニ於テ履行スヘキ事項ヲ履行セ

第五類 水道及下水道 下水道法

二二五

第五類 水道及下水道 下水道法 下水道法施行規則

ス又ハ之ヲ履行スルモ充分ナラスト認ムルトキハ當該吏員ニ於テ之ヲ施行シ其ノ費用ハ市ニ於テ之ヲ支辨スヘシ

前項ノ處分ハ豫メ履行期間ヲ指定シテ戒告スルニ非サレハ之ヲ爲スコトヲ得ス但シ必要ノ時限内ニ履行シ得スト認ムルトキハ此ノ限ニ在ラス

第九條 前條ノ處分ヲ爲シタルトキハ市ハ市税ノ例ニ依リ其ノ費用ヲ義務者ヨリ徴收スルコトヲ得

第十條 市ハ勅令ノ定ムル所ニ依リ町村ノ委託ヲ受ケ町村ノ全部又ハ一部ノ爲ニ其ノ下水道ヲ築造スルコトヲ得

第十一條 内務大臣ハ必要ト認ムルトキハ下水道ノ築造ヲ市ニ命スルコトヲ得

附 則

第十二條 本法ハ明治三十三年四月一日ヨリ之ヲ施行ス

第十三條 本法ハ東京市區改正ニ關スル規定ノ效力ヲ妨ケス

第十四條 本法ノ規定ハ之ヲ區町村ニ準用ス

◎下水道法施行規則 (明治三十四年七月十一日) 改(大正六年十月内) 正(務省令第一三號) (内務省令第二二一號)

第一條 土地ノ所有者使用者又ハ占有者ハ左ノ區分ニ依リ下水道法第三條ノ施設ヲ爲シ及之ヲ管理スルノ義務ヲ負フ但シ本則第二條ノ場合ニ於テハ此ノ限ニ在ラス

一 建物アル土地ニアリテハ之カ築造及修繕ハ其ノ建物ノ所有者

二 建物ナキ土地ニアリテハ之カ築造及修繕ハ其土地ノ所有者

三 建物ノ有無ニ拘ハラズ之カ掃除及浚渫ハ土地ノ占有者

第二條 市ハ下水道法第三條ノ施設ニシテ公道ニ屬スル部分ヲ築造シ及之ヲ管理スルノ義務ヲ負フ

市ハ土地ノ狀況ニ依リ下水道法第三條ノ施設ニシテ公道以外ニ屬スル部分ヲ築造シ又ハ之ヲ管理スルコトヲ得

第三條 市ハ下水道ノ改築又ハ増築工事ニシテ工費壹萬圓未満ノモノニ關シテハ下水道法第二條ノ認可ヲ受クルコトヲ要セス

第四條 當該吏員下水道法第六條ニ依リ私人ノ土地ニ立入ル場合ニ關シテハ汚物掃除法施行規則第十二條ノ規定ヲ準用ス

第五條 下水道法第八條第二項ノ戒告及第九條ノ費用徴收ニ關シテハ汚物掃除法施行規則第十三條及第十四條ノ規定ヲ準用ス

第六條 下水道ニ關シテハ汚物掃除法施行規則第四條第三項及第七條ノ規定ヲ準用ス

下水道及下水道法第三條ノ施設ニ關シテハ汚物掃除法施行規則第十五條ノ規定ヲ準用ス

第七條 東京市及八王子市ニ在リテハ地方長官ノ職務ハ警視總監及東京府知事之ヲ行フ

汚物掃除法 (明治三十三年三月七日) 法律第三十一號

第一條 市内ノ土地ノ所有者使用者又ハ占有者ハ命令ノ定ムル所ニ依リ其ノ地域内ノ汚物ヲ掃除シ清潔ヲ保持スルノ義務ヲ負フ

第五類 水道及下水道 下水道法施行規則 汚物掃除法

第五類 水道及下水道 汚物掃除法

第二條 市ハ本法其ノ他ノ法令ニ依リ別段ノ義務者アル場合ヲ除クノ外其ノ区域内ノ汚物ヲ掃除シ清潔ヲ保持スルノ義務ヲ負フ

第三條 市ハ義務者ニ於テ蒐集シタル汚物ヲ處分スルノ義務ヲ負フ但シ命令ヲ以テ別段ノ規定ヲ設クルコトヲ得

第四條 市ニ於テ前條ノ處分ヲ爲シタル爲生スル收入ハ市ノ所得トス

第五條 地方長官ハ掃除ノ施行及實況ヲ監視セシムル爲必要ナル吏員ヲ市ニ置カシムルコトヲ得

第六條 當該吏員ハ掃除ノ實況ヲ監視シ必要ナル事項ヲ施行スル爲其ノ事由ヲ告知シテ私人ノ土地ニ立入ルコトヲ得

第七條 本法又ハ本法ニ基キテ發スル命令ニ依リ私人ニ於テ履行スヘキ事項ヲ履行セス又ハ之ヲ履行スルモ充分ナラスト認ムルトキハ當該吏員ニ於テ之ヲ施行シ其ノ費用ハ市ニ於テ之ヲ支辨スヘシ

第八條 前項ノ處分ハ豫メ履行期間ヲ指定シテ戒告スルニ非サレハ之ヲ爲スコトヲ得ス但シ必要ノ時限内ニ履行シ得スト認ムルトキハ此ノ限ニ在ラス

第九條 前條ノ處分ヲ爲シタルトキハ市ハ市税ノ例ニ依リ其ノ費用ヲ義務者ヨリ徴收スルコトヲ得

第十條 汚物ノ種類汚物掃除並清潔保持ノ方法及施設ニ關スル事項ハ命令ヲ以テ之ヲ定ム

附 則

第十條 本法ハ明治三十三年四月一日ヨリ之ヲ施行ス

第十一條 地方長官ハ區町村、市町村制ヲ施行セサル地方ニ在テハ町村ニ準スヘキ地又ハ其ノ一部ヲ指定シ本法ノ全部又ハ一部ヲ準用スルコトヲ得

◎汚物掃除法施行規則 (明治三十三年三月八日 内務省令第五號)

改(明治四三年四月内務省令第一三號、大正六年) 正(一〇月第一號、昭和三年五月第一九號)

第一條 汚物掃除法ニ依リ掃除スヘキ汚物ハ塵芥汚泥汚水及尿尿トス

第二條 市内ノ土地ノ占有者ハ其ノ地域内ノ汚物ヲ掃除シ清潔ヲ保持スヘシ

建物ノ所有者ハ其ノ建物アル土地ノ清潔保持ノ爲必要ナル溝渠ヲ築造修繕スヘシ

建物ナキ土地ノ所有者ハ其ノ土地ノ清潔保持ノ爲必要ナル溝渠ヲ築造修繕スヘシ

第三條 掃除義務者ハ覆蓋アル容器ヲ備ヘ掃除シタル塵芥ヲ其ノ容器ニ蒐集スヘシ

汚泥ハ之ヲ適當ノ容器ニ蒐集スヘシ

土地ニ定着シタル塵芥溜ハ之ヲ設置スルコトヲ得ス

第四條 溝渠ノ汚水ハ之ヲ公共溝渠又ハ適當ノ場所ニ排泄スヘシ地方長官ハ土地ノ狀況ニ依リ前項ニ拘ハラズ別段ノ施設ヲ許可スルコトヲ得

地方長官ハ汚水ノ性質ニ依リ公共溝渠ニ排泄セシムヘカラスト認ムルトキハ適當ノ施設ヲ爲サシムヘシ

第五類 水道及下水道 汚物掃除法施行規則

第五類 水道及下水道 汚物掃除法施行規則

二三〇

- 第五條 市ハ掃除義務者ノ蒐集シタル汚物ヲ一定ノ場所ニ運搬シ塵芥ハ可成之ヲ焼却スヘシ
戸口稠密ナル地區ニ關シテハ市ハ毎日一回各戸ヨリ汚物ヲ搬出スヘシ
- 第六條 市ハ第四條ノ溝渠ノ汚水ヲ排泄スル爲必要ナル公共溝渠ヲ築造修繕スヘシ
- 第七條 公共溝渠ニ沿フタル土地ニ於テ公共溝渠ニ害ヲ及ホスヘキ虞アル行爲ヲ爲ス者ハ其ノ害ヲ豫防スル爲必要ナル施設ヲ爲スヘシ
- 第八條 市ハ公共便所ヲ築造修繕スヘシ
- 第九條 市ハ其ノ義務ニ屬スル場所ノ掃除、掃除義務者ノ蒐集シタル汚物ノ運搬及其ノ汚物ノ處分ニ關シ方法順序ヲ定メ地方長官ニ届出ツヘシ
- 第十條 汚物掃除法第五條ニ依リ市ニ設置スル掃除監視吏員ノ職務ハ左ノ如シ
- 一 汚物掃除法第二條及第三條ノ事項ニ關シ掃除人ヲ指揮監督ス
 - 二 公共溝渠公共便所塵芥焼却場其ノ他掃除ニ關スル施設ヲ巡視ス
 - 三 汚物掃除法第一條ニ依リ私人ノ履行スル掃除ノ實況及溝渠便所其ノ他掃除ニ關スル私人ノ施設ヲ巡視ス
 - 四 汚物掃除法第七條ニ依リ履行期間ヲ指定シテ私人ニ戒告シ及私人ノ履行スヘキ事項ヲ施行ス
- 第十一條 市ハ掃除監視吏員ノ職務章程ヲ定メ地方長官ニ届出ツヘシ
- 第十二條 掃除監視吏員汚物掃除法第六條ニ依リ私人ノ土地ニ立入ルハ日出後日没前ニ於テ制服ヲ著スル者ノ外證票ヲ携帯スヘシ
- 第十三條 掃除監視吏員汚物掃除法第七條ニ依リ戒告スルトキハ職務章程ニ別段ノ規定アル場合

ノ外市長ノ指揮ヲ受クヘシ

戒告ハ附録書式ニ依リ書面ヲ以テ義務者ノ家ニ送達スヘシ

第十四條 汚物掃除法第八條ニ依リ市ニ於テ同法第七條ノ費用ヲ義務者ヨリ徴收スルトキハ實費ノ内譯ヲ附シタル令狀ヲ發スヘシ

令狀ノ書式及交付ハ市税令狀ニ準スヘシ

第十五條 汚物ノ爲又ハ溝渠便所其ノ他掃除ニ關スル施設ノ爲衛生上危害ヲ受クル者ハ掃除監視吏員ニ申告スルコトヲ得此ノ場合ニ於テハ掃除監視吏員ハ職務章程ニ定ムル期間ニ之ヲ臨檢スヘシ

第十六條 本則ニ依リ私人ニ於テ履行スヘキ事項ヲ掃除監視吏員ノ指定シタル期間ニ履行セサル者ハ科料ニ處ス

第十七條 公共溝渠ニ塵芥土石ヲ投棄シタル者又ハ尿尿ヲ注流シタル者ハ拘留又ハ科料ニ處ス

附 則

第十八條 下水道ヲ布設シタル地ニハ溝渠ニ關スル本則ノ規定ヲ施行セス

第十九條 削除

第二十條 地方長官ハ内務大臣ノ認可ヲ得テ第二條ノ義務ノ負擔區分ニ關シ別段ノ規定ヲ設クルコトヲ得

第二十一條 地方長官ハ郡村ニ接近シタル地區ノ義務者又ハ廣大ナル土地ヲ占有スル義務者ノ掃除シタル汚物ノ處分ニ關シ第三條及第五條ニ拘ハラズ別段ノ規定ヲ設クルコトヲ得

第二十二條 尿尿ニハ當分ノ内第五條ノ規定ヲ適用セス掃除義務者ニ於テ之ヲ處分スヘシ但シ土地ノ狀況ニ依リ地方長官ニ於テ必要ト認メタル場合ニハ市ヲシテ處分セシムヘシ

第五類 水道及下水道 汚物掃除法施行規則

二三一

第五類 水道及下水道 汚物掃除法施行規則

二三二

前項但書ノ場合ニ於テハ地方長官ハ其ノ處分方法ヲ具シ内務大臣ノ認可ヲ受ケヘシ

第二十三條 削除

第二十四條 地方長官ハ本則ニ定ムルモノ、外汚物ノ掃除溝渠便所ノ構造其ノ他清潔保持ノ方法及施設ニ關シ必要ナル規定ヲ設ケルコトヲ得

第二十五條 東京市及八王寺市ニ在リテハ地方長官ノ職務ハ警視總監及東京府知事之ヲ行フ

一 履行スヘキ事項 告 書

(記載例)

(臺所流ヨリ公共溝渠ニ通スル小溝ノ處々破壊セル部分ヲ修繕スルコト)

(井戸流ノ板ノ腐朽セルヲ改築スルコト又該流ヨリ溝渠迄ノ間ニ水路ナキヲ以テ溝渠ヲ築造スルコト)

(東側ノ椽ニ沿フテ設ケタル洗面所ノ下ノ吸込ミトナリタル場所ニ排水上適當ノ施設ヲ爲ス

コト) 一 履行スヘキ期限送達ノ日(又ハ時)ヨリ何日(又ハ何時間)以内

右汚物掃除法第七條ニ依リ戒告ス

氏 年 月 日 名 殿 年 月 日 時 送 氏 職 氏 名 印

◎大阪市(道路橋梁)下水溝上使用規則

(明治二八年四月一九日) 大阪市告示參第一六號

改(明治四十一年八月告示第六三號) 正(大正三年四月同第三六號)

(本規則中道路橋梁ニ關スル規程ハ道路占用規程ニ依リ廢止)

第一條 本市費支辨ニ係ル(道路橋梁)下水溝上ニ於テ一定ノ場所ヲ占有シ使用セントスルモノハ此規則ニ依ルヘシ但シ祭典綠日等ニ一時道路敷ヘ三尺以内出店スルモノハ此限ニアラス

第二條 使用ヲ出願セントスルモノハ第一號様式ニ依リ願書ヲ差出スヘシ

第三條 前條出願ニハ大阪府管内在籍者ニシテ身元確實ナル保證人ヲ立ツヘシ

保證人ハ使用人義務不履行ノ場合ニ於テ之ニ代リ其義務履行ノ責ニ任スヘシ

第四條 使用願人ハ使用ノ許可ヲ受ケタルトキハ其許可ノ日ヨリ五日以内ニ第二號様式ノ請書ヲ

差出スヘシ

使用人ハ使用以前ニ第三號様式ノ標札ヲ調製シ本市ノ檢印ヲ受ケ使用ニ際シ出店者ハ之ヲ其店

頭ニ掲ケ其他ハ見易キ場所ニ掲ケ置クヘシ但シ使用場所ヲ返却スルトキハ檢印ノ消却ヲ受クヘ

シ

第五條 使用人ハ使用許可期限内ト雖モ當初使用ノ目的ヲ變更シ又ハ之ヲ他人ニ使用セシムルコ

トヲ得ス

第六條 使用人故意怠慢ニ依リ使用許可ノ土地又ハ物件ヲ毀損シタルトキハ之カ損害ヲ賠償スヘ

シ

第七條 使用許可期限内ト雖モ本市ノ都合ニヨリ又ハ使用人本規則ニ違背シタルトキハ何時ニテ

第五類 水道及下水道 大阪市(道路橋梁)下水溝上使用規則

二三三

第五類 水道及下水道 大阪市(道路橋梁)下水溝上使用規則

二三四

モ其許可ヲ取消スコトアルヘシ但シ此場合ニ於テ使用人ハ損害賠償等ノ苦情ヲ申立ツルコトヲ得ス

第八條 使用許可ノ場所ニ存在スル物件ハ使用満期又ハ使用人ノ都合ニヨリ返却セントスルトキハ其場所返却以前ニ於テ又第七條ニ依リ許可ノ取消ヲ通知シタルトキハ其通知書ヲ受領スルト同時ニ使用人ニ於テ之ヲ撤却スヘシ

第九條 使用人前條ノ手續ヲ怠リ本市ニ於テ公害アリト認ムルトキハ本市ハ便宜之ヲ處分シ其費用ハ使用人ニ負擔セムヘシ

第十條 使用許可ノ場所ハ相當使用料ヲ徴收ス但公益事業ノ爲メ使用スルモノハ之ヲ徴收セサルコトアルヘシ

改良後道路ニ供用スヘキ未改良下水溝上ヲ通行ノ目的ヲ以テ使用スル者ニ對シテハ使用料ヲ徴收セス

第十一條 使用料金ノ徴收期ハ左ノ各項ニ依ル

- 一 其使用ノ年ヲ以テ許可シタルモノハ甲年四月ヨリ乙年三月迄ヲ一期トシ甲年四月中ニ徴收シ四月以後新ニ許可シタル者ハ初期分ニ限り許可ノ日ヨリ十日以内ニ徴收ス但シ市場(道路使用料)其他特別ノ事情アルモノハ一期分ヲ二回乃至四回ニ區分シ其年度内ニ於テ徴收スルコトアルヘシ
- 二 其使用ノ月又ハ日ヲ以テ許可シタルモノハ許可ノ日ヨリ十日以内ニ其全部ノ料金ヲ一時ニ徴收ス

第十二條 既納ノ使用料金免除方ハ左ノ各項ニ依ル

- 一 年ヲ以テ使用ヲ許可シタルモノニシテ本市ノ都合ニ依リ之ヲ取消シタルトキハ其取消ヲ通知シタル月ヨリ又使用人ノ都合ニヨリ返却シタルトキハ其返却ノ翌月ヨリ月割ヲ以テ之ヲ免除ス
- 二 月ヲ以テ使用ヲ許可シタルモノニシテ本市ノ都合ニヨリ之ヲ取消シタルトキハ其取消ヲ通知シタル月ヨリ又使用人ノ都合ニヨリ返却シタルトキハ其返却ノ翌月ヨリ之ヲ免除ス
- 三 日ヲ以テ使用ヲ許可シタルモノニシテ本市又ハ使用人ノ都合ニヨリ返却ノ時ハ其日ヨリ之ヲ免除ス
- 四 使用人本規則ニ違背シタルカ爲メ使用ノ許可ヲ取消シタル場合ニ於テハ既納ノ料金ヲ免除セス

- 第十三條 一場所ニシテ同時ニ二名以上ノ出願者アルトキハ抽籤ヲ以テ之ヲ定ム
- 第十四條 (道路使用ノ願書ニハ沿道地主ノ連署若ハ意見書ヲ添附スヘシ)
- 第十五條 満期後尙繼續使用ヲ爲サントスルモノニシテ年ヲ以テ使用ヲ許可シタルモノハ満期二ヶ月以前ヲ以テ使用ヲ許可シタルモノハ満期十日以前日ヲ以テ使用ヲ許可シタルモノハ満期一日以前ニ更ニ願書ヲ差出スヘシ

附則

第十六條 本規則ハ明治二十八年五月一日ヨリ實施ス

第十七條 明治二十三年大阪市告示第五十一號溝上使用料徴收法ハ本規則實施ノ日ヨリ廢止ス(本則中様式ハ略ス)

◎下水溝上使用料及等級表 (大正七年三月一四日市長決定) 同年四月一二日大阪府知事認可)

改正(大正一一年一月)

第五類 水道及下水道 下水溝上使用料及等級表

二三五

第五類 水道及下水道 下水溝上使用料及等級表

一等	府稅家屋稅地位等級表街路	自一至五等	區域
二等	同	自六至十等	區域
三等	同	自十一至二十等	區域
四等	同	自二十一至三十等	區域
五等	同	三十一等以下	區域

下水溝上使用料及使等級表

等級	一ヶ月一坪	一ヶ月一坪	一日一坪
一等	一五〇〇	一五〇〇	〇七五
二等	一二〇〇	一二〇〇	〇六〇
三等	九〇〇	九〇〇	〇四五
四等	六〇〇	六〇〇	〇三〇
五等	四〇〇	四〇〇	〇二〇

- 一 溝渠カ並行セル兩道路ノ中間ニアル場合ニ於テハ兩道路ノ等級ニ當ル料金ノ平均スルモノトス但シ双方ノ距離ヲ知ル事容易ナル場合ニ於テハ近距離ノ道路ノ等級ニ據ルモノトス
- 一 前項ノ並行道路ノ外溝渠ト交叉セル道路ニアリテ使用區域カ交叉點ニ接續スル場合ニ於テハ交叉セル道路ノ等級ニ當ル料金ヲ併セテ平均スルモノトス
- 一 使用ノ期間一箇年又ハ一箇月ニ滿タサルモノニシテ料金ノ總額カ一箇年分又ハ一箇月分ヲ超過スルモノハ之ヲ年額又ハ月額ニ止ム
- 一 一箇年又ハ一箇月ヲ超過スルモノニシテ年又ハ月ニ滿タサル端數アルトキハ其ノ端數ニ付テハ本表及前項ノ例ニ依ル
- 一 月又ハ日ヲ以テ許可シタルモノト雖モ使用ヲ繼續シタルニ因リ其ノ使用期間カ一箇年又ハ一箇月以上ニ亘リタルトキハ年又ハ月ヲ以テ許可シタルモノト看做ス
- 一 年又ハ月ヲ以テ許可シタルモノト雖モ使用者ノ都合ニ依リ返却シタルニ因リ其ノ使用期間カ一箇年又ハ一箇月ニ滿タサルトキハ月又ハ日ヲ以テ許可シタルモノト看做ス
- 一 廣告ノ爲ニスル使用料ハ前記金額ノ二倍トス
- 一 廣告板ノ面積カ數地ノ面積ヨリ廣キトキハ廣告板ノ面積ニ依ル
- 一 廣告板ノ面積トハ利用セラレタル各面ノ面積ヲ加算シタルモノヲ謂フ

第五類 水道及下水道 新編入區域下水溝上使用料

第五類 水道及下水道 新編入區域下水溝上使用料

二三八

◎新編入區域下水溝上使用料 (大正一四年五月二八日 阪市長決定)

新編入區域ニ對スル溝上使用料ハ當分ノ内左記區別料金ニ依ルモノトス

區別等級 一坪年額

甲類 三、〇〇〇

乙類 二、〇〇〇

丙類 一、〇〇〇

附記

區域等級ノ區分ハ道路占用料(新編入地域ニ依ル)ニ依ル月額ハ年額ノ十分ノ一、日額ハ月額ノ二十分ノ一トス

第六類 地方鐵道

地方鐵道法 (大正八年四月十日 改(大正十年四月二日法律第三八號) 昭(昭和四年四月十八日同第六二號) 法律第五二號)

第一條 本法ハ軌道法ニ規定スルモノヲ除クノ外道府縣其ノ他ノ公共團體又ハ私人カ

公衆ノ用ニ供スル爲敷設スル地方鐵道ニ之ヲ適用ス

地方鐵道業者カ運送營業ノ爲支線ヲ敷設スルトキハ公衆ノ用ニ供セサル場合ト雖本

法ヲ適用ス

道府縣其ノ他ノ公共團體又ハ私人カ專用ニ供スル爲敷設スル鐵道ニシテ政府ノ鐵道

又ハ地方鐵道ニ接續スルモノニ關スル規定ハ命令ヲ以テ之ヲ定ム

第二條 地方鐵道ハ人力又ハ馬力其ノ他之ニ類スルモノヲ以テ動力ト爲スコトヲ得ス

第三條 地方鐵道ノ軌間ハ三呎六吋トス特別ノ場合ニ在リテハ四呎八吋半又ハ二呎六

吋ト爲スコトヲ得

前項ノ軌間ノ制限ハ命令ヲ以テ定ムル特殊ノ地方鐵道ニ付テハ之ヲ適用セス

第四條 地方鐵道ハ之ヲ道路ニ敷設スルコトヲ得ス但シ己ムコトヲ得サル場合ニ於テ

主務大臣ノ許可ヲ受ケタルトキハ此ノ限ニ在ラス

第五條 地方鐵道會社ノ株金ノ第一回拂込金額ハ株金ノ十分ノ一迄下ルコトヲ得但シ

兼業トシテ地方鐵道ヲ敷設スル場合ハ此ノ限ニ在ラス

第六條 地方鐵道會社ハ株金全額拂込前ト雖監督官廳ノ認可ヲ受ケ線路ノ延長又ハ改

第六類 地方鐵道 地方鐵道法

二三九

第六類 地方鐵道 地方鐵道法

二四〇

良ノ費用ニ充ツル爲其ノ資本ヲ増加スルコトヲ得但シ軌道會社ニ非サル會社カ兼業トシテ地方鐵道ヲ敷設スル場合ハ此ノ限ニ在ラス

第六條ノ二 地方鐵道會社ハ線路延長ノ費用ニ充ツル爲其ノ資本ヲ増加スル場合ニ限リ監督官廳ノ認可ヲ受ケ利益配當ニ關シ一定ノ期間内普通株ニ劣ル株式(後配株)ヲ發行スルコトヲ得

第六條ノ三 後配株ヲ發行スル場合ニ於テハ其ノ旨ヲ定款ニ記載シ且株式申込證ニ左ノ事項ヲ記載スルコトヲ要ス

一 後配株ノ種類及其ノ各種ノ株式ノ數

二 後配株ノ利益配當ニ關スル事項

三 延長線ノ工事ノ大要殊ニ其ノ開業豫定時期

第六條ノ四 後配株ノ發行ニ依リテ得タル資金ハ當該線路延長ノ費用以外ニ之ヲ充ツルコトヲ得ス

會社カ後配株ヲ發行シタル場合ニ於テ定款又ハ株式申込證ニ記載シタル事項ニ付特ニ後配株主ニ不利益ナル變更ヲ爲サムトスルトキハ後配株主總會ノ決議ヲ經ルコトヲ要ス但シ己ムコトヲ得サル事由アル場合ニ於テ裁判所ノ許可アルトキハ此ノ限ニ在ラス

後配株主總會ニハ株主總會ニ關スル規定ヲ準用ス

第六條ノ五 商法第九十七條但書、第二百十二條ノ三第二項、第二百十七條第一項

第四號及第二百十八條第二項ノ規定ハ後配株ニ付之ヲ準用ス

第七條 地方鐵道會社ノ社債ハ總株金四分ノ一以上ノ拂込アリタル後ニ非サレハ之ヲ募集スルコトヲ得ス

社債ノ額ハ鐵道抵當法ニ依ル債務ノ額ト併セテ總株金拂込額ヲ超ユルコトヲ得ス但シ舊債償還ノ爲ニスル場合ニ於テハ舊債務ノ額ハ之ヲ算入セス

第八條 鐵道及其附屬物件ハ鐵道抵當法ニ依ルニ非サレハ之ヲ擔保ト爲スコトヲ得ス

第九條 削除

第十條 地方鐵道會社ハ監督官廳ノ認可ヲ受クルニ非サレハ合併ヲ爲スコトヲ得ス合併後存續スル會社又ハ合併ニ因リテ設立シタル會社ハ合併ニ因リテ消滅シタル會社ノ免許ニ屬スル權利義務ヲ承繼ス

第十一條 免許、許可又ハ認可ニハ條件ヲ附スルコトヲ得

第十二條 地方鐵道業ヲ營マムトスル者ハ左ノ書類及圖面ヲ提出シ主務大臣ノ免許ヲ受クヘシ

一 起業目論見書

二 線路豫測圖

三 建設費概算書

四 運送營業上ノ收支概算書

免許ニハ工事施行ノ認可ヲ申請スヘキ期限ヲ附ス

第六類 地方鐵道 地方鐵道法

二四一

第六類 地方鐵道 地方鐵道法

二四二

第十三條 免許ヲ受ケタル者ハ左ノ書類及圖面ヲ監督官廳ニ提出シ工事施行ノ認可ヲ受クヘシ

一 線路實測圖

二 工事方法書

三 建設費豫算書

四 免許ヲ受ケタル者カ會社ノ發起人ナルトキハ定款及會社ノ設立登記謄本

工事施行ノ認可ニハ工事ノ著手及竣工ノ期限ヲ附ス

第十四條 地方鐵道業者ハ天災事變其ノ他已ムコトヲ得サル事由アル場合ニ限り第十二條第二項又ハ前條第二項ノ規定ニ依リテ附セラレタル期限ノ伸長ヲ申請スルコトヲ得

第十五條 左ニ掲クル土地ヲ以テ鐵道用地トス

一 線路用地

二 停車場、信號所、車庫及貨物庫等ノ建設ニ要スル土地

三 鐵道專用ニ供スル發電所、變電所及配電所等ノ建設ニ要スル土地

四 鐵道構内ニ職務上常住ヲ要スル鐵道係員ノ舍宅及運輸保線ノ職務ニ従事スル鐵道係員ノ駐在所等ノ建設ニ要スル土地

五 鐵道ニ要スル車輛、器具、機械ヲ修理製作スル工場及其ノ資材、器具、機械ヲ貯藏スル倉庫等ノ建設ニ要スル土地

第十六條 道路、橋梁、河川、運河及溝渠等ニ關スル工事ノ施設ハ所管行政廳ノ許可ヲ受クヘシ

第十七條 政府又ハ政府ノ許可ヲ受ケタル者ニ於テ地方鐵道ニ接續シ若ハ之ヲ橫斷シ

テ鐵道若ハ軌道ヲ敷設シ又ハ地方鐵道ニ接近シ若ハ之ヲ橫斷シテ道路、橋梁、河川、

運河及溝渠等ヲ造設スルトキハ地方鐵道業者ハ之ヲ拒ムコトヲ得ス

前項ノ場合ニ於テ公益上必要アリト認ムルトキハ主務大臣ハ地方鐵道業者ニ設備ノ

共用又ハ變更ヲ命スルコトヲ得

設備ノ共用又ハ變更ニ要スル費用ノ負擔ニ付協議調ハサルトキハ申請ニ因リ主務大

臣之ヲ裁定ス

第十八條 地方鐵道業者ハ監督官廳ノ許可ヲ受ケタル場合ニ限り免許ニ屬スル權利義

務ヲ他人ニ讓渡スルコトヲ得

第十九條 左ノ場合ニ於テハ免許ハ其ノ效力ヲ失フ

一 工事施行ノ認可ヲ申請スヘキ期限迄ニ認可ヲ申請セサルトキ

二 工事施行ノ認可ヲ受ケサルトキ

三 工事施行ノ認可ニ附シタル工事著手ノ期限迄ニ工事ニ著手セサルトキ

四 營業廢止ノ許可ヲ受ケタルトキ

免許ヲ受ケタル者死亡シタルトキハ相續人ハ免許ニ屬スル權利義務ヲ承繼スルコト

ヲ得

第六類 地方鐵道 地方鐵道法

二四三

第二十條 地方鐵道業者ハ監督官廳ノ認可ヲ受クルニ非サレハ運輸ヲ開始スルコトヲ得ス

第二十一條 地方鐵道業者ハ旅客及荷物ノ運賃其ノ他運輸ニ關スル料金ヲ定メ監督官廳ノ認可ヲ受クヘシ

監督官廳ハ公益上必要アリト認ムルトキハ運賃及料金ノ變更ヲ命スルコトヲ得

第二十二條 地方鐵道業者ハ旅客列車及混合列車ノ運轉速度及度數ヲ定メ監督官廳ノ認可ヲ受クヘシ

監督官廳ハ公益上必要アリト認ムルトキハ列車ノ運轉速度、度數及發著時刻ノ變更ヲ命スルコトヲ得

第二十三條 監督官廳ハ監査員ヲ派遣シテ鐵道ノ工事、運輸保線ノ狀態、會計及財産ノ實況ヲ監査セシムルコトヲ得

鐵道ノ工事、運輸保線ノ狀態及會計ノ整理ニ付法令若ハ法令ニ基キテ爲ス命令ニ違ヒ又ハ不適當ナリト認ムルモノアルトキハ監督官廳ハ其ノ改築又ハ改善ヲ命スルコトヲ得此ノ場合ニ於テ必要アリト認ムルトキハ其ノ工事、運輸又ハ設備使用ノ停止ヲ命スルコトヲ得

監査員ハ地方鐵道業者又ハ其ノ役員若ハ使用人ニ説明ヲ求メ金櫃、帳簿、書類及圖面ヲ檢閲スルコトヲ得

第二十四條 地方鐵道業者ハ地方鐵道ノ監督事務ニ關シ往復スル吏員ニシテ監督官廳

ノ發行スル證票ヲ携帶スル者ヲ無賃ニテ乘車セシムヘシ

第二十五條 主務大臣ハ公益上必要アリト認ムルトキハ地方鐵道業者ニ他ノ鐵道又ハ軌道トノ連絡運輸又ハ直通運輸ヲ命スルコトヲ得

前項ノ場合ニ於テ設備ノ共用又ハ變更、運輸ノ手續、運賃ノ割合及費用ノ負擔ニ付協議調ハサルトキハ申請ニ因リ主務大臣之ヲ裁定ス

第二十六條 地方鐵道業者ハ監督官廳ノ許可ヲ受クルニ非サレハ鐵道ノ貸借又ハ營業若ハ運轉ノ管理ノ委託若ハ受託ヲ爲スコトヲ得ス

營業又ハ運轉ノ管理ノ委託ヲ受ケタル地方鐵道業者ハ其ノ管理ニ付監督官廳ニ對シ委託ヲ爲シタル者ト共ニ其ノ責ニ任ス

第二十七條 地方鐵道業者ハ主務大臣ノ許可ヲ受クルニ非サレハ運輸營業ノ全部又ハ一部ヲ休止シ又ハ廢止スルコトヲ得ス

地方鐵道會社ノ解散ノ決議ハ主務大臣ノ認可ヲ受クルニ非サレハ其ノ效力ヲ生セス

第二十八條 主務大臣ハ地方鐵道ノ會計及運賃ノ割引ニ關シ特別ノ規定ヲ設クルコトヲ得

第二十九條 地方鐵道業者ハ法令ノ定ムル所ニ依リ平時及戰時ニ於テ鐵道ヲ軍用ニ供スル義務ヲ負フ

第三十條 政府カ公益上ノ必要ニ因リ地方鐵道（工事中ノ線路ノ含ム）ノ全部又ハ一部及其ノ附屬物件ヲ買收セムトスルトキハ地方鐵道業者ハ之ヲ拒ムコトヲ得ス

第六類 地方鐵道 地方鐵道法

二四六

前項ノ規定ニ依リテ一部買収セラレタル爲殘存線路ノミニ付營業ヲ繼續スルコト能ハサルニ至リタルトキハ地方鐵道業者ハ殘存開業線路及其ノ附屬物件ノ買収ヲ申請スルコトヲ得

第三十一條 買收價額ハ左ニ掲クルモノトス

一 最近ノ營業年度末迄ニ運輸開始後三年ヲ經過シタル線路ヲ含ム開業線路ニ付テハ其ノ營業年度末ヨリ遡リ既往三年間ニ於ケル開業線建設費ニ對スル益金ノ平均割合ヲ買收ノ日ニ於ケル開業線建設費ニ乗シタル額ヲ二十倍シタル金額
二 最近ノ營業年度末迄ニ運輸開始後三年ヲ經過シタル線路ヲ含マサル開業線路ニ付テハ買收ノ日ニ於ケル開業線建設費ヲ時價ニ依リテ國債券面金額ニ換算シタル金額以內ニ於テ協定シタル金額

三 工事中ノ線路及買收ノ日迄ニ未タ使用開始ニ至ラサル改良施設ニ付テハ買收ノ日ニ於ケル建設費ヲ時價ニ依リテ國債券面金額ニ換算シタル金額以內ニ於テ協定シタル金額

前項第一號ノ規定ニ依ル金額カ買收ノ日ニ於ケル建設費ヲ時價ニ依リテ國債券面金額ニ換算シタル金額ニ達セサルトキハ其ノ換算シタル金額以內ニ於テ協定シタル金額ヲ以テ買收價額トス

第三十二條 前條ノ規定ニ於テ益金トハ營業收入ヨリ營業費及賞與金ヲ控除シタルモノヲ謂ヒ益金ノ平均割合トハ三年間ニ於ケル毎營業年度末ノ開業線建設費ノ合計ヲ

以テ同期間ニ於ケル益金ノ合計ヲ除シタルモノニ一年間ニ於ケル營業年度ノ數ヲ乘シタルモノヲ謂フ

建設費、營業收入及營業費ハ命令ノ定ムル所ニ依リテ算出シタル金額ニ依ル

第三十三條 政府ノ買收スル鐵道又ハ其ノ附屬物件ニ付買收ノ日ニ於テ補修ヲ要スルモノアルトキハ之ニ要スル金額ヲ時價ニ依リテ國債券面金額ニ換算シ買收價額ヨリ控除ス

最近ノ營業年度末迄ニ爲スヘキ補修ヲ其ノ營業年度末迄ニ爲ササリシトキハ前項ノ規定ニ依ルノ外之ニ要スル金額ヲ買收價額計算上ノ營業費ニ加算ス

第三十四條 買收ヲ受クヘキ地方鐵道業者カ兼業ヲ營ム場合ニ於テハ其ノ兼業ニ屬スル資産ヲ併セテ買收スルコトヲ得

前項ノ場合ニ於テ買收價額ハ協定ニ依ル

第三十五條 買收代價ハ券面金額ニ依リ五十五年内ニ償還スヘキ五分利付國債證券ヲ以テ之ヲ交付ス此ノ場合ニ於テ五十圓未滿ノ端數ハ之ヲ券面金額五十圓トス

第三十五條ノ二 政府ハ買收ノ日ヨリ買收代價交付ノ日ニ至ル迄買收代價トシテ交付スヘキ國債ノ利子ニ相當スル金額ヲ概算ヲ以テ從前ノ決算期毎ニ買收セラレタル者ニ交付スルコトヲ得

前項ノ規定ニ依リテ交付シタル金額ハ清算中ト雖主務大臣ノ認可ヲ受ケ之ヲ株主ニ配當スルコトヲ得

第六類 地方鐵道 地方鐵道法

二四七

第三十五條ノ三 第三十條第一項ノ規定ニ依リテ一部買收セラレタル爲殘存線路ノミニ付營業ヲ繼續スルコト能ハサルニ至リタルトキハ地方鐵道業者ハ未タ運輸開始ニ至ラサル殘存線路ニ付其ノ營業廢止ニ因リテ生スル損失ノ補償ヲ申請スルコトヲ得

第三十六條 政府ニ於テ地方鐵道ニ接近シ又ハ竝行シテ鐵道ヲ敷設シタル爲地方鐵道業者カ其ノ接近シ又ハ竝行スル區間ノ營業ヲ繼續スルコト能ハサルニ至リタルトキハ政府ハ其ノ營業廢止ニ因リテ生スル損失ヲ補償スルコトヲ得殘存線路ノミニ付營業ヲ繼續スルコト能ハサルニ至リタルトキ亦同シ

前項ノ規定ハ未タ運輸開始ニ至ラサル線路ニ付之ヲ準用ス

第三十六條ノ二 前二條ノ補償金額ハ第三十一條乃至第三十三條ノ規定ニ準シテ算出シタル金額ヨリ殘存物件ノ價額ヲ時價ニ依リテ國債券面金額ニ換算シタル金額ヲ控除シタル殘額以内ニ於テ政府之ヲ定ム

未タ工事ニ著手セサル線路ニ對スル補償金額ハ測量其ノ他ノ費用ヨリ殘存物件ノ價額ヲ控除シタル殘額ヲ時價ニ依リテ國債券面金額ニ換算シタル金額以内ニ於テ政府之ヲ定ム

第三十五條及第三十五條ノ二ノ規定ハ前二項ノ補償金ノ支拂ニ付之ヲ準用ス

第三十六條ノ三 政府ニ於テ地方鐵道ニ接近シ又ハ竝行シテ鐵道ヲ敷設シタル爲地方鐵道ノ每營業年度ニ於ケル益金又ハ益金ト地方鐵道補助法ニ依リ受ケル補助金トノ合計カ當該營業年度ノ建設費ニ益金ノ平均割合ヲ乘シタル額ニ不足スルトキハ政府

ハ政府ノ該鐵道運輸開始ノ日ヨリ五年ヲ限リ帝國鐵道特別會計收益勘定歳出豫算ノ範圍内ニ於テ其ノ不足額ヲ補償スルコトヲ得但シ每營業年度ニ於ケル補償額ハ益金又ハ益金及補助金ト合セ建設費ノ百分ノ七ニ相當スル額ヲ超ユルコトヲ得ス

前項ノ益金ノ平均割合トハ政府ノ該鐵道運輸開始ノ日ノ屬スル營業年度ノ前營業年度末ヨリ溯リ既往三年間ニ於ケル每營業年度ノ開業線建設費ノ合計ヲ以テ同期間ニ於ケル營業收入ヨリ營業費及賞與金ヲ控除シタル殘額ノ合計ヲ除シタルモノヲ謂フ

第三十二條ノ規定ハ前二項ノ益金、建設費、營業收入及營業費ニ、地方鐵道補助法第六條及第七條ノ規定ハ第一項ノ補償ニ付之ヲ準用ス

第三十六條ノ四 主務大臣ハ地方鐵道ノ買収又ハ補償ニ關シ必要アリト認ムルトキハ當該地方鐵道業者ヲシテ建設費ノ増減ヲ來スヘキ事項ニ付認可ヲ受ケシムルコトヲ得

前項ノ規定ニ依リテ認可ヲ受クヘキ場合ニ於テ之ヲ受ケサルモノニ付テハ政府ハ其ノ額ヲ査定スルコトヲ得

第三十六條ノ五 第三十一條、第三十三條及第三十六條ノ二ノ國債時價ハ大藏大臣ノ定ムル所ニ依ル

第三十七條 地方鐵道業者カ法令若ハ法令ニ基キテ爲ス命令又ハ免許、許可若ハ認可ニ附シタル條件ニ違反シ其ノ他公益ヲ害スル行爲ヲ爲シタルトキハ主務大臣ハ左ノ處分ヲ爲スコトヲ得

- 一 取締役其ノ他ノ役員ヲ解任スルコト
- 二 政府ニ於テ又ハ他ノ地方鐵道業者ヲシテ地方鐵道業者ノ計算ニ於テ必要ナル施設若ハ營業ノ管理ヲ爲シ又ハ爲サシムルコト
- 三 免許ノ全部又ハ一部ヲ取消スコト
- 前項ノ規定ニ依リテ解任セラレタル取締役其ノ他ノ役員ハ再任セラレルコトヲ得ス
- 第三十八條 免許ヲ受ケスシテ地方鐵道ヲ敷設シ又ハ認可ヲ受ケスシテ運輸ヲ開始シタル者ハ百圓以上二千圓以下ノ罰金ニ處ス
- 第三十九條 左ノ場合ニ於テハ地方鐵道業者又ハ其ノ役員若ハ使用人ヲ十圓以上千圓以下ノ過料ニ處ス
 - 一 前條ノ場合ヲ除クノ外本法ニ依リ許可又ハ認可ヲ受クヘキ事項ヲ許可又ハ認可ヲ受ケスシテ爲シタルトキ
 - 二 法令ニ基キテ爲シタル命令又ハ免許、許可若ハ認可ニ附シタル條件ニ基キテ爲シタル命令ニ違反シタルトキ
 - 三 監査員ノ職務ノ執行ヲ妨ケタルトキ
 - 四 法令又ハ法令ニ基キテ爲ス命令ニ依リテ爲スヘキ届出、報告其ノ他ノ書類、圖面ノ提出若ハ調製ヲ怠リ又ハ虚偽ノ届出、報告若ハ記載ヲ爲シタルトキ
- 五 第六條ノ四第一項ノ規定ニ違反シタルトキ又ハ同條第二項ノ規定ニ違反シテ後配株主ニ不利益ヲ及ホシタルトキ

非訟事件手續法第二百六條乃至第二百八條ノ規定ハ前項ノ過料ニ之ヲ準用ス

第四十條 前二條ノ規定ハ公共團體カ地方鐵道業ヲ營ム場合ニ之ヲ適用セス

附 則

第四十一條 本法施行ノ期日ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

(大正八年勅令第三七四號ヲ以テ同年八月十五日ヨリ施行)

第四十二條 私設鐵道法及輕便鐵道法ハ之ヲ廢止ス

舊法ニ依リテ爲シタル免許若ハ指定、許可又ハ認可ハ本法ニ依リテ爲シタル免許、許可又ハ認可ト看做ス但シ其ノ免許若ハ指定、許可又ハ認可ニ附シタル條件ニシテ本法ニ抵觸スルモノハ其ノ效力ヲ失フ

第二條及第三條ノ規定ハ舊法ニ依リテ免許又ハ指定ヲ受ケタルモノニ之ヲ適用セス

第四十三條 輕便鐵道法ニ依リテ輕便鐵道抵當原簿ニ登録セラレタル事項ハ之ヲ鐵道抵當法ニ依リ鐵道抵當原簿ニ登録セラレタルモノト看做シ輕便鐵道抵當原簿ハ鐵道抵當原簿ト看做ス

第四十四條 輕便鐵道法ニ依リテ爲シタル處分、手續其ノ他ノ行爲ハ本法中之ニ相當スル規定アル場合ニ於テハ本法ニ依リテ之ヲ爲シタルモノト看做ス

第四十五條 軌道又ハ專用鐵道ヲ地方鐵道ニ變更セムトスルトキハ命令ノ定ムル所ニ依リ主務大臣ノ許可ヲ受クヘシ

第六類 地方鐵道 地方鐵道法施行規則

附 則 (大正十年四月 法律第三八號)

本法施行ノ期日ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

(大正十年勅令第三七三號ヲ以テ同年八月十五日ヨリ施行)

附 則 (昭和四年四月 法律第六二號)

本法施行ノ期日ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

◎地方鐵道法施行規則

(大正八年八月十三日) 改 (大正十年八月四日) 閣令第一〇〇號 正 (鐵道省令第一號)

第一條 地方鐵道ノ免許、許可及認可申請書並届出ニシテ地方長官ヲ經由スヘキモノハ鐵道ヲ敷設スル地ヲ管轄スル地方長官ヲ經由シ之ヲ提出スヘシ但シ二府縣以上ニ互リ敷設スル地方鐵道ニ在リテハ其ノ起點所在地ヲ管轄スル地方長官ヲ經由スヘシ

第二條 地方長官ハ免許申請書ニ左ノ事項ニ關スル調査書及免許ノ許否ニ關スル意見書ヲ附シ之ヲ進達スヘシ

一 申請者ノ資産及信用程度

二 事業ノ成否

三 事業ノ效用

四 他ノ鐵道又ハ軌道(未開業ノ鐵道又ハ軌道ヲ含ム)ニ及ボス影響

五 他ノ鐵道又ハ軌道ノ競願アルトキハ其ノ鐵道又ハ軌道ノ名稱、區間及申請書ノ受付年月日

六 其ノ他必要ト認ムル事項

前條但書ノ場合ニ於テハ免許申請書ヲ受付ケタル地方長官ハ關係地方長官ニ商議シ前項ノ調査書及意見書ヲ作製スヘシ

第三條 免許ノ申請書ニハ左ノ書類ヲ添附シ申請者又ハ其ノ代理人記名捺印スヘシ但シ代理人ニ於テ記名捺印スルトキハ代理權ヲ證スル書面ヲ添附スヘシ

一 組合ニ在リテハ組合契約書ノ謄本

二 會社ヲ設立セムトスルモノニ在リテハ定款ノ謄本

三 既設會社ニ在リテハ地方鐵道ノ營業ヲ目的トスルモノヲ除クノ外定款及登記謄本

四 公共團體ニ在リテハ地方鐵道經營ニ關スル決議要領書

第四條 起業目論見書ニハ左ノ事項ヲ記載スヘシ

一 目的

二 商號又ハ名稱及主タル事務所ノ設置地

三 鐵道事業ニ要スル資金ノ總額及其ノ出資方法

四 線路ノ起終點及其ノ經過スヘキ主ナル市町村名並線路ノ一部ヲ道路ニ敷設セムトスルトキハ其ノ區間及道路ノ種別

五 軌間

六 動力 蒸氣、電氣等ノ別、電氣ヲ動力トスルモノニシテ自ラ發電設備ヲ有スルモノニ在リテハ原動力ノ種類(火力、水力ノ別)、他ヨリ電力ノ供給ヲ受クルモノニ在リテハ供給者名

第五條 線路豫測圖ハ左ノ二種トス

第六類 地方鐵道 地方鐵道法施行規則

第六類 地方鐵道 地方鐵道法施行規則

二五四

一 平面圖

縮尺ハ一時三十鎖以上トシ、線路經過地ノ地名及地勢、停車場ノ位置及名稱並半哩毎ニ哩程ヲ記シ方位ヲ示スヘシ

二 縱断面圖

縮尺ハ距離ヲ一時三十鎖以上、高ヲ一時百五十呎以上トシ中心線地面及施工基面ノ高低ヲ示シ隧道及橋梁ノ長、線路ノ勾配並停車場ノ位置及名稱ヲ記スヘシ

第六條 建設費ノ概算書ハ第一號様式ニ依リ之ヲ調製スヘシ

第七條 運送營業上ノ收支概算書ハ第二號様式ニ依リ之ヲ調製シ第三號様式ニ依ル運輸數量表ヲ添附スヘシ

第八條 免許ヲ受ケタル者會社ノ發起人又ハ組合員ナルトキハ發起人又ハ法人ニ非サル組合ノ組合員ノ加入又ハ脱退ハ地方長官ヲ經由シ監督官廳ノ許可ヲ受クヘシ但シ死亡ニ因ル脱退ハ此ノ限ニ在ラス

第九條 免許ヲ受ケタル後工事施行ノ認可ヲ受クル前ニ於テ起業目論見書ニ記載シタル事項ヲ變更セムトスルトキハ地方長官ヲ經由シ監督官廳ノ認可ヲ受クヘシ但シ商號又ハ名稱、主タル事務所ノ設置地及電力供給者ノ變更ハ此ノ限ニ在ラス

第十條 工事施行ノ認可申請書ハ地方長官ヲ經由シ之ヲ提出スヘシ

鐵道カ二府縣以上ニ亘ル場合ニ於テハ其ノ關係部分ニ對スル書類及圖面ノ謄本ヲ調製シ之ヲ關係地方長官ニ提出スヘシ

第十一條 線路實測圖ハ左ノ二種トス

一 平面圖

縮尺ハ一時三十鎖以上トシ線路ノ左右各十鎖以内ノ地勢ヲ明ニシ其ノ他附近ノ市街、村落、社寺、名稱、舊蹟、公園、道路、鐵道、軌道、山岳、河川（氾濫地域ヲ記載スルコト）、運河、港灣、要塞地帯等ヲ記シ府、縣、郡、市、町、村ノ境界及方位ヲ示スヘシ

二 縱断面圖

縮尺ノ長ハ平面圖ト同一ニシテ高ハ一時百五十呎以上トシ中心線地面及施工基面ノ高低並築堤ノ高及切取ノ深ヲ十鎖毎ニ記シ隧道ノ長、橋梁（洪橋ヲ含ム以下同シ）ノ徑間及徑間數、桁ノ種類及材質、停車場、停留場及信號所ノ名稱及中心哩程、重要ナル踏切道並線路ノ勾配ヲ記スヘシ

線路カ他ノ鐵道又ハ軌道ト交叉、連絡又ハ接近スルトキハ其ノ鐵道又ハ軌道ノ前後各半哩間ノ中心線及高低ノ關係ヲ明ニスヘシ

線路カ市街地ヲ通過シ又ハ之ニ接近スルトキハ別ニ縮尺一時三鎖ノ平面圖及縮尺長一時三鎖高一吋三十呎ノ縱断面圖ヲ添附スヘシ

第十二條 工事方法書ニハ左ノ實施設計ヲ記載スヘシ

一 動力

二 軌間

三 單線、複線等ノ別及其ノ區間

第六類 地方鐵道 地方鐵道法施行規則

二五五

第六類 地方鐵道 地方鐵道法施行規則

- 四 軌道ノ中心間隔
- 五 建築定規及車輛定規(各部寸法、兩定規相互ノ關係及建築定規軌條部分ノ明細ヲ記入シタル圖面ニ依リ明示スルコト)
- 六 最小曲線半徑
- 七 最急勾配
- 八 土工定規(第四號樣式ニ依ル圖面添附)
 - (イ) 線路施工基面ノ幅(築堤、切取等ヲ區別シ側溝ヲ除キタル幅ヲ記載スルコト)
 - (ロ) 築堤及切取斜面ノ勾配(高又ハ地質ニ應スル斜面ノ勾配ヲ記載スルコト)
 - (ハ) 用地ノ限界(築堤法尻又ハ切取法肩ヨリ用地ノ境界迄ノ距離ヲ乾地、濕地ニ區別シ記載スルコト)
- 九 橋梁
 - (イ) 橋臺、橋脚(粗石積、煉瓦積、混凝土工、木造等ノ別ヲ記載スルコト)
 - (ロ) 基礎(杭打混凝土工、煉瓦沈井工等ノ別ヲ記載スルコト)
 - (ハ) 桁(鋼、鐵筋混凝土、松等ノ別並工字形桁、飯桁、構桁等ノ別ヲ記載スルコト)
 - (ニ) 拱(煉瓦卷、鐵筋混凝土工等ノ別ヲ記載スルコト)
 - (ホ) 橋梁ノ所定動荷重及桁ノ最大應力(第五號樣式ニ依ル圖表添附)
 - (ヘ) 重要ナル架橋河川ノ平水位、最高水位及其ノ水位ト桁ノ下端トノ距離
 - (イ) 乃至(ニ)ニ付テハ各部材質及構造寸法ヲ示ス設計圖並異ル徑間ヲ使用スル橋梁ニ在リテハ徑間配置圖ヲ各橋梁毎ニ添附スヘシ但シ模範設計ヲ定メ之ヲ適用スヘキ箇所ヲ示シタルモノ付テハ此ノ限ニ在ラス

十 隧道

(イ) 各其ノ地質ニ應スル施工断面(拱、側壁、仰拱及排水渠ノ材質及構造寸法ヲ圖面ニ依リ明示スルコト)

(ロ) 坑門(材質及構造寸法ヲ圖面ニ依リ明示スルコト)

十一 軌條、轉轍器、轍又及枕木

(イ) 軌條ノ重量(重量ノ異ル軌條ヲ使用スルトキハ各軌條ノ使用區間ヲ明示スルコト)

(ロ) 軌條及附屬品ノ材質及形狀(軌條又ハ附屬品ノ異ル毎ニ形狀寸法ヲ明示スル圖面添附)

(ハ) 轉轍器及轍又ノ構造(轉轍器ニ在リテハ重錘取柄式又ハ自動彈機式等ノ別、轍又ニ在リテハ番號ヲ記シ轉轍器尖端軌條ノ開キ並轍又異軌條及護輪軌條ノ間隔等各部ノ寸法ヲ詳細ニ記セル圖面添附)

(ニ) 枕木ノ寸法及敷設間隔(軌條重量ノ異ル毎ニ中心距離ノ最大ナルモノヲ記載スルコト)

十二 停車場、停留場及信號所

(イ) 建造物、配線、用地境界及實測中心哩程(本屋、待合所、貨物庫、車庫、乘降場、貨物積卸場、常置信號機、跨線橋、地下道、轉車臺、給水器、石炭臺、灰坑等ノ位置、乘降場及貨物積卸場ノ長及幅、轍又ノ番號、線路ノ配置、用地境界及實測中心哩程ヲ平面圖(縮尺一吋一鎖)ニ依リ明示スルコト)

(ロ) 軌道ト乘降場及貨物積卸場トノ關係(橫断面圖ニ依リ明示スルコト)

(ハ) 聯動裝置(圖表ヲ添附シ説明スルコト)

十三 他ノ鐵道又ハ軌道トノ交叉方法(交叉設計圖ヲ添附シ停車場、信號所以外ニ於テ人力又ハ馬力ヲ動力トスル鐵道又ハ軌道ト平面交叉ヲ爲ス場合ニ在リテハ其ノ保安設備ニ付説明ス)

第六類 地方鐵道 地方鐵道法施行規則

第六類 地方鐵道 地方鐵道法施行規則

二五八

ルコト

十四 閉塞信號機（設計及位置ヲ明示スル圖面ヲ添附シ作用ヲ説明スルコト）

十五 車輛

(イ) 機關車

一 形式（四輪聯結六輪タンク機關車、六輪聯結十輪テンダー機關車等ノ別ヲ記載スルコト）

一 輛數

一 重量（運轉整備ノトキニ於ケル總重量ヲ英噸ヲ以テ記載スルコト）

一 働輪一對ノ軌條面最大壓力（運轉整備ノトキニ於ケル重量ヲ英噸ヲ以テ記載スルコト）

(ロ) 客車及貨車

一 車種（ホギー車、四輪車等ノ別ヲ記載スルコト）

一 輛數

一 自重（英噸ヲ以テ記載スルコト）

一 定員

一 積載重量（英噸ヲ以テ記載スルコト）

(ハ) 汽動車（機關車及客貨車ニ準シ記載スルコト）

十六 車輛修繕ノ設備大要

十七 特殊設計

電氣ヲ動力トスルモノニ在リテハ前項ノ外左ノ實施設計ヲ記載スヘシ

一 送電系統（發電所、變電所、蓄電所、配電所及電車線路間相互ノ送電關係ヲ圖面ニ依リ明

示スルコト）

二 電氣鐵道ノ方式（直流、交流、架空單線式、架空複線式、第三軌條式等ノ別及電車線ノ電

壓ヲ記載スルコト）

三 發電所、變電所、蓄電所及配電所

(イ) 所在地（道、府、縣、郡、市、町、村、番地ヲ記載スルコト）

(ロ) 出力（最大出力、平均出力及最大出力ノ繼續時間ヲ記載スルコト）

(ハ) 原動機、發電機、電動發電機、回轉變流機、周波數、變換機、變壓器、蓄電池、昇壓

機等ノ種類、箇數（常用ト豫備トニ別チ記載スルコト）容量（馬力數、キロワット數、キ

ロゾオルトアンペア又ハアンペア時數ヲ記載スルコト）電壓、電流、相及周波數

四 送電線路及饋電線路（電線路毎ニ記載スルコト）

(イ) 電氣方式（直流及交流ノ別並相及線式ヲ記載スルコト）及最大電壓

(ロ) 電線路ノ構造

一 電線ノ種類（材質並單一線、撚線、被覆線及裸線ノ別ヲ記載スルコト）及太サ

一 架設方法（架空式ニ在リテハ木柱、鐵柱、鐵塔等ノ別地中式ニ在リテハ暗渠、線渠、

直接埋設等ノ別ヲ記載スルコト）

五 電車線路

(イ) 架空複線式

一 電線ノ種類、太サ及吊架方法（スパン線式又ハブラケット式及直接吊線式又ハ鏈線吊

線式等ノ別ヲ記載シ其ノ構造寸法ヲ示ス圖面添附）

一 支持物ノ種類（木柱、鐵柱、鐵塔等ノ別ヲ記載スルコト）建植方法（中央柱及側柱ノ

第六類 地方鐵道 地方鐵道法施行規則

二五九

第六類 地方鐵道 地方鐵道法施行規則

二六〇

- 別ヲ記載スルコト) 柱間距離(平均及最大距離ヲ記載シ最大距離二百呎以上ナルトキハ其ノ電線ノ弛度及支持物ノ強度ニ關スル計算ヲ示スコト)
 - 一 他ノ建造物トノ關係上施設スヘキ設計(圖面ヲ添附シ説明スルコト)
 - (ロ) 架空單線式
 - 一 (イ)ニ掲クル事項
 - 一 軌條ノ接續方法(圖面ヲ添附シ説明スルコト)
 - 一 補助線及軌條ボンドノ種類及太サ
 - (ハ) 第三軌條式
 - 一 敷設方法(圖面ヲ添附シ説明スルコト)
 - 一 第三軌條ノ重量及形狀
 - 一 第三軌條及軌道軌條ノ接續方法(圖面ヲ添附シ説明スルコト)
 - 一 軌條ボンドノ種類及太サ
- 六 電氣機關車及電車
- (イ) 電動機ノ種類、箇數、馬力數及電壓
 - (ロ) 制御裝置ノ種類及制御器ノ箇數
 - (ハ) 聚電裝置ノ種類及箇數
- 七 鐵道ノ動力トシテ他ヨリ電力ノ供給ヲ受クル場合
- (イ) 供給電力ノ電氣方式、最大電壓、容量及受給時間
 - (ロ) 送電上ノ責任分界點、電氣工作物ノ所有權分界點(圖面ニ依リ明示スルコト)
 - (ハ) 受電設備ノ大要(圖面ヲ添附シ説明スルコト)

第十三條 他ノ鐵道又ハ軌道ト交叉又ハ連絡スル場合ニ於テハ交叉又ハ連絡ニ關スル協定書ノ謄本及鐵道ノ動力トシテ他ヨリ電力ノ供給ヲ受クル場合ニ於テハ供給契約書ノ謄本ヲ工事方法書ニ添附スヘシ

第十四條 建設費豫算書ハ第六號様式ニ依リ之ヲ調製スヘシ

第十五條 建設費豫算總額ノ變更ハ第七號様式ニ依リ之ヲ届出ツヘシ

第十六條 免許ヲ受ケタル鐵道線路ノ全部ニ對シ工事施行ノ認可ヲ一時ニ申請スルコト能ハサルトキハ其ノ理由ヲ具シ分割シテ認可ヲ申請スルコトヲ得

第十七條 地方鐵道法第十四條ノ規定ニ依ル期限伸長ノ申請書ハ其ノ理由ヲ具シ地方長官ヲ經由シ之ヲ提出スヘシ

第十八條 工事施行ノ認可ヲ受ケタル後線路又ハ工事方法書ニ記載シタル事項ヲ變更セムトスルトキハ其ノ理由ヲ具シ第十一條及第十二條ノ規定ニ準シ線路實測圖及變更セムトスル事項ニ關スル工事方法書(線路及停車場ノ變更ニ在リテハ新舊對照圖添附)ヲ調製シ監督官廳ノ認可ヲ受クヘシ

前項ノ認可申請書ニハ工費豫算書ヲ添附シ工費支出ノ途ヲ明ニスヘシ但シ重要ナラサル變更ニ付テハ此ノ限ニ在ラス

停車場ノ廢止、線路及橋梁ノ重要ナル變更並ハ洪水氾濫地域ニ於ケル線路及橋梁ノ變更ノ認可申請書ハ地方長官ヲ經由シ之ヲ提出スヘシ

第十九條 線路及工事方法書ニ記載シタル事項ノ變更ニシテ左ニ掲クルモノハ其ノ理由ヲ具シ新舊對照シ監督官廳ニ之ヲ届出ツヘシ

- 一 線路中心線ノ變更カ市街又ハ家屋稠密ノ地ニ在リテハ左右各一鎖以内其ノ他ノ地ニ在リテ

第六類 地方鐵道 地方鐵道法施行規則

二六一

第六類 地方鐵道 地方鐵道法施行規則

二六二

- ハ各五鎖以内ナルトキ (圖面添附)
 - 二 曲線ノ半徑ヲ變更シテ之ヲ長カラシムルトキ又ハ軌間二呎六吋ノモノニ在リテハ八鎖迄其ノ他ノモノニ在リテハ十二鎖迄之ヲ短縮スルトキ (圖面添附)
 - 三 施工基面高低ノ變更カ市街又ハ家屋稠密ノ地ニ在リテハ二呎以内其ノ他ノ地ニ在リテハ六呎以内ナルトキ (圖面添附)
 - 四 線路ノ勾配ヲ變更シテ之ヲ緩ナシラムルトキ又ハ電氣ヲ動力トスルモノニ在リテハ四十分ノ一迄其ノ他ノモノニ在リテハ六十分ノ一迄之ヲ急ナラシムルトキ (圖面添附)
 - 五 線路ノ勾配二百分ノ一ヨリ急ナラサル箇所ニ於ケル停車場ノ中心哩程ノ變更カ市街又ハ家屋稠密ノ地ニ在リテハ一鎖以内其ノ他ノ地ニ在リテハ五鎖以内ナルトキ (圖面添附)
 - 六 停車場、停留場及信號所ノ名稱變更
 - 七 停車場及側線ノ設ナキ信號所ノ新設又ハ位置變更 (圖面添附)
 - 八 踏切道ノ増減
 - 九 二十呎以内ノ橋梁及五鎖以内ノ隧道ノ廢止並認可ヲ得タル設計ト同一設計ニ依ル橋梁及隧道ノ新設又ハ伸縮 (圖面添附)
 - 十 停車場、停留場及信號所ニ於ケル建造物及配線ノ伸縮増減 (停車場ヲ停留場ニ又ハ停留場ヲ停車場ニ變更スル場合ヲ除ク) 並用地境界ノ變更 (圖面添附)
- 洪水氾濫地域ニ於ケル線路及橋梁ノ變更ニ付テハ前條ノ規定ノ適用ヲ妨ケス
- 第十九條 工事ニ著手シタルトキハ一週間以内ニ監督官廳ニ之ヲ届出テ毎年六月及十二月ノ末日現在ニ依リ翌月十五日迄ニ第八號様式ニ依ル工程表ヲ提出スヘシ
- 第二十條 車輛ニ關シテハ其ノ製作又ハ購入前設計ヲ定メ左ノ事項ヲ記載シ監督官廳ノ認可ヲ受

クヘシ但シ政府ノ鐵道所屬ノ車輛又ハ既認可ノ車輛ニシテ改造ヲ加ヘサルモノヲ購入スル場合ニ於テハ前使用者名、舊形式稱號及番號ヲ記載シ左ノ事項ノ記載ヲ省略スルコトヲ得

一 機關車 (設計ノ異ル毎ニ設計書ヲ作製スルコト)

(イ) 形式 (四輪聯結六輪タンク機關車、六輪聯結十輪テンダー機關車等ノ別ヲ記載スルコト)

(ロ) 輛數

(ハ) 重量 (運轉整備ノトキニ於ケル汽關車及炭水車ノ各車輪一對ノ軌條面壓力ヲ英噸ヲ以テ記載スルコト)

(ニ) 主要寸法 (平面、側面及端面並要部ノ断面ヲ示シ且主要ナル構造寸法ヲ記入シタル組立圖ヲ添附シ端面圖ニハ車輛定規トノ關係ヲ示スコト)

一 最大寸法 (長ハ前後緩衝器間ノ距離、幅ハ車體中心線ヨリ側部ニ於ケル最突出部迄ノ距離ノ二倍、高ハ軌條面ヨリ最高部迄ノ距離)

一 車輪輪軸距 (機關車及炭水車ヲ區別シ固定輪軸距、全輪軸距、機關車及炭水車ヲ合シタル全輪軸距)

一 軌條面ヨリ緩衝器及聯結器ノ中心迄ノ高

(ホ) 汽罐ノ構造 (罐胴、煙櫃及火室ノ構造寸法並各鉸ノ繼手及各種繫桿ノ構造配置ヲ示ス (圖面添附))

一 火床面積 (平方呎ヲ以テ記載スルコト)

一 傳熱面積 (總面積ヲ記載シ焰管ノ面積、火室ノ面積、過熱面積等ヲ區別シ平方呎ヲ以

第六類 地方鐵道 地方鐵道法施行規則

二六三

第六類 地方鐵道 地方鐵道法施行規則

ヲ記載スルコト)

- 一 焔管ノ外径及長(長ハ管飯間ニテ計リタルモノヲ記載スルコト)
- 一 實用最高汽壓(一平方吋ニ付封度ヲ以テ記載スルコト)
- (ヘ) 汽機ノ構造(汽筒ノ直徑及衝程ヲ記載シ汽筒及汽櫃ノ構造並攪動弁運動裝置ヲ圖面ニ依リ明示スルコト)
- (ト) 臺框ノ構造(圖面ニ依リ明示スルコト)
- (チ) 聯結桿及併行桿ノ構造(圖面ニ依リ明示スルコト)
- (リ) トラツクノ構造(圖面ニ依リ明示スルコト)
- (ヌ) 車輪車軸ノ構造(車輪車軸ノ圖、作圖上必要ナル寸法ヲ詳記シタル輪鐵ノ現尺断面圖及車輪ト軸トノ關係ヲ明示セル断面圖添附)
 - 一 車輪ノ直徑(働輪、導輪、從輪及炭水車ノ各輪ヲ區別シ記載スルコト)
 - 一 車輪一對ノ輪鐵内側距離
- (ル) 擔彈機ノ構造及裝置(圖面ニ依リ明示スルコト)
- (ヲ) 緩衝器、聯結器ノ種類及構造(兩側緩衝器、中央緩衝聯結器、自動聯結器、螺旋聯結器等ノ別ヲ記載シ其ノ構造ヲ圖面ニ依リ明示スルコト)
- (ワ) 制動機ノ種類及裝置(手用、蒸氣、眞空制動機等ノ別ヲ記載シ制動裝置圖添附)
- (カ) 燃料櫃ノ容積(立方呎ヲ以テ記載スルコト) 及水槽容量(英ガロンヲ以テ記載スルコト)
- (ヨ) 牽引重量(一時間二十哩ノ速度ニテ百分ノ一勾配ヲ上ルトキ計算上牽引シ得ヘキ重量ヲ英噸ヲ以テ記載スルコト但シ軌間二呎六吋ノ鐵道ニ在リテ八十哩ノ速度ニ依リ計算スルコト)

コト)

(タ) 特殊設計(圖面ヲ添附シ構造裝置ヲ説明スルコト)

二 客車及貨車(設計ノ異ル毎ニ設計書ヲ作製スルコト)

- (イ) 車種(ボギー車、四輪車等ノ別、客車ニ在リテハ特等、並等、手小荷物緩急車等、貨車ニ在リテハ有蓋、無蓋、貨物緩急車等ノ別ヲ記載スルコト)
- (ロ) 輛數
- (ハ) 自重(英噸ヲ以テ記載スルコト)
- (ニ) 定員(座席定員及起立定員ヲ等級別ニ記載スルコト)
- (ホ) 定員一人ニ對スル客室面積(等級ニ依リ區別シ平方呎ヲ以テ記載スルコト)
- (ヘ) 積載容積及積載重量(郵便室、手小荷物室等ヲ區別シ積載容積ハ立方呎及百立方呎容積ニ換算シタル噸數ヲ記載シ積載重量ハ英噸ヲ以テ記載スルコト)
- (ト) 主要寸法(平面、側面及端面並要部ノ断面ヲ示シ且主要ナル構造寸法ヲ記入シタル組立圖ヲ添附シ端面圖ニハ車輛定規トノ關係ヲ示スコト)
 - 一 最大寸法(長ハ前後緩衝器間ノ距離、幅ハ車體中心線ヨリ側部ニ於ケル最突出部迄ノ距離ノ二倍、高ハ軌條面ヨリ最高部迄ノ距離)
 - 一 車體内寸法(客車ニ在リテハ各客室、郵便室、手小荷物室、車掌室ヲ貨車ニ在リテハ車掌室アルモノハ之ニ區別シ長、幅及高ヲ記載スルコト)
 - 一 固定輪軸距及ボギー中心間ノ距離
 - 一 軌條面ヨリ緩衝器及聯結機ノ中心迄ノ高(空車ノトキ)
 - 一 兩側緩衝器中心間ノ距離

第六類 地方鐵道 地方鐵道法施行規則

第六類 地方鐵道 地方鐵道法施行規則

二六六

- (チ) 臺框ノ構造 (圖面ニ依リ明示スルコト)
- (リ) トラツクノ構造 (圖面ニ依リ明示スルコト)
- (ヌ) 車輪車軸ノ構造 (車輪車軸圖、作圖上必要ナル寸法ヲ詳記シタル輪鐵ノ現尺断面圖及車輪ト轍又トノ關係ヲ明示セル断面圖添附)
- 一 車輪ノ直徑
- 一 車輪一對ノ輪鐵内側距離
- (ル) 擔彈機ノ構造及裝置 (圖面ニ依リ明示スルコト)
- (ヲ) 緩衝器及聯結器ノ種類及構造 (兩側緩衝器、中央緩衝聯結器、自動聯結器、螺旋聯結器、連環聯結器等ノ別ヲ記載シ其ノ構造ヲ圖面ニ依リ明示スルコト)
- (ワ) 制動機ノ種類及裝置 (手用、壓搾空氣、車側制動機等ノ別ヲ記載シ制動裝置圖添附)
- (カ) 客車内點燈ノ種類及設備 (電燈ニ在リテハ電線接續圖添附)
- (ヨ) 特殊設計 (圖面ヲ添附シ構造裝置ヲ説明スルコト)
- 三 汽動車 (橫關車及客貨車ニ準シ記載スルコト)
- 四 電氣機關車及電車
 - (イ) 第一號及第二號ニ掲クル事項
 - (ロ) 電動機ノ構造 (圖面添附) 種類、箇數、馬力數、齒車ノ比 (電動機及齒輪ノ回轉數ノ割合ヲ記載スルコト) 及電壓
 - (ハ) 制御器ノ種類、箇數及裝置
 - (ニ) 聚電裝置ノ構造 (圖面添附) 種類及箇數
 - (ホ) 車内電線接續 (圖面ニ依リ明示スルコト)

車輛ノ圖面ニハ第九號様式ニ依ル主要材料表ヲ添附スヘシ

第二十一條 前條ノ規定ニ依リ認可ヲ受ケタル後車輛ノ設計ヲ變更セムトスルトキハ新舊ヲ對照シ其ノ理由及圖面ヲ具シ監督官廳ノ認可ヲ受クヘシ但シ左ニ掲クルモノハ其ノ理由ヲ具シ之ヲ届出ツヘシ

- 一 認可ヲ受ケタル設計ト同一設計ニ依ル車輛ノ増加及改造
- 二 認可ヲ受ケタル設計ト同一設計ニ依ル客車及貨車ノ車種變更
- 三 客車内點燈ノ種類及設備變更 (電燈ニ在リテハ電線接續圖添附)
- 四 定員又ハ定員一人ニ對スル客室面積ノ變更
- 五 吊革又ハ網棚ノ設置、廢止又ハ變更及坐席、燈房其ノ他客車内設備ノ輕微ナル變更 (必要ニ應シ圖面添附)

第二十二條 車輛ヲ製作、購入又ハ改造シタルトキハ第十號様式ニ準シ型式稱號ノ異ル毎ニ竣功圖ヲ添附シ監督官廳ニ届出ツヘシ

第二十三條 運輸開始ノ認可申請書ニハ左ノ圖面諸表ヲ添附スヘシ

- 一 線路平面及縱断面圖 (第十一條ノ規定ニ準シ之ヲ作製シ線路實測哩程ニ破鎖アルトキハ停車場、停留場及信號所ノ換算中心哩程ヲ併記スルコト)
- 二 電氣工事竣功圖表 (第十一號様式)

地方鐵道法第十六條ニ規定スル工事竣功セサルトキハ運輸開始ノ申請ヲ爲スコトヲ得ス但シ其ノ工事ニ付所管行政廳ノ承認ヲ得タル場合ハ此ノ限ニ在ラス

第二十四條 運輸ヲ開始シタルトキハ即日電信、電話又ハ口頭ヲ以テ之ヲ届出ツヘシ

第二十四條ノ二 軌道ヲ地方鐵道ニ變更ノ許可申請書ニハ其ノ理由並左ノ書類及圖面ヲ具シ地方

第六類 地方鐵道 地方鐵道法施行規則

二六七

第六類 地方鐵道 地方鐵道法施行規則

二六八

長官ヲ經由シ鐵道大臣及內務大臣ニ之ヲ提出スヘシ但シ內務大臣ニ提出スル申請書ニハ書類及圖面ヲ具備スルコトヲ要セス

一 工事施行ノ認可ヲ受ケサル區間ニ在リテハ第三條、第四條第三號、第五條及第六條ノ規定ニ依ル書類及圖面

二 工事施行ノ認可ヲ受ケタル區間ニ在リテハ第三條、第十一條、第十二條、第十四條及第二十條ノ規定ニ依ル書類及圖面

軌道ノ特許又ハ工事施行ノ認可申請ニ際シ提出シタル書類又ハ圖面ニシテ前項ニ掲クル書類又ハ圖面ニ該當スルモノアルトキハ其ノ旨ヲ附記シ之カ提出ヲ省略スルコトヲ得

第二十四條ノ三 專用鐵道ヲ地方鐵道ニ變更ノ許可申請書ニハ其ノ理由及運送營業上ノ收支概算書ヲ具シ地方長官ヲ經由シ鐵道大臣ニ之ヲ提出スヘシ

前條第一項第二號、第二項及第七條ノ規定ハ前項ノ場合ニ之ヲ準用ス

第二十五條 假設工事ヲ施行セムトスルトキハ其ノ理由、工事設計書及圖面ヲ具シ使用期間ヲ定メ監督官廳ノ認可ヲ受クヘシ

天災事變ノ際一時ノ用ニ供スル爲假設工事ヲ施行シタルトキハ其ノ使用期間ヲ定メ之ヲ届出ツヘシ

洪水氾濫地域ニ係ル線路及橋梁ニ關スル假設工事及流水断面ヲ縮小スル橋梁ニ關スル假設工事ノ認可申請書及届書ハ地方長官ヲ經由シ之ヲ提出スヘシ

第二十六條 他ノ鐵道又ハ軌道ノ車輛ヲ運轉セムトスルトキハ該車輛ノ屬スル鐵道又ハ軌道及車輪一對ノ軌條面最大壓力ヲ記載シ監督官廳ノ認可ヲ受クヘシ

機關車ニ在リテハ前項ノ外型式稱號及番號ヲ附記スヘシ

第二十七條 株金全額拂込前ノ資本増加ノ認可申請書ニハ其ノ理由ヲ具シ資本増加ヲ決議シタル株主總會ノ議事及決議ノ要領書(株式合資會社ニ在リテハ無限責任社員ノ同意書ノ謄本添附)

ヲ添附シ延長線路ノ工事施行ノ認可申請書又ハ改良工事ノ認可申請書ト同時ニ之ヲ提出スヘシ

第二十八條 社債募集ノ認可申請書ニハ左ノ事項ヲ記載スヘシ

一 社債募集ヲ要スル事由

二 社債ノ總額

三 各社債ノ金額

四 社債ノ利率

五 社債募集ノ始期及終期

六 社債元利償還ノ方法及期限

前項ノ認可申請書ニハ株金ノ總額及拂込額並償還ヲ了ヘサル社債ノ登記抄本ヲ添附スヘシ

第二十九條 兼業ノ認可申請書ニハ興業費ノ豫算書(內譯及財源ヲ記載スルコト)及營業收支概算書ヲ添附スヘシ

第三十條 會社合併ノ認可申請書ニハ合併ノ事由及方法ヲ具シ合併契約書ノ謄本ヲ添附シ地方長官ヲ經由シ之ヲ提出スヘシ

第三十一條 工事施行ノ認可ヲ受ケタルトキハ主任技術者ヲ置キ技術ニ關スル事項ヲ擔任セシムヘシ

主任技術者ヲ置キタルトキハ遲滯ナク其ノ履歷書ヲ添附シ監督官廳ニ之ヲ届出ツヘシ之ヲ變更シタルトキ亦同シ

主任技術者ヲ不適任ト認ムルトキハ監督官廳ハ其ノ解任ヲ命スルコトアルヘシ

第六類 地方鐵道 地方鐵道法施行規則

二六九

第六類 地方鐵道 地方鐵道法施行規則

二七〇

第三十二條 鐵道ノ讓渡、貸借又ハ營業若ハ運轉ノ管理ノ委託若ハ其ノ受託ノ許可申請書ハ運署ノ上ノ左ノ書類ヲ添附シ之ヲ提出スヘシ

一 株主總會ノ議事及決議ノ要領書（株式合資會社ニ在リテハ無限責任社員ノ同意書ノ謄本添附）

二 組合員又ハ社員ノ同意書ノ謄本

三 讓渡、貸借又ハ管理委託ニ關スル契約書ノ謄本

鐵道ノ讓渡許可申請書ハ地方長官ヲ經由スヘシ

第三十三條 車輛ノ讓渡又ハ貸借ヲ爲サムトスルトキハ其ノ契約ノ要領ヲ記載シ認可ヲ受クヘシ但シ二月以内ノ貸借ハ此ノ限ニ在ラス

第三十四條 旅客運賃ノ認可申請書ニハ哩制ニ在リテハ對哩運賃（第十二號樣式ニ依ル）區間制ニ在リテハ各區間ノ運賃、均一制ニ在リテハ均一運賃ヲ記載シ各驛ノ實測換算中心哩程表（第十三號樣式）及營業哩程表（第十四號樣式）ヲ添附スヘシ

第三十五條 荷物運賃ノ認可申請書ニハ手荷物、小荷物及大貨物ヲ區別シ哩制ニ在リテハ對哩運賃、均一制ニ在リテハ均一運賃並荷物ノ品種及等級ヲ記載シ計算方法（計算上生シタル厘以下ノ取捨、重量、容積ノ計算方法等ヲ説明スルコト）ヲ附記スヘシ

大貨物ニ關シ別ニ營業哩程ヲ制定セムトスルトキハ其ノ增加割合ヲ前項ノ申請書ニ記載シ計算方法（割増ニ依リテ生シタル哩以下端數ノ取捨）ヲ附記スヘシ

第三十六條 旅客運賃又ハ荷物運賃ヲ變更セムトスルトキハ其ノ理由ヲ具シ變更後ニ於ケル收支豫算書ヲ添附シ監督官廳ノ認可ヲ受クヘシ

第三十七條 前三條ノ規定ニ依リ認可ヲ受ケタル運賃ヲ實施シタルトキハ其ノ月日ヲ記載シ各驛間ノ旅客運賃表（第十五號樣式）及大貨物營業哩程表（第十六號樣式）ヲ添附シ之ヲ届出ツヘシ

第三十八條 現ニ營業中ノ線路ニ於テ新設シタル停車場又ハ停留場ニ係ル旅客運賃又ハ荷物運賃ヲ認可ヲ受ケタル方法ト同一方法ニ依リ制定シタルトキハ實測換算中心哩程表、營業哩程表、各驛間ノ旅客運賃表及大貨物營業哩程表ヲ添附シ實施ノ月日ヲ監督官廳ニ届出ツヘシ

前項ノ規定ハ停車場又ハ停留場ノ實測換算中心哩程ニ異動ヲ生シタル場合ニ之ヲ準用ス但シ營業哩程ニ變更ヲ生セサルトキハ營業哩程表、各驛間ノ旅客運賃表及大貨物營業哩程表ノ添附ヲ要セス

第三十九條 運輸ニ關スル料金ノ認可申請書ニハ其ノ種類及金額ヲ記載スヘシ

運輸ニ關スル料金ヲ變更セムトスルトキハ其ノ理由ヲ具シ監督官廳ノ認可ヲ受クヘシ

前二項ノ規定ニ依リ認可ヲ受ケタル料金ヲ實施シタルトキハ其ノ月日ヲ記載シ之ヲ届出ツヘシ

第四十條 旅客列車及混合列車ノ發着時刻及度數ノ認可申請書ニハ發着時刻表（第十七號樣式）運行圖表（第十八號樣式）及運轉速度表（第十九號樣式）ヲ添附スヘシ

第四十一條 旅客列車及混合列車ノ發着時刻及度數ヲ變更セムトスルトキハ其ノ理由ヲ具シ變更發着時刻表、新舊對照運行圖表及運轉速度表ヲ添附シ監督官廳ノ認可ヲ受クヘシ但シ度數ノ増減、各驛間ノ上下列車最少運轉時分ノ短縮又ハ行違驛ノ新設ナキトキハ此ノ限ニ在ラス

前項但書ノ場合ニ於テハ變更ノ理由ヲ具シ變更發着時刻表及運行圖表各三部並新舊對照運行圖表ヲ添附シ實施ノ月日ヲ届出ツヘシ

第四十二條 前二條ノ規定ニ依リ認可ヲ受ケタル發着時刻及度數ヲ實施シタルトキハ其ノ月日ヲ記載シ發着時刻表及運行圖表各三部ヲ添附シ之ヲ届出ツヘシ

第四十三條 貨物列車ノ發着時刻及度數ヲ定メタルトキハ發着時刻表、運行圖表及運轉速度表ヲ

第六類 地方鐵道 地方鐵道法施行規則

二七一

第六類 地方鐵道 地方鐵道法施行規則

二七二

添附シ實施ノ月日ヲ監督官廳ニ届出ツヘシ之ヲ變更シタルトキ亦同シ

第四十四條 天災事變其ノ他已ム事ヲ得サル事由ニ因リ一時旅客列車及混合列車ノ發著時刻及度數ヲ變更シタルトキハ其ノ理由ヲ具シ發著時刻表ヲ添附シ遲滯ナク監督官廳ニ之ヲ届出ツヘシ

第四十五條 營業ノ休止又ハ廢止ノ許可申請書ハ其ノ理由ヲ具シ地方長官ヲ經由シ之ヲ提出スヘシ

會社解散ノ決議認可申請書ニハ其ノ理由ヲ具シ社員ノ同意書又ハ株主總會ノ議事及決議ノ要領書(株式合資會社ニ在リテハ無限責任社員ノ同意書ノ謄本添附)ヲ添附シ地方長官ヲ經由シ之ヲ提出スヘシ

第四十六條 第二十七條、第三十二條及前條ノ株主總會ノ議事及決議ノ要領書ニハ左ノ事項ヲ附記スヘシ

- 一 資本ノ總額
- 二 株式ノ總數
- 三 株主ノ總數
- 四 出席株主ノ總數
- 五 出席株主ノ有スル株式ノ總數
- 第四十七條 列車ノ衝突、脱線及顛覆、機關車ノ汽缸破裂、十二時間以上列車運轉不能其ノ他ノ重大ナル事故ハ即時電信、電話又ハ口頭ヲ以テ報告スルノ外五日以内ニ第二十號様式ニ依リ監督官廳ニ之ヲ届出ツヘシ
- 前項以外ノ事故ハ一月分ヲ取纏メ翌月十五日限り第二十一號様式ニ依リ之ヲ届出ツヘシ
- 第四十八條 他ノ鐵道又ハ軌道ト連絡運輸又ハ直通運輸ヲ爲ストキハ左ノ事項ヲ記載シ契約書ノ

謄本ヲ添附シ實施後一週間内ニ監督官廳ニ之ヲ届出ツヘシ

- 一 連帶驛名
 - 二 旅客及荷物ノ取扱方法
 - 三 賃金割賦方法
 - 四 共用停車場、倉庫等ニ關スル使用料其ノ他ノ事項
 - 五 線路及車輛ノ使用料並遲滯料ニ關スル事項
 - 六 運輸上ノ責任負擔方法
 - 七 運輸開始ノ年月日
 - 第四十九條 地方鐵道業者ハ每營業年度經過後二月内ニ營業報告書及統計報告書ヲ調製シ監督官廳ニ之ヲ提出スヘシ
 - 第五十條 地方鐵道業者ハ鐵道臺帳ヲ調製シ之ヲ備ヘ置クヘシ
 - 第五十一條 地方鐵道會社ハ商法ニ依ル登記ヲ爲シタルトキキ又ハ定款ヲ變更シタルトキハ監督官廳ニ之ヲ届出ツヘシ
 - 第五十二條 免許失効シタルトキハ遲滯ナク地方長官ヲ經由シ免許狀ヲ返納スヘシ
- 附 則
- 本令ハ大正八年八月十五日ヨリ之ヲ施行ス
- 私設鐵道法施行規則、輕便鐵道法施行規則、鐵道事故届出ニ關スル規程、鐵道臺帳規程及鐵道統計規程ハ之ヲ廢止ス
- 舊令ニ依リテ爲シタル處分、手續其ノ他ノ行爲ハ本令中之ニ相當スル規定アル場合ニ於テハ本令ニ依リテ之ヲ爲シタルモノト看做ス

第六類 地方鐵道 地方鐵道法施行規則

二七三

◎專用鐵道規程 (大正八年八月十三日 閣令第一九號)

- 第一條 本規程ハ道府縣其ノ他ノ公共團體又ハ私人カ専用ニ供スル爲數設スル鐵道ニシテ左ノ各號ノ一ニ該當スルモノニ之ヲ適用ス
- 一 公衆ノ用ニ供スル鐵道又ハ軌道ト直通スルモノ
 - 二 公衆ノ用ニ供スル鐵道又ハ軌道ト連絡スルモノ但シ人力又ハ馬力ヲ動力トスルモノヲ除ク
 - 三 前各號ノ専用鐵道ト直通スルモノ
- 第二條 専用鐵道ヲ數設セムトスル者ハ申請書ニ使用ノ目的ヲ記載シ鐵道ヲ數設セムトスル地ヲ管轄スル地方長官ヲ經由シ左ノ書類及圖面ヲ提出シ主務大臣ノ免許ヲ受クヘシ
- 一 線路實測圖
 - 二 工事方法書
 - 三 建設費豫算書
 - 四 他ノ鐵道又ハ軌道ト連絡又ハ直通ニ關スル協定書ノ謄本
- 第三條 免許ニハ工事ノ著手及竣功ノ期限ヲ附ス
- 前項ノ期限ハ天災事變其ノ他已ムコトヲ得サル事由アル場合ニ限り其ノ伸長ヲ申請スルコトヲ得
- 第四條 工事ニ著手シタルトキハ一週間以内ニ監督官廳ニ之ヲ届出ツヘシ
- 第五條 免許ヲ受ケタル者ハ運轉、信號及列車保安ニ關スル規定ヲ定メ監督官廳ノ認可ヲ受ケヘシ之ヲ變更スルトキ亦同シ

- 第六條 専用鐵道ノ運轉ノ管理ノ委託ヲ爲サムトスルトキハ申請書ニ運轉ノ管理ノ委託ニ關スル協定書ノ謄本ヲ添附シ監督官廳ノ許可ヲ受クヘシ
- 第七條 運輸ヲ開始シタルトキハ遲滞ナク監督官廳ニ之ヲ届出ツヘシ
- 第八條 専用鐵道ヲ讓渡セムトスルトキハ讓受人ト連署シ鐵道ヲ數設スル地ヲ管轄スル地方長官ヲ經由シ監督官廳ノ許可ヲ受クヘシ
- 第九條 専用鐵道ハ監督官廳ノ認可ヲ受クルニ非サレハ使用ノ目的ニ屬セサル物品運送ノ用ニ供スルコトヲ得ス
- 第十條 監督官廳ハ公益上必要アリト認ムルトキハ工事方法、運轉、信號又ハ列車保安方法ノ變更ヲ命スルコトヲ得
- 第十一條 免許ヲ受ケスシテ専用鐵道ヲ數設シ又ハ認可ヲ受ケスシテ運輸ヲ開始シタル者ハ百圓以下ノ罰金ニ處ス
- 前項ノ規定ハ公共團體カ専用鐵道ヲ數設スル場合ニ之ヲ適用セス
- 第十二條 地方鐵道法第十一條、第十六條、第十七條、第十九條第一項第三號、同條第二項、第二十條、第二十三條、第二十五條、第三十七條第一項、第三十九條、第四十條、地方鐵道法施行規則第三條、第十一條、第十二條、第十七條、第十八條、第二十條、第二十一條、第二十六條、第五十二條、地方鐵道建設規程第十九條、第二十一條、第三十條ノ規定ハ専用鐵道ニ之ヲ準用ス
- 附 則
- 本令ハ大正八年八月十五日ヨリ之ヲ施行ス
- 専用鐵道規則ハ之ヲ廢止ス
- 本令ニ依リ免許、許可又ハ認可ヲ受クヘキ事項ニシテ舊規則ニ依リ免許、許可又ハ認可ヲ受ケタ
- 第六類 地方鐵道 専用鐵道規程

第六類 地方鐵道 專用鐵道規程 地方鐵道建設規程

二七六

ルモノハ本令ニ依リ免許、許可又ハ認可ヲ受ケタルモノト看做ス
舊規則ニ依リテ爲シタル處分、手續其ノ他ノ行爲ハ本令中之ニ相當スル規定アル場合ニ於テハ本
令ニ依リテ之ヲ爲シタルモノト看做ス

◎地方鐵道建設規程 (大正八年八月十三日閣令第一一號)

第一章 總則

第一條 地方鐵道ノ建設ハ本規程ノ定ムル所ニ依ルヘシ但シ特別ノ設計ヲ必要トスルモノニ在リ
テハ監督官廳ノ許可ヲ受ケ本規程ニ依ラサルコトヲ得

監督官廳ハ鐵道ノ狀況ニ依リ本規程ニ依ラサル特別ノ設計ヲ命スルコトヲ得

第二條 列車ノ運轉ニ常用スル線路ヲ本線路ト謂ヒ其ノ他ノ線路ヲ側線ト謂フ

第三條 旅客又ハ荷物ヲ取扱フ爲列車ヲ停止スル箇所ニシテ轉轍器ノ設備アルモノヲ停車場ト謂
ヒ其ノ設備ナキモノヲ停留場ト謂フ

第二章 線路及建造物

第一節 軌間及軌條ノ高度

第四條 軌間ハ直線ニ於テ軌條頭ノ内側ヨリ内側迄ノ距離ニ依リ之ヲ測定ス

第五條 曲線ニ在リテハ左ノ區別ニ依リ軌間ニ相當ノ擴張ヲ附スヘシ但シ轉轍器ニ附帶スル場合
ハ此ノ限ニ在ラス

- 一 軌間三呎六吋及四呎八吋半ニシテ曲線ノ半徑三十鎖以下ノモノニ在リテハ一吋以內
- 二 軌間二呎六吋ニシテ曲線ノ半徑二十鎖以下ノモノニ在リテハ八分ノ五吋以內

第六條 直線ニ在リテハ兩軌條面ノ高ヲ均クスルコトヲ要ス但シ曲線ニ於ケル高度ヲ遞減スル場
合ハ此ノ限ニ在ラス

曲線ニ在リテハ轉轍器ニ附帶スル場合ヲ除クノ外外側軌條ニ相當ノ高度ヲ附シ曲線ニ接續スル
直線又ハ緩和曲線ニ於テ之ヲ遞減スヘシ

第二節 建設定規

第七條 建設定規ハ第一號及第二號圖面ニ依ルヘシ但シ曲線ニ在リテハ軌間ノ擴張及外側軌條ノ
高度ニ隨ヒ建築定規中心ノ偏倚傾斜ニ應シ相當之ヲ擴大スヘシ

第八條 燃料搭載所、給水所、轉車臺、計重臺、洗車所、電柱、信號柱等ニシテ停車場内ノ側線
ニ係ルモノ並車庫ノ門路及内部ハ車輛定規外六吋迄建築定規内ニ入ルコトヲ得

電氣鐵道ノ第三軌條ハ建築定規内ニ入ルコトヲ得

第九條 轍又ニ於テ軌條ト翼軌條又ハ護輪軌條トノ間隔ハ左ノ寸法迄之ヲ縮小スルコトヲ得

- 一 軌間三呎六吋及四呎八吋半ノモノニ在リテハ 一吋二分ノ一
 - 二 軌間二呎六吋ノモノニ在リテハ 一吋十六分ノ五
- 前項以外ノ場合ニ於テハ軌條ト護輪軌條トノ間隔ハ左ノ寸法迄之ヲ縮小スルコトヲ得
- 一 軌間三呎六吋及四呎八吋半ノモノニ在リテハ 二吋八分ノ一
 - 二 軌間二呎六吋ノモノニ在リテハ 一吋四分ノ三

第十條 轉轍器取柄及轉轍標識等ノ軌條面上ニ突出スル各部分ハ車輛定規外側方ニ於テ三吋迄建
築定規内ニ入ルコトヲ得但シ軌條面上左ノ高ヲ超ユルコトヲ得ス

- 一 軌間三呎六吋及四呎八吋半ノモノニ在リテハ 六呎
- 二 軌間二呎六吋ノモノニ在リテハ 五呎

第六類 地方鐵道 地方鐵道建設規程

二七七

第六類 地方鐵道 地方鐵道建設規程

第十一條 乘降場及貨物積卸場ノ擁壁面ノ突出點ト軌道中心トノ距離ハ左ノ寸法迄之ヲ縮小スルコトヲ得

一 軌間三呎六吋及四呎八吋半ノモノニ在リテハ 四呎六吋

二 軌間二呎六吋ノモノニ在リテハ 三呎八吋

第十二條 並行セル兩軌道中心間ノ距離ハ軌間三呎六吋及四呎八吋半ノモノニ在リテハ十一呎以上、軌間二呎六吋ノモノニ在リテハ九呎以上トス

第三節 曲線及勾配

第十三條 本線路ノ曲線半徑ハ軌間三呎六吋及四呎八吋半ノモノニ在リテハ八鎖以上、軌間二呎六吋ノモノニ在リテハ五鎖以上トス

本線路ニ於ケル轉轍器ニ附帶スル曲線半徑ハ特別ノ場合ヲ除クノ外軌間三呎六吋及四呎八吋半ノモノニ在リテハ五鎖以上、軌間二呎六吋ノモノニ在リテハ二鎖以上トス

第十四條 本線路ニ於ケル反向ノ曲線間ニハ相當ノ長ヲ有スル直線ヲ挿入スヘシ

第十五條 本線路ノ勾配ハ三十分ノ一ヨリ急ナルコトヲ得ス

停車場及停留場ニ於ケル本線路ノ勾配ハ二百分ノ一ヨリ急ナルコトヲ得ス但シ特別ノ事由アル場合ニ於テハ百分ノ一ニ至ルコトヲ得

第四節 施行基面

第十六條 軌道中心ヨリ施工基面緣端迄ノ距離ハ軌間三呎六吋及四呎八吋半ノモノニ在リテハ六呎以上、軌間二呎六吋ノモノニ在リテハ五呎以上トス

第五節 軌道及橋梁

第十七條 枕木下面ヨリ施工基面迄ノ道床ノ厚ハ軌間三呎六吋及四呎八吋半ノモノニ在リテハ四

吋以上、軌間二呎六吋ノモノニ在リテハ三吋以上トス

第十八條 軌道及橋梁ノ各部ハ動荷重ニ耐フル負擔力ヲ有スルコトヲ要ス

第十九條 交通頻繁ナル道路又ハ通船頻繁ナル河川ニ架設スル橋梁ハ車輛ノ幅及其ノ兩側各六吋以上軌道面下ヲ蓋フコトヲ要ス

第六節 待避所

第二十條 隧道、橋梁其ノ他列車ヲ避クルニ困難ナル場所ニハ三百呎以内ノ距離ニ待避所ヲ設クルコトヲ要ス

第七節 踏切道

第二十一條 踏切道ト線路トノ交角ハ三十度ヨリ小ナルコトヲ得ス

交通頻繁ナル踏切道ニハ通行人ノ注意ヲ惹クヘキ警標ヲ設クルコトヲ要ス

交通頻繁ニシテ展望不良ナル踏切道ニハ門扉其ノ他相當ノ保安設備ヲ爲スヘシ

第八節 常置信號機

第二十二條 停車場外ニ於テ線路カ本線路ヨリ分岐スル箇所ニハ左ニ掲グル場合ヲ除クノ外常置信號機ヲ設ケ之ニ關聯スル轉轍器ト相互聯動セシムルコトヲ要ス

一 保安區間内ニ在ル分岐點ノ轉轍器ニシテ之ニ通票鎖錠器ヲ裝置シタルトキ

二 閉塞式ヲ施行スル單線ニ於ケル分岐點ノ轉轍器ニシテ之ニ轉轍標識ヲ設ケ轉轍器ヲ鎖錠シタルトキ

停車場又ハ信號所ニ於ケル本線路ノ對向轉轍器ニハ鎖錠其ノ他ノ安全裝置ヲ爲スコトヲ要ス但シ列車對向通過ノ際轉轍器ノ取柄ヲ支持スル場合ハ此ノ限ニ在ラス

第二十三條 左ノ箇所ニハ特別ノ場合ヲ除クノ外常置信號機ヲ設クルコトヲ要ス但シ閉塞信號機

第六類 地方鐵道 地方鐵道建設規程

第六類 地方鐵道 地方鐵道建設規程

二八〇

ヲ設クル場合ハ此ノ限ニ在ラス

- 一 單線ニ於テ列車ノ行違ヲ爲ス停車場又ハ信號所
 - 二 複線ニ於ケル閉塞區間ノ境界點ニ在ル停車場、停留場又ハ信號所
- 第二十四條 場内信號機防護區域外二十鎖以上ノ距離ヨリ之ヲ展望スルコト能ハサルトキハ其ノ前方ニ遠方信號機ヲ設クルコトヲ要ス

第九節 平面交叉

第二十五條 本線路ハ相當ノ保安設備アル停車場又ハ信號所外ニ於テ鐵道又ハ軌道ト平面交叉ヲ爲スコトヲ得ス但シ鐵道又ハ軌道カ人力又ハ馬力ヲ動力トスル場合ハ此ノ限ニ在ラス

第十節 諸標

第二十六條 本線路ニハ左ノ諸標ヲ設クルコトヲ要ス

一 每半哩ノ距離ヲ示ス哩程標

二 六十分ノ一ヨリ急ナル勾配ノ始終點ニハ其ノ勾配ヲ示ス勾配標

第二十七條 本線路又ハ側線カ本線路ニ接續スル箇所ニハ車輛ノ停止區域ヲ示ス警標ヲ設クルコトヲ要ス

第十一節 車輛ノ逸出防備

第二十八條 車輛カ本線路ニ逸出スル虞アル線路ニハ相當ノ防止設備ヲ爲スヘシ

第二十九條 線路ノ終端ニハ車止ヲ設クルコトヲ要ス

第十二節 線路ノ防備

第三十條 人又ハ牛馬等ノ線路ニ踏入ル虞アル場所及保安上必要ナル場所ニハ堤塘、柵垣又ハ溝渠ヲ設クルコトヲ要ス

第十三節 停車場其ノ他ノ設備

第三十一條 停車場及信號所ニハ電氣通信ノ設備ヲ爲スヘシ但シ驛員ヲ常置セサル停車場ニ在リテハ此ノ限ニ在ラス

第三十二條 旅客ノ乗降多キ停車場ニハ待合所其ノ他相當ノ設備ヲ爲スヘシ

第三十三條 機關車ヲ收容スル爲相當ノ設備ヲ爲スヘシ

第三十四條 車輛ヲ修理スル爲相當ノ設備ヲ爲スヘシ但シ其ノ修理ヲ他ニ委託スルコトヲ得ル場合ハ此ノ限ニ在ラス

第三十五條 發電所及變電所ニハ相當ノ豫備機械ヲ備フルコトヲ要ス

第三章 車輛

第一節 車輛定規

第三十六條 車輛定規ハ車輛ヲ除クノ外第三號及第四號圖面ニ依ルヘシ

第三十七條 外方ニ開キタル車輛ノ扉ハ車輛定規ノ限界ヲ超ユルコトヲ得但シ建築定規ノ範圍内ニ於テ三吋以上ノ遊間ヲ存スルコトヲ要ス

第三十八條 排障器、制輪子、撒砂管其ノ他ノモノニシテ輪鐵ノ幅外ニ出テサル部分及聯結器ノ下端ハ軌條面上二吋ノ高迄下ルコトヲ得

第三十九條 彈機ノ作用ニ因リ上下動ヲ爲ササル部分ハ車輛定規ノ中心線ヨリ測リ軌間三呎六吋及四呎八吋半ノモノニ在リテハ左右各三呎四吋、軌間二呎六吋ノモノニ在リテハ左右各二呎九吋ノ幅内ニ於テ軌條面上二吋ノ高迄下ルコトヲ得

第四十條 排雪器ハ其ノ使用ニ際シ轉轍器、護輪軌條等アル箇所ヲ除クノ外之ヲ軌條頭ニ接觸セシムルコトヲ得

第六類 地方鐵道 地方鐵道建設規程

二八一

第六類 地方鐵道 地方鐵道建設規程

二八二

第四十一條 電氣機關車及電車ノ聚電裝置ノ可動部分ハ車輛定規ノ限界ヲ超ユルコトヲ得
第四十二條 前六條ノ規定ハ輪鐵其ノ他ノ磨損又ハ彈機ノ變形アリタル場合ニ於テモ之ヲ適用ス

第二節 輪 軸 距

第四十三條 車輛ノ固定輪軸距ハ線路ノ最小曲線半徑ニ應シテ之ヲ定ムヘシ但シ軌間三呎六吋及
四呎八吋半ノモノニ在リテハ十五呎、軌間二呎六吋ノモノニ在リテハ十呎ヨリ大ナルコトヲ得
ス

第三節 車 輪

第四十四條 車輪ノ直徑ハ左ノ寸法ニ依ルヘシ

一 軌間三呎六吋及四呎八吋半ノモノニ在リテハ導輪及從輪ハ二呎以上其ノ他ノモノハ二呎六
吋以上

二 軌間二呎六吋ノモノニ在リテハ一呎六吋以上

第四十五條 輪鐵ノ幅ハ左ノ寸法ニ依ルヘシ

一 軌間三呎六吋及四呎八吋半ノモノニ在リテハ四吋二分ノ一以上六吋以下

二 軌間二呎六吋ノモノニ在リテハ四吋以上五吋以下

第四十六條 車輪一對ノ輪鐵内側距離ハ左ノ寸法ニ依ルヘシ

一 軌間三呎六吋ノモノニ在リテハ三呎三吋以上三呎三吋四分ノ一以下

二 軌間四呎八吋半ノモノニ在リテハ四呎五吋二分ノ一以上四呎五吋四分ノ三以下

三 軌間二呎六吋ノモノニ在リテハ二呎三吋八分ノ三以上二呎三吋八分ノ五以下

輪鐵ノキ車輪一對ノ輪鐵内側距離ハ之ヲ左ノ寸法迄縮小スルコトヲ得

一 軌間三呎六吋ノモノニ在リテハ三吋二分ノ一

二 軌間四呎八吋半ノモノニ在リテハ四吋五分

三 軌間二呎六吋ノモノニ在リテハ三吋八分ノ一

第四十七條 輪鐵ノ高ハ左ノ寸法ニ依ルヘシ

一 軌間三呎六吋及四呎八吋半ノモノニ在リテハ一吋以上一吋十六分ノ七以下

二 軌間二呎六吋ノモノニ在リテハ八分ノ七以上一吋十六分ノ三以下

輪鐵ノ厚ハ左ノ寸法ニ依ルヘシ

一 軌間三呎六吋及四呎八吋半ノモノニ在リテハ四分ノ三吋以上

二 軌間二呎六吋ノモノニ在リテハ八分ノ五吋以上

第四十八條 車輪一對ノ中心線ヨリ輪鐵外面迄ノ距離ハ左ノ寸法ニ依ルヘシ

一 軌間三呎六吋ノモノニ在リテハ一呎八吋八分ノ三以上一呎八吋四分ノ三以下

二 軌間四呎八吋半ノモノニ在リテハ二呎三吋八分ノ五以上二呎四吋以下

三 軌間二呎六吋ノモノニ在リテハ一呎二吋十六分ノ七以上一呎二吋四分ノ三以下

第四十九條 前二條ノ規定ハ輪鐵ノ磨損シタル場合ニ於テモ之ヲ適用ス

第四節 緩衝器及聯結器

第五十條 車輪ニハ彈性ノ緩衝器及聯結器ヲ備フルコトヲ要ス

緩衝器及聯結器ノ中心ハ軌間三呎六吋ノモノニ在リテハ軌條面上空車ノトキ三呎ヲ超ユルコト
ヲ得ス滿載車ノトキ二呎八吋ヲ下ルコトヲ得ス

兩側緩衝器中心間ノ距離ハ軌間三呎六吋ノモノニ在リテハ四呎トス機關車ニハ兩端ニ螺旋聯結
器ヲ、其ノ他ノ車輛ニハ一端ニ螺旋聯結器他端ニ連環聯結器ヲ備フルコトヲ要ス

第二項乃至第四項ノ規定ハ中央緩衝聯結器ヲ備フル車輛ニ之ヲ適用セス

第六類 地方鐵道 地方鐵道建設規程

二八三

第六類 地方鐵道 地方鐵道建設規程

第五節 機關車ノ裝置

- 第五十一條 機關車ニハ左ノ裝置ヲ爲スヘシ
- 一 汽罐ニハ獨立ニ其ノ用ヲ爲ス二箇以上ノ給水器ヲ備フルコト
 - 二 汽罐内部ノ水位ヲ獨立ニ認知シ得ル二箇以上ノ驗水器ヲ備ヘ其ノ一ハ機關手ノ位置ヨリ水位ヲ直ニ認メ得ルモノタルコト
 - 三 二箇以上ノ安全弁ヲ備フルコト
 - 四 火室ノ頂蓋ニ可熔栓ヲ備フルコト
 - 五 驗壓器ヲ備ヘ其ノ指針盤ニ實用最高汽壓ヲ表示スルコト
 - 六 汽罐ノ火室ニ在ル繫桿ニハ其ノ頂上ニ在ルモノヲ除クノ外總テ其ノ毀損ヲ外部ヨリ發見シ得ヘキ設備ヲ爲スコト
 - 七 汽笛ヲ備フルコト
 - 八 前後ニ排障器ヲ備フルコト
 - 九 煙櫃及灰箱ニハ火粉止ノ設備ヲ爲スコト
 - 十 他ノ制動機ノ設アル場合ニ於テモ働輪及炭水車ノ車輪ニ働クヘキ手用制動機ヲ備フルコト
- 第六節 客車及緩急車
- 第五十二條 客車内ノ面積ハ旅客定員一人ニ付平均三平方呎ヨリ小ナルコトヲ得ス但シ起立乗客ニ對スル相當ノ設備アル場合ニ在リテハ之ヲ二平方呎半迄縮小スルコトヲ得
- 第五十三條 客車内ニハ點燈ノ設備ヲ爲スヘシ
- 第五十四條 客車ノ側面ニ在ル扉ニハ二箇ノ閉鎖器ヲ備フルコトヲ要ス
- 第五十五條 緩急車ニハ他ノ制動機ノ設アル場合ニ於テモ手用制動機ヲ備フルコトヲ要ス

第七節 汽動車、電氣機關車及電車

- 第五十六條 汽動車ニハ機關車及客車ニ關スル規定ヲ準用ス
- 第五十七條 電氣機關車及電車ニハ左ノ裝置ヲ爲スヘシ
- 一 特別ノ場合ヲ除クノ外前後ニ制御器ヲ設クルコト
 - 二 自動遮斷器ヲ設クルコト
 - 三 架空線式ノ場合ニ於テハ避雷器ヲ設クルコト
 - 四 警鐘又ハ警笛ヲ備フルコト
 - 五 前後ニ排障器ヲ備フルコト
 - 六 他ノ制動機ノ設アル場合ニ於テモ手用制動機ヲ備フルコト
- 第五十八條 汽動車及電車ニハ乗務員間ノ合圖器ヲ備フルコトヲ要ス

附則

本令ハ大正八年八月十五日ヨリ之ヲ施行ス

本令ニ依リ許可ヲ受ケヘキ事項ニシテ舊規程ニ依リ許可又ハ認可ヲ受ケタル事項ハ本令ニ依リ許可ヲ受ケタルモノト看做ス

舊規程ニ依リテ爲シタル處分、手續其ノ他ノ行爲ハ本令中之ニ相當スル規定アル場合ニ於テハ本令ニ依リテ之ヲ爲シタルモノト看做ス

(圖面略)

第六類 地方鐵道 地方鐵道建設規程

第七類 土地及水面

地所名稱區別

(明治七年十一月七日太政官布告第一二〇號)

改(明治八年七月太政官布告第一一四號、同年十月同第一五四號、九年六月同第八八號、十二年九月同第三四號、十三年十月同第四三號)

官有地

第一種

〔地券ヲ發セス〕地租ヲ課セス〔地方稅〕ヲ賦セサルヲ法トス

- 一 皇宮地 皇居離宮等ヲ云

- 一 神地 伊勢神宮山陵官國幣社府縣社及ヒ民有ニアラサル社地ヲ云

第二種

〔地券ヲ發シ〕地租ヲ課セス〔地方稅〕ヲ賦セサルヲ法トス〔尤府縣所用ノ地ハ地券ヲ發セス唯帳簿ニ記入ス〕

但此地ニ在ル官舎ヲ貸渡ス時ハ借地料ヲ賦スヘシ

- 一 皇族賜邸

- 一 官用地

〔官〕院省〔使寮司〕府〔藩〕縣^本支廳裁判所警視廳陸海軍^本分營其ノ他政府

ノ許可ヲ得タル所用ノ地ヲ云

第三種

〔地券ヲ發セス〕地租ヲ課セス〔地方稅〕ヲ賦セサルヲ法トス

第七類 土地及水面 地所名稱區別

第七類 土地及水面 地所名稱區別

二八八

〔但人民ノ願ニヨリ右地所ヲ貸渡ス時ハ其間借地料ヲ納メシムヘシ〕

一 山岳丘陵林藪原野河海湖沼池澤溝渠堤塘道路田畑屋敷等其他民有地ニアラサルモノ

一 鐵道線路敷地

一 電信架線柱敷地

一 燈明臺敷地

一 各所ノ舊跡名區及ヒ公園等民有地ニアラサルモノ

一 人民所有ノ權利ヲ失セシ土地

一 民有地ニアラサル堂宇敷地及ヒ墳墓地

一 行刑場

第四種

〔地券ヲ發セス〕地租ヲ課セス〔地方稅〕ヲ賦セサルヲ法トス

民有地

第一種

〔地券ヲ發シ地租ヲ課シ地方稅〕ヲ賦スルヲ法トス

一 人民各自所有ノ確證アル耕地宅地山林等ヲ云但此地賣買ハ人民各自ノ自由ニ任

スト雖モ潰シ地〔開墾〕等ノ如キ大ニ地形ヲ變換スルハ官ノ許可ヲ乞フヲ法トス

一 人民數人或ハ一村或ハ數村所有ノ確證アル學校病院鄉倉牧場秣場社寺等官有地ニアラサル土地ヲ云

第二種

〔地券ヲ發シテ地租地方稅〕ヲ賦セサルヲ法トス

一 官有ニアラサル鄉村社地及墳墓地等ヲ云

一 民有ノ用惡水路溜池敷堤敷及井溝敷地

一 公衆ノ用ニ供スル道路

但其地形ヲ變換スルトキハ管轄廳ノ許可ヲ請フヘシ

土地臺帳規則

〔明治二十二年三月二
十三日勅令第三九號〕

改〔明治三十七年四月勅令第一〇七號〕
正〔昭和二年三月同第四〇〇號〕

第一條

土地臺帳ハ地租ニ關スル事項ヲ登錄ス

第二條

市ノ土地臺帳ハ〔府縣廳ニ於テ〕町村ノ土地臺帳ハ〔島廳郡役所〕ニ於テ之ヲ設

第三條

〔登記所ニ於テ土地所有ノ移轉及質入ノ登記ヲ爲シタルトキハ土地臺帳所管

第四條

土地臺帳ノ謄本ヲ要スル者ハ土地一筆ニ付金十錢ノ割合ヲ以テ手数料ヲ納ム

第五條

地券ニ記載ノ事項異動ヲ生セサルモノハ其地券ヲ以テ前條ノ謄本ト見做スコ

第七類

土地及水面 土地臺帳規則

二八九

第七類 土地及水面 土地臺帳規則 土地臺帳規則施行細則

トヲ得

第六條 本規則ニ關スル細則ハ大藏大臣之ヲ定ム

第七條 (市制ノ施行ニ至ラサル土地ニ於テハ區ニ屬スル土地臺帳ハ區役所ニ於テ其取扱ヲ爲スヘシ)

附 則 (昭和二年三月勅令第四〇號)

本令ハ昭和二年四月一日ヨリ之ヲ施行ス

◎土地臺帳規則施行細則 (明治二十二年四月一日 日大藏省令第六號)

改 (明治三十三年一月大藏省令第二號、七月第二七號、三十四年六月第一〇號、十一月第二二號) 正 (四號、三十七年三月第六號、四月第八號、三十八年三月第一二號、三十九年五月第二〇號)

第一條 土地臺帳ハ市町村ニ區別シ土地ノ字番號地目段別等級地價及所有者買取主又ハ百年ヨリ長キ存續期間ノ定アル土地ノ地上權者ノ住所氏名ヲ登錄スヘシ

第二條 土地臺帳記載ノ所有者買取主又ハ地上權者ノ住所氏名ニ異動ヲ生スルトキハ其時々之ヲ届出ツヘシ

第三條 土地臺帳ノ謄本ヲ請求セントスルモノハ其請求書ニ手数料ヲ添ヘ市ハ「府縣廳」町村ハ「島廳郡役所」ニ申出ヘシ

國有地、御料地ノ拂下、讓與、下渡ニ係ルモノニシテ未登記ノモノニ付テハ謄本ヲ下付セス謄本ハ郵便ヲ以テ請求スルコトヲ得此場合ニ於テハ返信料ニ相當スル郵便切手ハ添送スルコトヲ要ス

第四條 土地臺帳ノ謄本ヲ請求シタルトキハ左ノ雛形ノ如ク記載シ之ヲ下付スヘシ

土地臺帳謄本					
郡市町村大字	字	地番地目	段別又	地價事故	所有者住所氏名
			ハ坪數		
年	月	日	何	稅務署	印

同一人ニシテ二筆以上ノ謄本ヲ請求シタルトキハ同一用紙ニ連記スルコトヲ得但シ請求者ニ於テ每筆各別ノ謄本ヲ請求シタルトキハ此ノ限ニ在ラス

第五條 土地所有權ノ移轉又ハ質權及地上權ノ設定、移轉、消滅若ハ地上權ノ期間ノ變更ハ登記所ヨリ通知アルニ非サレハ之ヲ登錄セス但シ國有地、御料地ノ拂下、讓與、下渡ニ因リ又ハ未登記土地ノ收用ニ因リ所有權ノ移轉シタル場合及未登記土地ノ國有ト爲リ又ハ河川法ニ依リ河川ノ敷地ト爲リタル場合ハ此ノ限ニ在ラス
相續ノ場合ニ於テ相續人カ未登記所有權ノ保存登記ヲ爲シタルトキハ保存登記ニ關スル登記所ノ通知ニ依リ所有權ノ移轉ヲ登錄ス

地租條例 (明治十七年三月十五 日太政官布告第七號)

改 (明治二十二年十一月法律第三〇號、三十一年十二月同第三二號、三十四年四月同第三〇號、三十六年六月同第一二號、三十八年三月同第三

第七類 土地及水面 土地臺帳規則施行細則 地租條例

第七類 土地及水面 地租條例

二九二

三號、四十一年三月同第三六號、四十三年三月同第二號、大正三年三月同第一八號、同年一九號、八年四月同第四六號、十五年三月同第六號

地租條例別冊ノ通制定シ明治六年七月第二百七十二號布告地租改正條例及地租改正ニ關スル條規其ノ他本條例ニ牴觸スルモノハ廢止ス

但シ東京府管轄伊豆七島小笠原島〔函館縣、沖繩縣、札幌縣、根室縣〕ハ當分從前ノ通タルヘシ

第一條 地租ハ左ノ稅率ニ依リ每年之ヲ賦課ス

宅地 地價百分ノ二箇半

畑地 地價百分ノ四箇五

其ノ他土地 地價百分ノ五箇半

北海道ニ於ケル宅地以外ノ土地ノ地租ハ當分左ノ稅率ニ依ル

畑地 地價百分ノ三箇二

其他ノ土地 地價百分ノ四箇

本條例ニ於テ地價ト稱スルハ土地臺帳ニ掲ケタル價額ヲ謂フ

第二條 地租ハ年ノ豊凶ニ由リテ増減セス

第三條 有租地ヲ區別シテ二類ト爲ス

第一類 田、畑、宅地、鹽田、鑛泉地

第二類 池沼、山林、牧場、原野、雜種地

第一類中又ハ第二類中ノ各地目變換スルモノヲ地目變換ト謂フ

第一類地ヲ第二類地ニ變換スルモノヲ地類變換ト謂フ

第二類地ニ勞費ヲ加ヘ第一類地ト爲スモノヲ開墾ト謂フ

第一類地又ハ第二類地ノ山崩、川欠、押堀、石砂入、川成、海成、湖水成等ノ如キ

天災ニ罹リ地形ヲ變シタルモノヲ荒地ト謂フ

第四條 左ニ揚クル土地ニ付テハ其地租ヲ免ス

一 國府縣市町村其他勅令ヲ以テ指定スル公共團體ニ於テ公用又ハ公共ノ用ニ供スル土地但有料借地ハ此限ニ在ラス

二 府縣市町村其他勅令ヲ以テ指定スル公共團體カ公用又ハ公共ノ用ニ供スヘキモノト定メタル其所有地但命令ノ定ムル期間内ニ公用又ハ公共ノ用ニ供セサルトキハ此限ニ在ラス

三 府縣社地、鄉村社地、招魂社地但有料借地ハ此限ニ在ラス

四 墳墓地

五 用惡水路、溜池、堤塘、井溝

六 鐵道用地、軌道用地、運河用地

七 保安林

八 公衆ノ用ニ供スル道路

府縣市町村其他ノ公共團體ハ前項ノ土地ニ租稅其他ノ公課ヲ課スルコトヲ得ス但所

第七類 土地及水面 地租條例

第七類 土地及水面 地租條例

第七類 土地及水面 地租條例

第七類 土地及水面 地租條例

第七類 土地及水面 地租條例

二九三

第七類 土地及水面 地租條例

二九四

有者以外ノ者前項第一號又ハ第二號ノ土地ヲ使用收益スル場合ニ於テ其土地ニ對シ使用者ニ租稅其他ノ公課ヲ課スルハ此限ニ在ラス

第五條 土地ノ丈量ハ曲尺ヲ用ヒ六尺ヲ間ト爲シ方壹間ヲ以テ歩ト爲シ參拾步ヲ畝ト爲シ拾畝ヲ段ト爲シ拾段ヲ町ト爲ス但宅地ハ方壹間ヲ以テ坪ト爲シ坪ノ拾分壹ヲ合トシ合ノ拾分壹ヲ勺ト爲ス

第六條 地價ヲ定メ又ハ地價ヲ修正スルトキハ地盤ヲ丈量ス

第七條 地價ハ左ノ場合ニ該當スルニ非サレハ之ヲ修正セス

一 地目又ハ地類ヲ變換シタルトキ

二 開墾シタルトキ

三 開拓墾下年期明ニ至リタルトキ

四 荒地免租年期明ニ至リ原地價ニ復シ難ク若クハ他ノ地目ニ變シタルトキ又ハ低價年期明ニ至リ原地價ニ復シ難キトキ

第八條 一般ニ地價ノ改正ヲ要スルトキハ前以テ其旨ヲ布告スヘシ

第九條 地價ハ其地ノ品位等級ヲ詮定シ其所得ヲ審査シ尙ホ其土地ノ情況ニ應シ之ヲ定ム

第十條 地目ヲ變換シ又ハ地類ヲ變換シタルトキハ政府ニ届出ヘシ

地目ヲ變換シ又ハ地類ヲ變換シタルトキハ直ニ其地價ヲ修正ス但第十六條第六項ノ場合ハ此限ニ在ラス

第十一條 地租ヲ課スル土地ヲ地租ヲ課セサル土地ト爲シ又ハ地租ヲ課セサル土地ヲ地租ヲ課スル土地ト爲シタルトキハ政府ニ届出ヘシ但之ニ關シ豫メ政府ノ許可ヲ受ケ又ハ届出ヲ爲シタルモノニ付テハ此限ニ在ラス

地租ヲ課セサル土地ヲ地租ヲ課スル土地ト爲シタルトキハ其地ノ現況ニ依リ直ニ其土地ノ地價ヲ定ム但第十六條第四項ノ場合ハ此限ニ在ラス

第十二條 地租ハ左ノ期限ニ依リ之ヲ徵收ス

一 宅地

第一期 其年七月一日ヨリ同七月三十一日限

地租額二分ノ一

第二期 翌年一月一日ヨリ同一月三十一日限

地租額二分ノ一

二 田

第一期 其年十二月十六日ヨリ翌年一月十五日限

地租額四分ノ一

第二期 翌年二月一日ヨリ同二月末日限

地租額四分ノ一

第三期 翌年三月一日ヨリ同三月三十一日限

地租額四分ノ一

第四期 翌年五月一日ヨリ同五月三十一日限

地租額四分ノ一

三 其他ノ土地

第一期 其年九月一日ヨリ同九月三十日限

地租額二分ノ一

第二期 其年十一月一日ヨリ同十一月三十日限

地租額二分ノ一

特殊ノ事情アル地方ニシテ前項ノ納期ニ依リ難キモノニ付テハ命令ヲ以テ特別ノ納

第七類 土地及水面 地租條例

二九五

期ヲ設クルコトヲ得

第十三條 地租ハ左ニ掲クル者ヨリ之ヲ徵收ス

- 一 質權ノ目的タル土地ニ付テハ質權者
- 二 百年ヨリ長キ存續期間ノ定アル地上權ノ目的タル土地ニ付テハ地上權者
- 三 其他ノ土地ニ付テハ所有者

前項ニ於テ質權者、地上權者、所有者ト稱スルハ土地臺帳ニ質權者、地上權者、所有者トシテ登錄セラレタル者ヲ謂フ

第十三條ノ二 前條ノ規定ニ依リ地租ヲ納ムヘキ者(法人ヲ除ク)ノ住所地市町村及其隣接市町村内ニ於ケル田畑地價ノ合計金額其同居家族ノ分ト合算シ二百圓未滿ナルトキハ命令ノ定ムル所ニ依リ其田畑ノ地租ヲ徵收セス但小作ニ付シタル田畑ニ付テハ此限ニ在ラス

第十四條 地價ヲ修正シタル土地ニ付テハ其年ヨリ修正地價ニ依リ地租ヲ徵收ス但其年ニ係ル地租ノ全部又ハ一部ノ納期開始後地價ヲ修正シタルトキハ翌年分地租ヨリ修正地價ニ依リ地租ヲ徵收ス

第十五條 地租ヲ課スル土地ニシテ地租ヲ課セサル土地トナリタルトキハ其届出アリタル後又ハ其實事ヲ認メタル後ニ開始スル納期ヨリ地租ヲ徵收セス

地租ヲ課セサル土地ニシテ地租ヲ課スル土地トナリタルトキハ地價設定後ニ開始スル納期ヨリ地租ヲ徵收ス但地價設定後ニ開始スル納期ニ於テ前年分地租ヲ徵收スヘ

キ場合ニ於テハ其納期分ノ地租ハ之ヲ徵收セス

前二項ノ規定ハ荒地免租年期若クハ低價年期許可ノ場合又ハ荒地免租年期明若クハ新開免租年期明ノ場合ニ之ヲ準用ス

第十六條 開墾ヲ爲サントスルトキハ政府ニ届出ヘシ

前項ノ開墾地ハ開墾著手ノ年ヨリ二十一年目ニ其成功ノ部分ニ對シ地價ヲ修正ス但地類變換ヲ爲シタル後五年以内ニ開墾シタルモノニ在リテハ其成功ノ部分ニ對シ直ニ其地價ヲ修正ス

十年以内ニ成功シ能ハサル開墾ヲ爲サントスルトキハ政府ニ願出繼下年期ノ許可ヲ受クヘシ繼下年期ハ四十年トス但年期中ハ原地價ニ依リ地租ヲ徵收ス

官有地ヲ開拓シテ民有ニ歸セシ土地ハ其素地相當ト認ムル所ノ地價ヲ定メ尙ホ二十年ノ繼下年期ヲ許可ス但年期中ハ現定地價ニ依リ地租ヲ徵收ス

官有ノ水面ヲ埋立テ又ハ干拓シ民有ニ歸セシ土地ハ六十年ノ新開免租年期ヲ許可ス地目ヲ變換スル爲メ開墾ニ等シキ勞費ヲ要スルモノハ本條第三項ニ準シ四十年ノ地價據置年期ヲ許可スルコトアルヘシ

第十七條 前條ニ依リ開墾ノ届出ヲ爲シタル土地又ハ開墾繼下年期若クハ地價據置年期ノ許可ヲ受ケタル土地ニシテ開墾成功シ又ハ地目變換シタルトキハ其旨政府ニ届出ヘシ此場合ニ於テハ其年ヨリ開墾又ハ變換シタル地目ニ依リ其地租ヲ徵收ス但其年ニ係ル地租ノ全部又ハ一部ノ納期開始後届出アリタルトキハ翌年分地租ヨリ開墾

又ハ變換シタル地目ニ依リ其地租ヲ徵收ス

前項ノ場合ニ於テ開墾又ハ變換地目ノ稅率カ舊地目ノ稅率ト同一ナラサルトキハ舊地目ニ對スル地租額ヲ開墾又ハ變換地目ノ稅率ヲ以テ除シ之ヲ開墾又ハ變換地目ニ對スル地價トシ修正地價ニ依リ地租ヲ徵收スルニ至ル迄其地價ニ依リ地租ヲ徵收ス

第十八條 廢止

第十九條 歐下年期明地價据置年期明新開免租年期明ノトキ其地價ヲ定メ又ハ修正ス

第二十條 荒地ハ其被害ノ年ヨリ十五年以内免租年期ヲ定メ年期明ニ至リ原地價ニ復ス

海嘯ノ爲潮水浸入シ作土ヲ損害シタルモノハ其狀況ニ依リ前項ニ準據スルコトアルヘシ

第二十一條 荒地免租年期明ニ至リ其地ノ現況原地價ニ復シ難キモノハ十五年以内七割以下ノ低價年期ヲ定メ年期明ニ至リ原地價ニ復ス

第二十二條 低價年期明ニ至リ尙ホ原地價ニ復シ難キモノ及ヒ荒地免租年期明ニ至リ原地目ニ復セス他ノ地目ニ變スルモノハ地價ヲ修正ス

第二十三條 免租年期明ニ至リ尙ホ荒地ノ形狀ヲ存スルモノハ更ニ十五年以内免租繼年期ヲ定ム其年期明ニ至リ原地價ニ復シ難キモノハ第二十一條、第二十二條ニ依リ處分ス

第二十四條 川成、海成、湖水成ニシテ免租年期明ニ至リ原形ニ復シ難キモノハ更ニ

二十年以内免租繼年期ヲ許可ス其年期明ニ至リ尙ホ原地目ニ復セス他ノ地目ニ變セサルモノハ川、海、湖ニ歸スルモノトス

第二十四條ノ二 收稅官吏ハ土地ノ檢査ヲ爲シ又ハ納稅義務者若クハ所有者ニ對シ必要ノ事項ヲ尋問スルコトヲ得

第二十五條 土地ヲ欺隱シ地租ヲ遁脫スル者ハ四圓以上四十圓以下ノ罰金又ハ科料ニ處シ現地目ニ依リ地價ヲ定メ欺隱年間ノ地租ヲ追徵ス但發覺ノ日ヨリ三年前ニ溯ルコトヲ得ス

第二十六條 第十一條ニ違反スル者ハ三圓以上三十圓以下ノ罰金又ハ科料ニ處シ且現地目ニ依リ地價ヲ定メ其地租ヲ追徵ス但發覺ノ日ヨリ三年前ニ溯ルコトヲ得ス

第二十七條 第十條第一項、第十六條第一項ニ違反スル者ハ一圓以上一圓九十五錢以下ノ科料ニ處ス其開墾ノ届出ヲ爲ササルモノハ現地目ニ依リ地價ヲ定メ其地租増額ヲ追徵ス但發覺ノ日ヨリ三年前ニ溯ルコトヲ得ス

第二十八條 第二十五條以下ノ所犯借地人、小作人ノ所爲ニ係リ所有主其情ヲ知ラサルトキハ其借地人、小作人ヲ罰シ地租ハ所有主ヨリ追徵ス

第二十九條 第二十五條、第二十六條、第二十七條、第二十八條ノ刑ニ當ル者自首スルトキハ其罰金科料ヲ免ス但其追徵スヘキ地租ハ仍ホ之ヲ納メシム

附 則 (大正八年法律第四十六號)

第七類 土地及水面 地租條例地租條例施行規則

三〇〇

本法施行ノ期日ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム（大正八年五月勅令第二百六十二號ヲ以テ同年六月一日ヨリ施行）
本法施行前第十六條第一項ノ届出ヲ爲シ又ハ同條第三項乃至第六項ノ許可ヲ受ケタル土地ニ關シテハ仍ホ從前ノ例ニ依ル

附 則（大正十五年三月法律第六號）

本法ハ大正十五年分地租ヨリ之ヲ適用ス

地租條例施行規則

（明治四十三年十二月二日勅令第四四四號）

改（大正八年五月勅令第二六三號）
正（十五年五月同第一三九號）

- 第一條 土地ニハ番號ヲ附シ每筆其ノ地價ヲ定ム
- 第二條 一筆ノ土地ハ其ノ一部分左ノ各號ノ一ニ該當スル場合ニ於テ之ヲ分割ス
一 別地目ト爲ルトキ
- 二 地租ヲ課スル土地ニシテ地租ヲ課セサル土地ト爲ルトキ
- 三 地租ヲ課セサル土地ニシテ地租ヲ課スル土地ト爲ルトキ
- 四 所有者ヲ異ニスルトキ
- 五 質權ノ目的ト爲ルトキ

六 百年ヨリ長キ存續期間ノ定アル地上權ノ目的ト爲ルトキ

七 行政區劃ヲ異ニスルトキ

第三條 開墾著手後二十年以内又ハ開墾蹶下年期中ニ於テ地目ヲ變換シタルトキハ開墾ハ之ヲ廢止シタルモノトス

第四條 地租條例第十七條ノ規定ニ依リ開墾地目ニ組換ヘタル土地若ハ官有地ヲ開拓シテ民有ニ歸セシ土地ニシテ開墾著手後二十年以内若ハ蹶下年期中地租ヲ變換シタルトキ又ハ地租條例第十七條ノ規定ニ依リ變換地目ニ組換ヘタル土地ニシテ地價据置年期中地租ヲ變換シ若ハ變換前ノ地目ト同一ノ地目ニ變換シタルトキハ直ニ其ノ地價ヲ修正ス

第五條 地租條例第十七條ノ規定ニ依リ開墾地目ニ組換ヘタル土地若ハ官有地ヲ開拓シテ民有ニ歸セシ土地ニシテ開墾著手後二十年以内若ハ蹶下年期中地目ヲ變換シタルトキ又ハ地租條例第十七條ノ規定ニ依リ變換地目ニ組換ヘタル土地ニシテ地價据置年期中變換前ノ地目ト異ナル地目ニ變換シタルトキハ地價ハ之ヲ修正セス
前項ノ場合ニ於テ變換地目ノ稅率カ舊地目ノ稅率ト同一ナラサルトキハ舊地目ニ對スル地租額ヲ變換地目ノ稅率ヲ以テ除シ之ヲ變換地目ニ對スル地價トシ修正地價ニ依リ地租ヲ徵收スルニ至ル迄其ノ地價ニ依リ地租ヲ徵收ス

第六條 官有地ヲ開拓シ又ハ官有ノ水面ヲ埋立テ若ハ干拓シ民有ニ歸セシ土地ニ付蹶下年期又ハ新開免租年期ノ許可ヲ請ハサルトキハ直ニ其ノ地價ヲ定ム

第七類 土地及水面 地租條例施行規則

三〇一

第七類 土地及水面 地租條例施行規則

三〇二

第七條 荒地免租年期、免租繼年期又ハ低價年期中土地ノ形狀ヲ變更スルコトアルモ地目變換、地類變換又ハ開墾ト看做サス

第八條 地租條例第十六條第二項ノ場合ニ於テ開墾著手ノ年ヨリ二十一年目ニ成功セサル部分ノ土地ニ付テハ其ノ後成功シタル部分アル毎ニ其ノ地價ヲ修正ス

第九條 荒地免租年期、免租繼年期又ハ低價年期中再ヒ荒地ト爲リ免租年期ノ許可ヲ受ケタルトキハ前ニ受ケタル年期ハ消滅ス

第十條 地目變換、地類變換又ハ開墾ニシテ他ノ法令ニ依リ許可ヲ要スルモノハ其ノ許可ノ出願ヲ以テ地租條例ニ依ル届出ト看做ス

第十一條 地租條例第十六條第三項、第六項又ハ第二十條ノ規定ニ依リ蹶下年期、地價据置年期又ハ荒地免租年期ノ許可ヲ受ケムトスル者ハ稅務署長ニ申請スヘシ

官有地ヲ開拓シ又ハ官有ノ水面ヲ埋立テ若ハ干拓シ民有ニ歸セシ土地ニ付蹶下年期又ハ新開免租年期ノ許可ヲ受ケムトスル者ハ民有ニ歸セシ後六十日內ニ稅務署長ニ申請スヘシ

第十二條 地租條例第二十一條、第二十三條若ハ第二十四條ノ規定又ハ明治三十四年法律第三十號ニ依リ低價年期、荒地免租繼年期又ハ年期延長ノ許可ヲ受ケムトスル者ハ年期滿了後六十日內ニ稅務署長ニ申請スヘシ

第十三條 左ノ場合ニ於テハ土地ノ所有者又ハ納稅義務者ハ三十日內ニ稅務署長ニ届出ツヘシ

一 地目ヲ變換シ又ハ地類ヲ變換シタルトキ

二 開墾ニ著手シタルトキ、開墾成功シタルトキ、開墾ヲ廢止シタルトキ又ハ開墾ノ目的ヲ變更シタルトキ

三 地租ヲ課スル土地ヲ用惡水路、溜池、堤塘、井溝、水道用地、鐵道用地、軌道用地、運河用地若ハ公衆ノ用ニ供スル道路ト爲シタルトキ又ハ之カ供用ヲ廢止シタルトキ

四 地租ヲ課スル土地ヲ公用若ハ公共ノ用ニ供シ又ハ之カ供用ヲ廢止シタルトキ

五 地租ヲ課スル土地ヲ地租條例第四條第一項第二號ノ規定ニ依リ公用若ハ公共ノ用ニ供スヘキモノト定メタルトキ又ハ一年內ニ公用若ハ公共ノ用ニ供セサルトキ

第十四條 一筆ノ土地ヲ分割シ又ハ數筆ノ土地ヲ合併セムトスルトキハ土地ノ所有者ハ稅務署長ニ届出ツヘシ

第十五條 左ノ場合ニ於テハ土地ノ所有者又ハ納稅義務者ハ年期滿了後六十日內ニ稅務署長ニ届出ツヘシ

一 荒地免租年期ヲ有スル土地ニシテ其ノ年期明ニ至リ他ノ地目ニ變シタルトキ

二 低價年期又ハ免租繼年期ヲ有スル土地ニシテ其年期明ニ至リ原地價ニ復シ難キトキ又ハ他ノ地目ニ變シタルトキ

三 蹶下年期、地價据置年期、新開免租年期ヲ有スル土地ニシテ年期明トナリタルトキ

第七類 土地及水面 地租條例施行規則

三〇三

第七類 土地及水面 地租條例施行規程

三〇四

第十五條ノ二 地價ヲ定メ又ハ修正スヘキ場合ニ於テハ土地ノ所有者又ハ納稅義務者ハ土地ノ測量圖及實地ノ狀況ニ依リ近傍ノ類地ト其ノ地力ヲ比較シ其ノ地價ヲ見積リタル書面ヲ稅務署長ニ差出スヘシ

第十六條 納稅義務者其ノ土地所在ノ市區町村內ニ住所又ハ居所ヲ有セサルトキハ地租ニ關スル事務ヲ處理セシムル爲其ノ市區町村內ニ住所ヲ有スル者ヲ納稅管理人ト定メ其ノ市區町村長又ハ戶長ニ届出ツヘシ

前項ノ町村ト稱スルハ町村制ヲ施行セサル地ニ在リテハ戶長ノ職務ヲ行フ區域トス
第十七條 大正十五年法律第四十七號ニ規定スル永小作權者ニシテ地租條例第十三條ノ二ノ規定ノ適用ヲ受ケムトスルモノハ毎年六月中ニ左ノ事項ヲ田畑所在ノ市町村長ニ届出ツヘシ

- 一 永小作權ノ目的タル田畑ノ番號、地目、段別及地價
- 二 田畑所有者ノ住所氏名
- 三 永小作權設定年月日

前項ノ届出期間經過後新ニ地租條例第十三條ノ二ノ規定ニ該當スルニ至リタル場合ニ於テハ次ノ納期開始前ニ於テ前項ノ届出ヲ爲スヘシ
市町村長ニ於テ必要アリト認ムルトキハ第一項又ハ前項ノ届出ヲ爲シタル者ニ對シ永小作權ノ設定ヲ證明スヘキ證書其ノ他必要ナル書類ノ呈示又ハ提出ヲ求ムルコトヲ得

第一項又ハ第二項ノ届出ヲ爲シタル永小作權者ハ當該田畑ニ關シ地租條例第十三條ノ二ノ規定ノ適用ニ付テハ之ヲ所有者ト看做ス

第十八條 田畑ニ付地租ヲ納ムヘキ者(前條ノ規定ニ依リ所有者ト看做サレタル永小作權者ヲ含ム)ニシテ地租條例第十三條ノ二ノ規定ノ適用ヲ受ケムトスルモノハ毎年六月中(鹿兒島縣大島郡及沖繩縣ニ在リテハ三月中)ニ當該田畑各筆ノ番號及地目ヲ記載シ住所地ノ市町村長ヲ經由シ稅務署長ニ申請スヘシ但シ其ノ住所地及隣接市町村內ニ於ケル其ノ者ノ田畑ノ全部ニ付申請ヲ爲ス場合ニ於テハ各筆ノ記載ヲ省略スルコトヲ得

前項ノ申請期間經過後新ニ地租條例第十三條ノ二ノ規定ニ該當スルニ至リタル田畑ニ付テハ次ノ納期開始前ニ於テ前項ノ申請ヲ爲スコトヲ得

第十九條 市町村長ハ其ノ市町村內ノ田畑ニ付地租ヲ納ムヘキ者ノ住所カ隣接市町村內ニ在ルトキハ各人別田畑ノ地價合計金額ヲ前條第一項ノ申請期間內ニ其ノ住所地ノ市町村長ニ通知スヘシ
前項ノ通知事項ニ異動ヲ生シタルトキハ田畑地租ノ各納期開始前之ヲ住所地ノ市町村長ニ通知スヘシ

第二十條 隣接市町村內ノ田畑ニ付第十八條ノ申請アリタル場合ニ於テ申請者ノ住所地市町村及其ノ隣接市町村內ニ於ケル田畑地價ノ合計金額其ノ同居家族ノ分ト合算シ二百圓未滿ナルトキハ住所地ノ市町村長ハ其ノ旨田畑所在ノ市町村長ニ通知スヘシ

第七類 土地及水面 地租條例施行規則

三〇五

第七類 土地及水面 地租條例施行規則

三〇六

前項ノ通知事項ニ異動ヲ生シタルトキハ田畑地租ノ各納期開始前之ヲ田畑所在ノ市町村長ニ通知スヘシ

第二十一條 市町村長ハ其ノ市町村内ノ田畑ニ付第十八條ノ申請又ハ前條ノ通知アリタルトキハ地租條例第十三條ノ二ノ規定ニ依リ地租ヲ徵收セサル田畑ヲ調査シ之ヲ稅務署長ニ報告スヘシ

附 則

本令ハ明治四十四年一月一日ヨリ之ヲ施行ス

附 則 (大正八年勅令第二六三號)

本令ハ大正八年六月一日ヨリ之ヲ施行ス

本令施行前地租條例第十六條第一項ノ届出ヲ爲シタル土地ニ付テハ仍從前ノ例ニ依ル

附 則 (大正十五年五月勅令第一三九號)

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

田畑地租ノ納期カ六月一日ヨリ開始スル地方ニ在リテハ大正十五年六月一日ニ於ケル

田畑地租ノ納稅義務者ハ大正十五年ニ限り第十八條第一項ノ申請ヲ爲シタルモノト看做ス

國有財産法 (大正十年四月八日法律第四三號)

第一條 本法ニ於テ國有財産ト稱スルハ國有ノ不動産竝勅令ヲ以テ定ムル國有ノ動産及權利ヲ謂フ

第二條 國有財産ヲ分チテ左ノ四種トス

一 公共用財産 國ニ於テ直接公共ノ用ニ供シ又ハ供スルモノト決定シタルモノ

二 公用財産 國ニ於テ神社ノ用又ハ國ノ事務、事業若ハ官吏其ノ他ノ職員ノ住居

ノ用ニ供シ又ハ供スルモノト決定シタルモノ

三 營林財産 國ニ於テ森林經營ノ目的ニ供シ又ハ供スルモノト決定シタルモノ

四 雜種財産 前各號ニ屬セサルモノ

第三條 國有財産ニ關スル事務ハ各省大臣之ヲ管理シ國有財産ニ關スル總轄事務ハ大藏大臣之ヲ管理スヘシ

第四條 國有財産ハ雜種財産ヲ除クノ外之ヲ讓渡シ又ハ之ニ私權ヲ設定スルコトヲ得ス但シ其ノ用途又ハ目的ヲ妨ケサル限度ニ於テ其ノ使用又ハ收益ヲ爲サシムルハ此ノ限ニ在ラス

第七類 土地及水面 國有財産法

三〇七

第七類 土地及水面 國有財產法

三〇八

第五條 雜種財產ハ左ニ掲クル場合ニ限り之ヲ讓與スルコトヲ得

一 帝室用又ハ公共團體ニ於テ公共用若ハ公用ニ供スル爲必要アルトキ
二 公共用財產又ハ公用財產ノ用途ヲ廢止シタル場合ニ於テ勅令ノ定ムル所ニ依リ之ヲ其ノ維持保存ノ費用ヲ負擔シタル者、其ノ用途ニ代ルヘキ他ノ施設ヲ爲シタル者其ノ他ノ緣故者又ハ關係者ニ讓與スルトキ

三 神社、寺院又ハ佛堂ノ合併シタル場合ニ於テ之ニ因リ其ノ供用ヲ止メタル國有財產ヲ其ノ合併シタル神社、寺院又ハ佛堂ニ讓與スルトキ

第六條 雜種財產ハ法律ヲ以テ特別ノ定ヲ爲シタル場合ニ限り之ヲ出資ノ目的ト爲スコトヲ得

第七條 雜種財產ハ土地及建物以外ノ土地ノ定著物ニ限り帝室用又ハ國、公共團體若ハ私人ニ於テ公共用、公用若ハ公益事業ニ供スル爲必要アルトキハ勅令ノ定ムル所ニ依リ之ヲ他ノ土地及建物以外ノ土地ノ定著物ト交換ヲ爲スコトヲ得

前項ノ交換ヲ爲ス場合ニ於テ其ノ價格均シカラサルトキハ金錢ヲ以テ補足スヘシ
第八條 用途及期間ヲ指定シテ國有財產ノ賣拂、讓與又ハ交換ヲ爲シタル場合ニ於テ指定期間内ニ之ヲ其ノ用途ニ供セス又ハ之ヲ其ノ用途ニ供シタル後指定期間内ニ其ノ用途ヲ廢止シタルトキハ政府ハ其ノ契約ヲ解除スルコトヲ得

第九條 國有財產ノ賣拂代金又ハ交換差金ハ財產引渡前之ヲ納付セシムヘシ但シ勅令ノ定ムル所ニ依リ其ノ延納ノ特約ヲ爲スコトヲ得

第十條 國有財產ニ付境界査定ヲ施行セムトスルトキハ豫メ期日ヲ定メテ隣接地所有者ニ之ヲ通知シ其ノ立會ヲ求ムヘシ

隣接地所有者期日ニ於テ立會ハサルコトアルモ境界査定ヲ施行スルコトヲ得

第十一條 境界査定ヲ了シタルトキハ隣接地所有者ニ之ヲ通知スヘシ

第十二條 前二條ノ規定ニ依リ通知ヲ受クヘキ者ノ住所所共ニ不明ナルトキハ通知ノ要旨ヲ公告スヘシ前項ノ規定ニ依リ公告シタル場合ニ於テ公告ノ初日ヨリ起算シ三十日ヲ經過シタルトキハ通知ヲ受ケタルモノト看做ス

第十三條 隣接地所有者其ノ他境界査定ニ對シ不服アル者ハ訴願シ又ハ行政裁判所ニ出訴スルコトヲ得

第十四條 國有財產ニ付境界査定又ハ測量ヲ爲ス爲政府ニ於テ他人ノ土地ニ立入り、目標ヲ設置シ又ハ障害物ヲ除却スルノ必要アルトキハ當該土地又ハ物件ノ所有者及占有者ハ正當ノ理由ナクシテ之ヲ拒ムコトヲ得ス但シ之ニ因リテ生シタル損害ニ付賠償ヲ求ムルコトヲ得

第十五條 國有財產ノ貸付ハ左ノ期間ヲ超ユルコトヲ得ス

一 植樹ヲ目的トシテ土地及建物以外ノ土地ノ定著物ヲ貸付スル場合ニ在リテハ八年

二 前號ノ場合ヲ除クノ外土地及建物以外ノ土地ノ定著物ヲ貸付スル場合ニ在リテハ三十年

第七類 土地及水面 國有財產法

三〇九

第七類 土地及水面 國有財產法

三 建物其ノ他ノ物件ヲ貸付スル場合ニ在リテハ十年
貸付期間ハ之ヲ更新スルコトヲ得此ノ場合ニ於テハ更新ノ時ヨリ前項ノ期間ヲ超ユ
ルコトヲ得ス

第十六條 國有財產ハ皇室用又ハ公共團體若ハ私人ニ於テ公共用、公用若ハ公益事業
ニ供スル爲必要アル場合及勅令ニ特別ノ規定アル場合ヲ除クノ外無償ニテ之ヲ貸付
スルコトヲ得ス

第十七條 國有財產ノ貸付料ハ毎年定期ニ之ヲ納付セシムヘシ但シ數年分ヲ前納セシ
ムルコトヲ妨ケス

第十八條 國有財產ヲ貸付シタル場合ニ於テ其ノ貸付期間中皇室用又ハ國、公共團體
若ハ私人ニ於テ公共用、公用若ハ公益事業ニ供スル爲必要ヲ生シタルトキハ政府ハ
其契約ヲ解除スルコトヲ得

前項ノ規定ニ依リ契約ヲ解除シタル場合ニ於テハ借受人ハ之ニ因リテ生シタル損害
ニ付賠償ヲ求ムルコトヲ得

第十九條 貸付期間ノ終了又ハ貸付契約ノ解除ニ當リ政府ニ於テ時價ヲ提供シ其ノ國
有財產ノ上ニ存スル建物其ノ他ノ物件ヲ買取ルヘキ旨通知シタルトキハ其ノ所有者
ハ正當ノ理由ナクシテ之ヲ拒ムコトヲ得ス

第二十條 前五條ノ規定ハ貸付ニ依ラスシテ國有財產ノ使用又ハ收益ヲ爲サシムル契
約ニ付之ヲ準用ス

第二十一條 雜種財產ニ付土地ノ開拓又ハ水面ノ埋立若ハ干拓ヲ爲サムトスル者アル
場合ニ於テハ勅令ノ定ムル所ニ依リ事業者ニ對シ事業ノ成功ヲ條件トシテ其ノ財產
ノ賣拂、讓與又ハ貸付ノ豫約ヲ爲シ其ノ事業ヲ爲サシムルコトヲ得

前項ノ規定ニ依リ事業ヲ爲サシムル契約ヲ爲シタル場合ニ於テハ事業ノ成功ニ要ス
ル豫定期間事業者ヲシテ其ノ成功シタル部分ニ付無償ニテ使用又ハ收益ヲ爲サシム
ルコトヲ得

第二十二條 前條第一項ノ規定ニ依リ事業ヲ爲サシムル契約ヲ爲シタル場合ニ於テ指
定期間内ニ事業者其ノ事業ニ著手セサルトキハ政府ハ其ノ契約ヲ解除スルコトヲ得

第二十三條 第二十一條第一項ノ規定ニ依リ事業ヲ爲サシムル契約ヲ爲シタル場合ニ
於テ豫定期間内ニ事業成功セサルトキト雖土地又ハ水面ノ狀況ニ依リ支障ナシト認
ムルトキハ事業者ニ對シ其ノ成功シタル部分ノ賣拂、讓與又ハ貸付ヲ爲スコトヲ得

第二十四條 從前ヨリ引續キ寺院又ハ佛堂ノ用ニ供スル雜種財產ハ勅令ノ定ムル所ニ
依リ其ノ用ニ供スル間無償ニテ之ヲ當該寺院又ハ佛堂ニ貸付シタルモノト看做ス
寺院又ハ佛堂ノ土地ニ係ル雜種財產ハ其ノ用ニ供スル爲必要アルトキハ勅令ノ定ム
ル所ニ依リ無償ニテ第十五條ノ規定ニ拘ラス之ヲ當該寺院又ハ佛堂ニ貸付スルコト
ヲ得

第二十五條 政府ハ國有財產ノ種類ニ從ヒ其ノ臺帳ヲ備フヘシ
臺帳ニ記載スヘキ事項ハ命令ヲ以テ之ヲ定ム

第七類 土地及水面 國有財產法

第七類 土地及水面 國有財產法

三一二

第二十六條 政府ハ每會計年度間ニ於ケル國有財產増減總計算書及毎五年三月三十一日現在ノ國有財產現在額總計算書ヲ調製シ會計検査院ノ検査ヲ經テ之ヲ帝國議會ニ報告スヘシ

前項ノ國有財產増減總計算書ニハ各省ノ國有財產増減報告書ヲ、國有財產現在額總計算書ニハ各省ノ國有財產現在額報告書ヲ添附スヘシ

附 則

第二十七條 本法施行ノ期日ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム (大正十一年勅令第六一號ヲ以テ同年四月一日ヨリ施行)

第二十八條 第二十五條及第二十六條ノ規定ハ當分ノ内公共用財産ニ付テ之ヲ適用セス

第二十九條 第二十六條ノ規定ニ依ル國有財産増減總計算書ハ本法施行ノ日ノ屬スル年度分ヨリ、國有財産現在額總計算書ノ第一回分ハ本法施行ノ日ノ現在ニ依リ之ヲ調製スヘシ

第三十條 北海道國有未開地處分法中ノ規定ハ本法ノ規定ニ牴觸スルモノト雖當分ノ内仍其ノ效力ヲ有ス

第三十一條 國有林野法第二條、第四條乃至第七條、第九條、第十二條乃至第十四條、

第十六條、第二十四條及第二十五條ノ規定ハ其ノ效力ヲ失フ但シ本法施行前ニ係ル國有林野ノ増減異動報告ニ付テハ仍從前ノ例ニ依ル

第三十二條 從前ノ法令ニ依リテ爲シタル處分、契約其ノ他ノ行爲ハ本法中ニ相當

スル規定アル場合ニ於テハ本法ニ依リテ之ヲ爲シタルモノト看做ス

第三十三條 本法ヲ朝鮮、臺灣又ハ樺太ニ施行スル場合ニ於テ必要アルトキハ勅令ヲ以テ特別ノ定ヲ爲スコトヲ得

國有財產法施行令

(大正十一年一月二十) 改(昭和二年三月三十一日) 八日勅令第一五號) 正(勅令 第四二號)

第一章 總 則

第一條 左ニ掲クル動産及權利ニシテ國有ノモノハ之ヲ國有財產法第一條ノ國有財產トス

- 一 船舶、浮標、浮棧橋及浮船渠
- 二 不動産又ハ前號ニ掲クル動産ノ從物
- 三 事業所ニ於ケル機械及重要ナル器具
- 四 地上權、地役權、鑛業權、砂鑛權其ノ他之ニ準スヘキ權利
- 五 株式及出資ニ因ル權利

前項第三號ノ事業所ノ範圍ハ所管大臣大藏大臣ト協議シテ之ヲ定ム

第七類 土地及水面 國有財產法 國有財產法施行令

三一三

第七類 土地及水面 國有財産法施行令

三一四

第二條 各省大臣公共用財産又ハ公用財産ノ用途ヲ廢止セムトスルトキハ豫メ大藏大臣ニ之ヲ通知シ特ニ大藏大臣ト協定シタルモノヲ除クノ外用途廢止後遲滯ナク之ヲ大藏大臣ニ引繼クヘシ

前項ノ規定ハ用途ノ廢止ト同時ニ國有財産タルノ性質ヲ失フモノ、國有林野法第三條第二項ノ規定ニ依リ營林財産ト爲スノ必要アルモノ、史蹟名勝天然紀念物ニ指定セラレタルモノ及帝國鐵道會計、製鐵所特別會計、大學資金又ハ學校及圖書館資金ニ屬スルモノニ付之ヲ適用セス

第三條 各省大臣國有財産ノ管理換ヲ受ケムトスルトキハ所管大臣及大藏大臣ニ協議スヘシ

第四條 左ニ掲クル場合ニ於テハ所管大臣ハ大藏大臣ニ協議スヘシ

一 公用財産タル土地ノ用途ヲ變更セムトスル場合ニシテ大藏大臣ノ定ムルモノニ該當スルトキ

二 公用財産ト爲スノ目的ヲ以テ土地ノ交換ヲ爲シ又ハ寄附ヲ受ケムトスルトキ

三 雜種財産ヲ公用財産又ハ營林財産ト爲サムトスルトキ

四 營林財産ノ目的ヲ廢止セムトスルトキ

第五條 各省大臣公用財産ト爲スノ目的ヲ以テ土地ノ買入若ハ收用ヲ爲シ又ハ地上權ヲ取得シタルトキハ遲滯ナク之ヲ大藏大臣ニ通知スヘシ

第六條 前二條ノ規定ハ國有財産法施行地外ニ在ル財産及帝國鐵道會計ニ屬シ又ハ屬

スヘキ財産ニ付之ヲ適用セス

第七條 國有財産ニ關スル事務ニ從事スル職員ハ其ノ取扱ニ係ル國有財産ヲ讓受ケ又ハ自己ノ所有物ト交換スルコトヲ得ス

第二章 賣拂、讓與及交換

第八條 公共團體ニ於テ維持保存ノ費用ヲ負擔シタル公共用財産ノ用途ヲ廢止シタル場合ニ於テハ之ヲ其ノ公共團體ニ讓與スルコトヲ得但シ特別ノ事由アル場合ヲ除クノ外費用負擔ノ義務ヲ負ヒタル期間カ十年ニ滿タサルモノニ付テハ此限ニ在ラス

第九條 公共團體又ハ私人ニ於テ公共用財産ノ用途ニ代ルヘキ他ノ施設ヲ爲シタル爲其ノ用途ヲ廢止シタル場合ニ於テハ之ヲ其ノ施設ヲ爲シタル者又ハ其ノ相續人其ノ他ノ包括承繼者ニ讓與スルコトヲ得但シ財產ノ見込價格カ其ノ施設ニ要シタル費用ノ額ヲ超過スルトキハ超過額ニ相當スル部分ニ付テハ此ノ限ニ在ラス

第十條 公共用財産又ハ公用財産ノ用途ヲ廢止シタル場合ニ於テ其ノ財産中寄附ニ係ルモノハ之ヲ其ノ寄附者又ハ其ノ相續人其ノ他ノ包括承繼者ニ讓與スルコトヲ得但シ寄附ノ際特約ヲ爲シタル場合ヲ除クノ外寄附ヲ受ケタル後二十年ヲ經過シタルモノニ付テハ此ノ限ニ在ラス

第十一條 國有財産ニ付交換ヲ爲サムトスル場合ニ於テハ當該官廳ハ目的物ノ價格ヲ評定シ其ノ基礎ヲ明ニシタル調書ヲ作成スヘシ

第七類 土地及水面 國有財産法施行令

三一五

第七類 土地及水面 國有財産法施行令

評定價格ノ差額カ其ノ高價ナルモノノ價格ノ四分ノ一ヲ超ユルトキハ交換ヲ爲スコトヲ得ス

第十二條 前條第一項ノ規定ハ隨意契約ニ依リ國有財産ノ賣拂ヲ爲サムトスル場合ニ之ヲ準用ス

第十三條 一定ノ用途ニ供セシムル目的ヲ以テ國有財産ノ賣拂、讓與又ハ交換ヲ爲ス場合ニ於テハ當該官廳ハ其ノ用途竝之ヲ其ノ用途ニ供スヘキ始期及期間ヲ指定スヘシ但シ當該官廳ニ於テ特ニ其ノ必要ナシト認メタルトキハ此ノ限ニ在ラス

第三章 境界査定

第十四條 國有財産ニ付境界ノ分明ナラサルモノアル場合ニ於テ當該官廳必要ト認メタルトキ又ハ隣接地所有者ノ申請アリタルトキハ當該官廳ハ其ノ境界査定ヲ施行スヘシ

第十五條 境界査定ヲ施行セムトスルトキハ當該官廳ハ其ノ日時及場所ヲ定メ書面ヲ以テ隣接地所有者ニ之ヲ通知スヘシ

前項ノ書面ノ送達ハ期日ニ付豫メ隣接地所有者ノ承諾アリタル場合ヲ除クノ外期日ノ前日ヨリ起算シ少クトモ七日前之ヲ爲スヘシ

第十六條 隣接地所有者期日ニ於テ立會ヲ爲スコト能ハサル事由ヲ申出テタルトキハ當該官廳ハ其ノ期日ヲ變更スルコトヲ得

前條第二項ノ規定ハ前項ノ場合ニ之ヲ適用セス

第十七條 境界査定ヲ了シタルトキハ當該官廳ハ書面ヲ以テ隣接地所有者ニ之ヲ通知スヘシ

隣接地所有者ハ當該官廳又ハ其ノ指定シタル官公署ニ就キ査定圖又ハ其ノ謄本ノ閱覽ヲ求ムルコトヲ得

第十八條 當該官廳第十五條又ハ前條ノ通知ヲ爲シタルトキハ配達證明郵便ニ依リタル場合ヲ除クノ外其ノ受領書ヲ徴スヘシ

第十九條 國有財産法第十二條ノ公告ハ官報ヲ以テ之ヲ爲シ且關係市區町村長又ハ之ニ準スヘキ者ヲシテ揭示其ノ他ノ方法ニ依リ之ヲ爲サシムヘシ

第四章 貸付及準貸付

第二十條 公共用財産又ハ公用財産ト爲スノ目的ヲ以テ寄附ヲ受ケタル國有財産ハ其ノ用途ニ供セサル期間無償ニテ之ヲ其ノ寄附者又ハ其ノ相續人其ノ他ノ包括承繼者ニ貸付スルコトヲ得

第二十一條 隨意契約ニ依リ國有財産ヲ貸付セムトスルトキハ當該官廳ハ貸付料ヲ評定シ其ノ基礎ヲ明ニシタル調書ヲ作成スヘシ國有財産法第十五條第二項ノ規定ニ依リ貸付期間ヲ更新セムトスルトキ亦同シ

第二十二條 前二條ノ規定ハ貸付ニ依ラスシテ國有財産ノ使用又ハ收益ヲ爲サシムル

第七類 土地及水面 國有財産法施行令

契約ニ付之ヲ準用ス

第二十三條 雜種財産ニ付土地ノ開拓又ハ水面ノ埋立若ハ干拓ノ事業ヲ爲サシムル契約ヲ爲サムトスル場合ニ於テハ當該官廳ハ事業者ヨリ左ノ事項ヲ具シタル事業計畫書ヲ提出セシムヘシ

一 土地又ハ水面ノ所在及面積

二 事業ノ目的

三 事業施行ノ方法及順序

四 成功豫定期間

五 收支豫算

六 計畫圖

事業成功ノ後公共ノ用ニ供スヘキ部分アルトキハ其ノ位置及面積ヲ事業計畫書ニ記載セシムヘシ

第二十四條 國有財産法第二十一條第一項ノ規定ニ依リ國有財産ノ賣拂又ハ有償貸付ノ豫約ヲ爲サムトスルトキハ當該官廳ハ賣拂價格又ハ貸付料ヲ評定シ其ノ基礎ヲ明ニシタル調査ヲ作成スヘシ

前項ノ規定ハ國有財産ノ讓與又ハ無償貸付ノ豫約ヲ爲サムトスル場合ニ之ヲ準用ス

第二十五條 事業ノ成功ニ要スル豫定期間ハ契約ノ日ヨリ十年以内ニ於テ之ヲ定ムヘシ

天災其ノ他己ムヲ得サル事由ニ因リ必要アリト認ムルトキハ當該官廳ハ前項ノ規定ニ依リ定メタル期間ノ半ニ相當スル期間以内ニ於テ豫定期間ノ延長ヲ承認スルコトヲ得

第二十六條 當該官廳ハ契約ノ日ヨリ二年以内ノ期間ヲ指定シ事業者ヲシテ其ノ事業ニ著手セシムヘシ

前條第二項ノ規定ハ前項ノ期間ニ付之ヲ準用ス

第二十七條 國有財産法第二十三條ノ規定ニ依リ事業者ニ對シ成功部分ノ賣拂、讓與又ハ貸付ヲ爲サムトスル場合ニ於テハ當該官廳ハ特別ノ事由アリト認ムル場合ヲ除クノ外豫約ニ定メタル條項ニ準シテ其ノ契約ヲ爲スヘシ

第二十八條 國有財産法第二十四條第一項ニ規定スル雜種財産ノ使用又ハ收益ニ付テハ寺院又ハ佛堂ニ關スル主務大臣ノ定ムル所ニ依ルヘシ

第二十九條 寺院又ハ佛堂國有財産法第二十四條第二項ノ規定ニ依リ雜種財産ノ貸付ヲ受ケムトスルトキハ地方長官ヲ經由シ主務大臣、其ノ財産ヲ管理スル大臣及大藏大臣ニ願出ツヘシ

前條ノ規定ハ前項ノ規定ニ依リ貸付シタル雜種財産ニ付之ヲ準用ス

第五章 臺帳

第三十條 國有財産ノ臺帳ハ所管ノ各省ニ之ヲ備フヘシ但シ部局ノ長ニ於テ國有財産

第七類 土地及水面 國有財産法施行令

第七類 土地及水面 國有財産法施行令

三二〇

ニ關スル事務ヲ分掌スル場合ニ於テハ其ノ部局毎ニ之ヲ備ヘ各省ニハ其ノ總括簿ヲ備フルモノトス

第三十一條 國有財産ノ臺帳ハ其ノ種類毎ニ之ヲ調製シ左ノ事項ヲ記載スヘシ但シ財産ノ性質ニ依リ其ノ記載事項ヲ省略スルコトヲ得

一 種目

二 所在又ハ所屬

三 數量

四 價格

五 得喪變更ノ年月日及事由

六 其ノ他必要ナル事項

第三十二條 國有財産ノ臺帳ニ登錄スヘキ價格ハ購入ニ係ルモノハ購入價格、交換ニ係ルモノハ交換當時ニ於ケル評定價格、收用ニ係ルモノハ補償金額ニ依リ其ノ他ノモノハ左ノ區分ニ依リ之ヲ定ムヘシ

一 土地ニ付テハ類地ノ時價ニ比準シテ算定シタル金額

二 立木竹ニ付テハ其ノ材積ニ單價ヲ乘シテ算定シタル金額、庭木其ノ他材積ヲ基準トシテ算定シ難キ立木竹ハ見込價格

三 建物其ノ他ノ工作物及船舶其ノ他ノ動産ニ付テハ建築費、製造費又ハ見込價格

四 權利ニ付テハ第一條第四號ニ掲クルモノハ見込價格、第五號ニ掲クルモノハ拂

込金額又ハ出資金額

第三十三條 土地及立木竹ノ價格ハ國有財産現在額總計算書調製ノ年三月三十一日ノ現況ニ依リ之ヲ改定スヘシ但シ臺帳ニ登錄シタル後二年ヲ經過セサルモノニ付テハ此ノ限ニ在ラス

前項ノ場合ニ於テ土地ノ價格ハ類地ノ時價ニ比準シ、立木竹ノ價格ハ其ノ材積ニ單價ヲ乘シテ之ヲ算定スヘシ但シ庭木其ノ他材積ヲ基準トシテ算定シ難キ立木竹ニ付テハ見込價格ニ依ル

前二項ノ規定ハ帝國鐵道會計ニ屬スルモノニ付テハ適用セス

第三十四條 作業會計若ハ造幣局特別會計ノ固定資本ニ屬スルモノ又ハ製鐵所特別會計ノ固定財産ノ價格ハ前二條ノ規定ニ拘ラス其ノ資本價格又ハ財産價格ニ依ルヘシ

第六章 計算書及報告書

第三十五條 各省大臣ハ會計検査院ニ證明ノ爲國有財産ノ増減計算書ヲ調製シ證據書類ヲ添ヘ之ヲ會計検査院ニ送付スヘシ

前項ノ計算書ハ國有財産ニ關スル事務ヲ分掌スル部局ノ長ヨリ直ニ會計検査院ニ送付セシムルコトヲ得

第三十六條 各省大臣ハ毎會計年度間ニ於ケル國有財産増減報告書ヲ調製シ翌年度八

第七類 土地及水面 國有財産法施行令

三二一

第七類 土地及水面 國有財産法施行令

三二二

月三十一日迄ニ之ヲ大藏大臣ニ送付スヘシ
大藏大臣ハ各省ノ國有財産増減報告書ニ基キ國有財産増減總計算書ヲ調製シ各省ノ國有財産増減報告書ト共ニ之ヲ會計検査院ニ送付スヘシ

第三十七條 各省大臣ハ每五年三月三十一日現在ニ於ケル國有財産現在額報告書ヲ調製シ其ノ年九月三十日迄ニ之ヲ大藏大臣ニ送付スヘシ

大藏大臣ハ各省ノ國有財産現在額報告書ニ基キ國有財産現在額總計算書ヲ調製シ各省ノ國有財産現在額報告書ト共ニ之ヲ會計検査院ニ送付スヘシ

第七章 雜 則

第三十八條 本令ニ定ムルモノヲ除クノ外國有財産ノ臺帳ニ關シ必要ナル事項ハ大藏大臣之ヲ定ム

第三十九條 第三十五條ニ規定スル計算證明書類ノ様式及送附期限ニ付テハ會計検査院ノ定ムル所ニ依ルヘシ

第四十條 前條ニ定ムルモノヲ除クノ外本令ニ定ムル諸計算書ノ様式ハ大藏大臣之ヲ定ム

第四十一條 本令ニ定ムル帳簿及書類ノ様式ニハ國防上秘密ヲ要スル國有財産ニ付必要ナル特例ヲ設クヘシ

附 則

第四十二條 本令ハ國有財産法施行ノ日ヨリ之ヲ施行ス

第四十三條 左ノ命令ハ之ヲ廢止ス但シ官有財産ノ増減異動ニシテ本令施行前ニ係ルモノノ報告ニ付テハ仍從前ノ例ニ依ル

明治七年九月二十三日達皇城周圍内外ノ塹壘等修繕改築ニ關スル件

明治八年第四百四十六號達

明治八年第四百九十八號達

明治九年第四十六號達

明治十三年第六號達

明治十三年七月八日達皇城周圍内外ノ塹壘外岸接近ノ官有地へ家屋等建築ニ關スル件

明治十四年第十號達

明治十六年第四十五號達

官有地特別處分規則

官有財産管理規則

官有地取扱規則

明治二十四年勅令第十五號

第七類 土地及水面 國有財産法施行令

三二三

第七類 土地及水面 國有財産法施行令

三二四

明治二十七年勅令第九十二號
明治三十六年勅令第九十六號
明治三十九年勅令第二百二十號
明治四十一年勅令第一百十九號
明治四十二年勅令第七十號
大正六年勅令第二百二十四號

第四十四條 本令施行ノ際ニ於ケル各省所管ノ雜種財産ハ國有林野及北海道國有未開地ヲ除クノ外第二條ノ規定ニ準シ本令施行ノ日ノ現在ニ依リ之ヲ大藏大臣ニ引繼クヘシ

第四十五條 本令施行ノ際國有財産ノ臺帳ニ登録スヘキ土地及立木竹ノ價格ハ其ノ購入、交換又ハ收用ニ係ルモノト雖爾後二年ヲ經過シタルモノニ付テハ帝國鐵道會計ニ屬スルモノヲ除クノ外第三十二條第一號又ハ第二號ノ規定ニ依リ算定シタル金額ニ依ル

第四十六條 各省大臣ハ本令施行ノ日ノ現在ニ於ケル國有財産現在額報告書ヲ調製シ其ノ年十月三十一日迄ニ之ヲ大藏大臣ニ送付スヘシ

第四十七條 前三條ニ規定スルモノヲ除クノ外本令施行ニ關シ必要ナル事項ハ大藏大臣之ヲ定ム

附 則 (昭和二年三月
勅令第四二號)

本令ハ昭和二年四月一日ヨリ之ヲ施行ス

◎國有財産法施行規則

(大正十一年二月八日
大藏省令第一四號)

改(大正十一年十二月大藏省令第六一號)
正(昭和二年三月 同 第五號)

第一條 公用財産タル土地ノ用途ヲ變更セムトスル場合ニシテ之ニ因リ各箇ノ官廳、兵營、病院、監獄、學校、官舎、工場、倉庫、練兵場、作業場、演習場、射擊場、飛行場、牧場、農場、試驗場、演習林ノ敷地ニ異動ヲ生スヘキモノニ付テハ國有財産法施行令第四條ノ規定ニ依リ所管大臣大藏大臣ト協議スヘシ但シ其ノ異動ノ面積カ百坪ヲ超エサル場合及相接觸スル兩敷地ノ區域ノ相互變更ニシテ其ノ面積カ各敷地ノ面積ノ一割ヲ超エサル場合ハ此ノ限ニ在ラス

第二條 國有財産ノ臺帳ハ第一號様式ニ據ル但シ帝國鐵道會計ニ屬スルモノ及作業會計又ハ造幣局特別會計ノ固定資本ニ屬スルモノ竝ニ製鐵所特別會計ノ固定財産ニ付テハ所管大臣大藏大臣ト協議シ別ニ其ノ様式ヲ定ムルコトヲ得
國有林野ニシテ別ニ臺帳ノ設備アルモノニ付テハ之ニ總括ヲ附シテ國有財産ノ臺帳ニ代用スルコトヲ得

第三條 臺帳ニハ土地、建物及國有財産法施行令第一條第四號ニ掲ケル權利ニ關スル圖面ヲ附屬セシムヘシ但シ本令施行ノ際ニ於ケル雜種財産ニ付テハ其ノ重要ナルモノヲ除クノ外當分ノ内之ヲ省略スルコトヲ得

第四條 國有財産ノ總括簿ヲ備フル場合ニ於テハ第一號様式中總括ニ準シテ之ヲ調製シ尙公用財
第七類 土地及水面 國有財産法施行令 國有財産法施行規則

三二五

第七類 土地及水面 國有財産法施行規則 雜種財産取扱規程

三二六

産ノ分ニ付テハ前條ニ準シテ圖面ヲ附屬セシムヘシ

第五條 國有財産現在額報告書及國有財産増減報告書ハ第二號及第三號様式ニ據ル

附 則

本令ハ國有財産法施行ノ日ヨリ之ヲ施行ス

附 則

本令ハ昭和二年四月一日ヨリ之ヲ施行ス

◎雜種財産取扱規程 (大正十五年六月三十日)
(大藏省訓令第一二二號)

第一條 雜種財産ノ管理及處分ハ別ニ定ムルモノヲ除クノ外本規程ニ依リ稅務監督局長之ヲ取扱フヘシ

第二條 稅務監督局長ハ本規程ノ定ムル所ニ依リ其ノ權限ニ屬セシメラレタル事務ノ一部ヲ大藏大臣ノ認可ヲ經テ稅務署長ニ委任スルコトヲ得

第三條 稅務監督局長ハ常ニ所轄内ニ於ケル雜種財産ノ狀況ニ注意シ尙臺帳登錄漏又ハ引繼漏ノモノナキヤヲ調査スヘシ

第四條 各省部局長ヨリ雜種財産ノ引繼ヲ受ケル場合ニ於テハ成ルヘク實地調査ノ上之ヲ爲スヘシ

第五條 雜種財産ノ賣拂ヲ爲サムトスルトキハ左ノ事項ヲ具シ大藏大臣ニ稟請スヘシ

一 臺帳記載事項

二 賣拂價格ニ關スル調書

三 代金納付ノ方法及時期

四 指名競争契約ニ付シ又ハ隨意契約ニ依ラムトスルモノニ付テハ其ノ事由

五 隨意契約ニ依リ特定ノ者ニ賣拂ヲ爲スノ必要アル場合ニ於テハ其ノ相手方

六 賣拂ニ附帶シテ條件ヲ定ムヘキ場合ニ於テハ其ノ條件

七 其ノ他參考トナルヘキ事項

前項第二號ノ調書ハ賣買實例、精通者ノ意見其ノ他ノ資料ニ依リ成ルヘク詳細ニ記載スヘシ

第六條 左記各號ノ一ニ該當スル場合ニ於テハ稅務監督局長限リ雜種財産ノ賣拂ヲ爲スコトヲ得

但シ異例ニ亘ルモノ、重要ナルモノ及特ニ指定スルモノニ付テハ此ノ限ニ在ラス

一 一般競争契約ニ依リ豫定價格千圓ヲ超エサル雜種財産ノ賣拂ヲ爲サムトスルトキ

二 指名競争契約又ハ隨意契約ニ依リ豫定價格二百圓ヲ超エサル雜種財産ノ賣拂ヲ爲サムトスルトキ

三 土地ノ開拓又ハ水面ノ埋立若ハ干拓ノ事業成功ヲ條件トシテ賣拂ヲ豫約シタル場合ニ於テ豫約ニ從ヒ其ノ財産ノ賣拂ヲ爲サムトスルトキ

第七條 隨意契約ニ依リ雜種財産ノ賣拂ヲ爲サムトスル場合ニ於テハ緣故アル者ニ之ヲ賣拂フト

キ又ハ特殊ノ事情アルトキヲ除クノ外成ルヘク廣ク見積書ヲ徵シ賣拂フヘシ

第八條 雜種財産ノ讓與ヲ爲サムトスルトキハ左ノ事項ヲ具シ大藏大臣ニ稟請スヘシ

第七類 土地及水面 雜種財産取扱規程

三二七

第七類 土地及水面 雜種財產取扱規程

三二八

- 一 臺帳記載事項
 - 二 讓與スヘキ財產ノ見積價格
 - 三 讓與ノ相手方及讓與ヲ必要トスル事由
 - 四 讓與ニ附帶シテ條件ヲ定ムヘキ場合ニ於テハ其ノ條件
 - 五 其ノ他參考トナルヘキ事項
- 第九條 左記各號ノ一ニ該當スル場合ニ於テハ稅務監督局長限リ雜種財產ノ讓與ヲ爲スコトヲ得但シ異例ニ亘ルモノ、重要ナルモノ及特ニ指定スルモノニ付テハ此ノ限ニ在ラス
- 一 國有財產法第五條第三號ニ該當スル場合ニシテ見積價格千圓ヲ超エサル雜種財產ノ讓與ヲ爲サムトスルトキ
 - 二 土地ノ開拓又ハ水面ノ埋立若ハ干拓ノ事業成功ヲ條件トシテ讓與ヲ豫約シタル場合ニ於テ豫約ニ從ヒ其ノ財產ノ讓與ヲ爲サムトスルトキ
- 第十條 雜種財產ノ交換ヲ爲サムトスルトキハ左ノ事項ヲ具シ大藏大臣ニ稟請スヘシ
- 一 臺帳記載事項
 - 二 交換ニ依リテ取得スヘキ物件ノ種目、所在及數量
 - 三 交換ノ相手方及交換ヲ必要トスル事由
 - 四 目的物ノ價格評定調書
 - 五 交換ニ附帶シテ條件ヲ定ムヘキ場合ニ於テハ其ノ條件
 - 六 其ノ他參考トナルヘキ事項
- 第五條第二項ノ規定ハ前項第四號ノ調書ニ付之ヲ準用ス
- 第十一條 寄附其ノ他ノ名義ニ依リ雜種財產ヲ取得セムトスルトキハ左ノ事項ヲ具シ大藏大臣ニ

稟請スヘシ

- 一 財產ノ所在、種目、數量及見込價格
 - 二 相手方及取得ノ事由
 - 三 條件アルモノハ其ノ條件
 - 四 其ノ他參考トナルヘキ事項
- 第十二條 雜種財產ヲ貸付セムトスルトキハ左ノ事項ヲ具シ大藏大臣ニ稟請スヘシ貸付期間ヲ更
- 新セムトスルトキ及貸付料其ノ他ノ契約條項ヲ變更セムトスルトキ亦同シ
- 一 臺帳記載事項
 - 二 貸付スヘキ財產ノ見積價格
 - 三 貸付ノ目的
 - 四 貸付期間其ノ他ノ條項
 - 五 貸付料ニ關スル調書
 - 六 繼續貸付ノ場合ニ於テハ前貸貸料
 - 七 其ノ他參考トナルヘキ事項
- 前項ノ場合ニ於テ無償貸付ヲ爲スノ必要アルトキ及指名競争契約ニ付シ又ハ隨意契約ニ依ラムトスルトキハ其ノ事由ヲ具申スヘシ
- 第十三條 左記各號ノ範圍内ニ於テハ稅務監督局長限リ雜種財產ノ貸付ヲ爲シ又ハ契約條項ノ變更ヲ爲スコトヲ得但シ異例ニ亘ルモノ、重要ナルモノ及特ニ指定スルモノニ付テハ此ノ限ニ在ラス
- 一 建物ノ所有ヲ目的トスル場合ヲ除クノ外貸貸料年額又ハ總額百圓ヲ超エサル雜種財產ニ付

第七類 土地及水面 雜種財產取扱規程

三二九

第七類 土地及水面 雜種財產取扱規程

三三〇

- 一 三年以内ノ有償貸付ヲ爲サムトスルトキ
- 二 貸付料年額又ハ總額二百圓ヲ超エサル雜種財產ニ付當初貸付ヲ爲シタル日又ハ大藏大臣ニ稟請シテ貸付期間ヲ更新シタル日ヨリ三年ヲ超エサル範圍内ニ於テ貸付期間ヲ更新セムトスルトキ
- 三 貸付料年額又ハ總額百圓ヲ超エサル雜種財產ニ付貸付料ヲ變更セムトスルトキ
- 四 土地ノ開拓又ハ水面ノ埋立若ハ干拓ノ事業成功ヲ條件トシテ貸付ヲ豫約シタル場合ニ於テ豫約ニ從ヒ其ノ財產ノ貸付ヲ爲サムトスルトキ
- 第十四條 第十二條ノ規定ハ貸付ニ依ラスシテ雜種財產ノ使用又ハ收益ヲ爲サシムル場合ニ之ヲ準用ス四月以内ニ於テ雜種財產ノ使用又ハ收益ヲ爲サシムル場合ニ於テハ總テ稅務監督局長限リ之ヲ處理スルコトヲ得
- 第十五條 國有財產法第二十一條ノ規定ニ依ル豫約事業者ニ對シ同條第二項ノ規定ニ依リ土地ノ使用又ハ收益ヲ爲サシムトスル場合ニ於テハ稅務監督局長限リ之ヲ認容スルコトヲ得
- 第十六條 雜種財產ニ付土地ノ開拓又ハ水面ノ埋立若ハ干拓ヲ爲サシムル契約ヲ爲サムトスルトキハ左ノ事項ヲ具シ大藏大臣ニ稟請スヘシ
 - 一 臺帳記載事項
 - 二 事業計畫書要領
 - 三 事業者
 - 四 事業成功ヲ條件トシテ爲スヘキ豫約ノ種類
 - 五 豫約賣拂價格評定調書、貸付料評定調書又ハ讓與スヘキ財產ノ見積價格若ハ無償貸付スヘキ財產ノ見積貸付料ニ關スル調書

六 著手及成功豫定期間

讓與又ハ無償貸付ノ豫約ヲ爲サムトスル場合ニ於テハ之ヲ必要トスル事由

八 其ノ他參考トナルヘキ事項

第十七條 國有財產法施行令第二十五條第二項及第二十六條第二項ノ規定ニ依リ豫定期間ノ延長ヲ承認セムトスルトキハ事由ヲ具シ大藏大臣ニ稟請スヘシ

第十八條 豫約賣拂價格二百圓ヲ超エサル雜種財產ニ付土地ノ開拓又ハ水面ノ埋立若ハ干拓ヲ爲サシムル契約ヲ爲サムトスルキハ稅務監督局長限リ之ヲ處理スルコトヲ得其ノ契約ニ付豫定期間ノ延長ヲ承認セムトスルトキ亦同シ

第十九條 賣拂、讓與又ハ交換契約ヲ解除セムトスルトキ又ハ之ニ附帶シテ定メタル條件ヲ變更セムトスルトキハ事由ヲ具シ大藏大臣ニ稟請スヘシ但シ其ノ契約ニ關シ稟請ヲ要セサル場合ニ該

當スルモノニ付テハ此ノ限ニ在ラス

第二十條 雜種財產ノ管理及處分ニ關シ通常裁判所ニ出訴スルノ必要アルトキハ事由ヲ具シ大藏大臣ニ稟請スヘシ

第二十一條 雜種財產ノ臺帳ハ稅務監督局ニ之ヲ備ヘ稅務署ニハ其ノ副本ヲ備フヘシ

第二十二條 臺帳ニ附屬セシムヘキ圖面ハ重要ナラサル財產ニ係ルモノト雖漸次之ヲ調製スヘシ

第二十三條 雜種財產ニ増減異動ヲ生シタルトキハ遲滞ナク之ヲ臺帳ニ登録シ附屬圖面ヲ補修スヘシ

第二十四條 雜種財產ヲ臺帳ニ登録シタルトキハ決議書類、調查書類、其ノ他ノ關係書類ニ登録濟ノ年月日ヲ記載シ主任官吏之ヲ認印スヘシ

第七類 土地及水面 雜種財產取扱規程

三三一

第七類 土地及水面 雜種財產取扱規程

三三二

- 第二十五條 稅務監督局長ハ雜種財產貸付簿ヲ備ヘ雜種財產ニ付爲シタル貸付及貸付ニ準スヘキ契約ニ關スル事項ヲ登載整理スヘシ
- 第二十六條 稅務監督局長ハ會計檢査院ニ證明ノ爲計算證明規程ニ依リ國有財產増減計算書ヲ調製シ證憑書類ヲ添ヘ直ニ會計檢査院ニ提出スヘシ
- 稅務監督局長ハ前項ノ規定ニ依リ國有財產増減計算書ヲ提出シタルトキハ其ノ様式ニ準シ雜種財產ノ増減計算書ヲ調製シ直ニ之ヲ營繕管財局長官ニ送付スヘシ
- 第二十七條 稅務監督局長ハ國有財產法施行規則第三號様式ニ準シ每會計年度間ニ於ケル雜種財產ノ増減報告書ヲ調製シ翌年度六月三十日迄ニ營繕管財局長官ニ送付スヘシ
- 第二十八條 稅務監督局長ハ國有財產法施行規則第二號様式ニ準シ每五年三月三十一日現在ニ於ケル雜種財產現在額報告書ヲ調製シ其ノ年七月三十一日迄ニ營繕管財局長官ニ送付スヘシ
- 第二十九條 左ニ掲ケル場合ニ於テハ其ノ都度營繕管財局長官ニ報告スヘシ
 - 一 各省ニ於テ公共用財產又ハ公用財產トシテ整理スルモノノ内雜種財產ト爲スヘキモノヲ發見シタルトキ
 - 二 雜種財產ノ保管ノ爲監守人ヲ置キ其ノ他特別ノ取扱ヲ爲シタルトキ
 - 三 雜種財產ニ付境界査定ヲ了シタルトキ
 - 四 前號ノ境界査定ニ對シ訴願シ又ハ行政裁判所ニ出訴スル者アリタルトキ及行政裁判所ノ判決アリタルトキ
 - 五 雜種財產ニ付通常裁判所ニ出訴スル者アリタルトキ及通常裁判所ノ判決アリタルトキ
 - 六 第五條及第十二條ノ稟請ニ對シ競争契約ニ依ル賣拂又ハ貸付ノ指令ヲ受ケタルモノニ付入札ヲ執行シタルトキ及會計規則第一百五條又ハ第一百十六條ノ規定ニ依リ隨意契約ヲ締結シタルトキ

ルトキ

- 第三十條 第六條、第九條、第十三條、第十四條及第十八條ノ規定ニ依リ稅務監督局長限リ處理シタル場合ニ於テハ別記様式ニ依リ毎月ノ事蹟ヲ翌月十五日限リ營繕管財局長官ニ報告スヘシ
- 第三十一條 雜種財產ノ賣拂、讓與、交換又ハ貸付若ハ貸付ニ準スヘキ契約ニ關スル願書ハ稅務監督局長ヲ經由シ大藏大臣宛ニ之ヲ提出セシムヘシ
- 稅務監督局長前項ノ願書ヲ受理シタルトキハ調査ノ上意見ヲ附シ遲滯ナク之ヲ進達スヘシ但シ其ノ契約ニ關シ稟請ヲ要セサル場合ニ該當スルモノ付テハ此ノ限ニ在ラス
- 第三十二條 公共團體ト契約ヲ締結セムトスル場合ニハ其ノ願書ニ其ノ議決機關ノ決議ヲ要スル事項ニ付テハ其ノ決議書ノ謄本ヲ添附セシメ尙監督官廳ノ許可ヲ要スル事項ニ付テハ其ノ許可書ノ謄本ヲ提出セシムヘシ
- 第三十三條 府縣社以下ノ神社ノ提出スル願書、届書及契約書ニハ神職及氏子又ハ崇敬者總代ノ連署ヲ爲サシムヘシ
- 寺院ノ提出スル願書、届書及契約書ニハ住職及檀徒又ハ信徒總代ノ連署ヲ爲サシメ管長ノ添書ヲ附セシムヘシ
- 祠宇ノ提出スル願書、届書及契約書ニハ受持教師及信徒總代ノ連署ヲ爲サシメ管長ノ添書ヲ附セシムヘシ
- 佛堂ノ提出スル願書、届書及契約書ニハ受持僧侶及信徒總代ノ連署ヲ爲サシムヘシ
- 第三十四條 雜種財產タル不動産ニ關スル權利ノ得喪變更アリタルトキハ不動産登記法ノ定ムル所ニ依リ遲滯ナク其ノ登記ヲ登記所ニ囑託スヘシ

附 則

第七類 土地及水面 雜種財產取扱規程

三三三

第七類 土地及水面 雜種財產取扱規程 內務省所管國有財產取扱規程 三三四

第三十五條 本規程ハ大正十五年七月一日ヨリ之ヲ施行ス

第三十六條 本規定ノ實施以前ニ大藏大臣ニ稟請シタルモノニ付テハ尙從前ノ規程ニ依ル
(書式省略)

◎內務省所管國有財產取扱規程 (大正十一年六月十九日)
(內務省訓令第一〇號)

改(大正十一年七月內務省訓令第一四號、同年十月同第二一號、十三年四月)
正(同第六號、昭和二年八月同第二〇號、三年四月同第五號、四年六月同第九號)

第一條 內務省所管ノ國有財產ハ本規程ニ依リ取扱フヘシ但シ別段ノ定アルモノハ其ノ定ニ依ル

第二條 本規程ニ於テ部局長ト稱スルハ內務大臣官房會計課長、土木出張所長、千住機械工場監督、土木試驗所長、衛生試驗所長、復興局長官、社會局長官、健康保險署長、職業紹介事務局長、廢兵院長、神宮大宮司、造神宮副使、警察講習所長、武藏野學院長、榮養研究所長、國立癩療養所長、警視總監、北海道廳長官及府縣知事ヲ謂フ

第三條 左ニ掲ケル事項ハ部局長限リ之ヲ處理スヘシ

- 一 國有財產ノ管理ニ關スル事項
- 二 公用財產ノ一時使用許可ニ關スル事項
- 三 公用財產タル土地ノ用途變更ニシテ大藏大臣ノ定メタルモノニ該當セサルモノ、其ノ異動面積百坪ヲ超エサルモノ、相接續スル兩敷地區域ノ相互變更面積カ其ノ敷地ノ一割ヲ超エサルモノノ用途ヲ變更スル事項
- 四 國有財產法施行令第一條第一項第二號ノ從物ヲ主物ヨリ分離シ公有財產タル用途ヲ廢止スル事項

ル事項

- 五 公共用財產ト爲ス爲土地ノ買入、收用若ハ寄附受納ヲ爲ス事項
- 六 公共用財產ノ使用又ハ收益ヲナサシムル事項
- 七 公共用財產ノ用途ヲ變更スル事項
- 八 公共用財產及神社ノ用ニ供スル公用財產ノ用途ヲ廢止シ之ヲ大藏省所管ニ引繼ヲ爲ス事項
- 九 公共用財產ヲ公用財產ト爲ス爲他省所管ニ管理換ヲ爲ス事項
- 十 公共用財產若ハ神社ノ用ニ供スル公用財產ヲ營林財產ト爲ス爲農林省所管ニ管理換ヲ爲ス事項
- 十一 史蹟、名勝、天然紀念物ニ指定セラレタル財產ヲ他省ヨリ引繼ヲ受ケ若ハ所有者ヨリ寄附ヲ受納スル事項
- 十二 他省所管ノ公用財產ヲ公共用財產ト爲ス爲管理換ヲ受ケル事項
- 十三 農林省所管ノ國有林野ヲ公共用財產ト爲ス爲又ハ神社上地ノ農林省所管國有林野ヲ神社ノ用ニ供スル公用財產ト爲ス爲管理換ヲ受ケル事項
- 十四 神社ノ用ニ供スル爲土地ノ寄附ヲ受納スル事項
- 十五 神社用地又ハ公共用財產タル土地ノ用途ヲ廢止シ之ヲ神社用地又ハ公共用財產ト爲スノ必要アル民有地ト交換スル事項
- 十六 公用財產ノ用途ヲ廢止シ之ヲ公共用財產ト爲ス爲又ハ公共用財產ノ用途ヲ廢止シ之ヲ公用財產ト爲ス爲大藏省所管ニ引繼ヲ爲ササル事項
- 十七 公用財產タル立木竹中庭木其ノ他材積ヲ基準トシテ算定シ難キモノ及工作物中臺帳價格千圓以下ノモノニ付取毀ノ目的ヲ以テ用途廢止ヲ爲ス事項

第七類 土地及水面 內務省所管國有財產取扱規程

第七類 土地及水面 内務省所管國有財産取扱規程

三三六

前項第十二號及第十三號ノ場合ニ於テハ各省關係部局長及所轄稅務監督局長ニ、第十四號乃至第十六號ノ場合ニ於テハ所轄稅務監督局長ニ協議シ第十七號ノ場合ニ於テハ所轄稅務監督局長ニ事前通知ヲ爲スヘシ

第四條 部局長公用財産ト爲ス爲他省ヨリ國有財産ノ管理換ヲ受クルノ必要アルトキハ其ノ事由ヲ詳具シ目的財産ニ關スル調書土地又ハ建物ニ在リテハ圖面ヲ添ヘ内務大臣ニ稟請スヘシ
部局長部局相互間ニ於テ國有財産ノ所屬換ヲ爲スノ必要アルトキハ其ノ事由及調書ノ外當該部局間ニ於ケル協議ノ結果ヲ具シ内務大臣ニ稟請スヘシ

第五條 部局長公用財産ト爲ス爲土地ノ交換ヲ爲シ又ハ不動産ノ寄附ヲ受クルノ必要アルトキハ其ノ事由ヲ詳具シ土地又ハ建物ニ在リテハ圖面ヲ添ヘ内務大臣ニ稟請スヘシ
前項土地ノ交換ヲ爲サムトスルトキハ國有財産法施行令第十一條ニ依リ作成シタル調書ヲ添附スヘシ

第六條 部局長公用財産ト爲ス爲土地ノ買入若ハ收用ヲ爲シ又ハ地上權ヲ取得シタルトキハ直ニ内務大臣ニ報告スヘシ

第七條 部局長公用財産ノ用途若ハ營林財産ノ目的ヲ廢止セムトスルトキ、雜種財産ヲ公用財産又ハ營林財産ト爲サムトスルトキ、公用財産タル土地ノ用途ヲ變更セムトスルトキハ其ノ事由ヲ詳具シ臺帳ノ抄本（圖面アルモノハ圖面共）ヲ添附シ内務大臣ニ稟請スヘシ
公用財産ノ用途廢止ノ後仍引續キ内務大臣ノ管理ヲ必要ト認ムルモノアルトキハ其ノ意見ヲ具申スヘシ

第八條 部局長國有財産ヲ貸付セムトスルトキハ其ノ事由ヲ詳具シ契約書案ヲ添附シ内務大臣ニ稟請スヘシ

前項ノ場合ニ於テ隨意契約ニ依ルモノニ付テハ國有財産法施行令第二十一條ノ規定ニ依ル調書ヲ添附スヘシ

第九條 部局長國有財産ノ使用若ハ收益ヲ爲サシメムトスルトキハ其ノ事由ヲ詳具シ契約書案、隨意契約ニ依ルモノニ付テハ國有財産法施行令第二十二條ノ規定ニ依ル調書（土地又ハ建物ニ在リテハ圖面共）ヲ添附シ内務大臣ニ稟請スヘシ

第十條 第十一條 削除

第十二條 部局長國有財産ニ付境界査定ヲ施行シタルトキハ其ノ調書及査定圖面ヲ調製シ之ヲ保存スヘシ

第十三條 國有財産亡失又ハ毀損シタルトキハ部局長ハ遲滞ナク其ノ事由ヲ詳具シ損害額調書ヲ添附シ内務大臣ニ報告スヘシ但シ其ノ損害額ノ輕微ナルモノニ付テハ此ノ限ニ在ラス

第十四條 部局長ハ國有財産ノ價格ヲ評定セシムル爲常置又ハ臨時ノ價格評定員ヲ命スヘシ

第十五條 臺帳ニ附屬セシムヘキ圖面ハ左ノ區分ニヨリ調製スヘシ

一 土地及國有財産法施行令第一條第四號ニ掲クル權利ノ目的物ニ付テハ縮尺六百分ノ一ノ平面圖但シ場合ニ依リ其ノ縮尺ヲ變更スルコトヲ得

二 建物ニ付テハ百分ノ一ノ平面圖

第十六條 國有財産法施行規則第一號様式備考二ノ但書ニ依リ工作物及器具機械ノ種目ノ追補ヲ要スルモノアルトキハ内務大臣ニ稟請スヘシ

第十七條 部局長ハ左ノ區分ニ依リ國有財産増減計算書ヲ調製シ證憑書類ヲ添ヘ直接之ヲ會計檢査院ニ送付スヘシ

第七類 土地及水面 内務省所管國有財産取扱規程

三三七

第七類 土地及水面 内務省所管國有財産取扱規程 河岸地管理規程

三三八

- 一 北海道廳ニアリテハ年二回（第一回自四月至九月期間）
（第二回自十月至三月期間）
- 二 北海道廳以外ノ部局ニアリテハ年一回（自四月期間）
計算證明規程第七十一條ニ依リ毎年度最終ノ國有財産増減計算書ニ添附スヘキ明細書ハ第三號
様式ニ依リ調製スヘシ
- 第十八條 部局長ハ第一號様式ニ依リ毎會計年度間ニ於ケル國有財産増減報告書二通ヲ調製シ翌
年度五月三十一日迄ニ内務大臣ニ進達スヘシ
- 第十九條 部局長ハ第二號様式ニ依リ毎五年三月三十一日現在ニ依ル國有財産現在額報告書二通
ヲ調製シ其ノ年六月三十日迄ニ内務大臣ニ進達スヘシ

附 則

- 第二十條 本規程ハ大正十一年四月一日ヨリ之ヲ適用ス
- 第二十一條 國有財産現在額報告書ノ第一回ハ大正十一年四月一日現在ニ依リ調製シ其ノ年七月
三十一日迄ニ内務大臣ニ進達スヘシ
- 第二十二條 左ニ掲ケタル訓令及通牒ハ之ヲ廢止ス但シ官有財産ノ増減異動ニシテ大正十年度中
ニ係ルモノノ報告ニ付テハ仍從前ノ例ニ依ル

◎河岸地管理規程（大正一四年五月九日）
（大阪市告示第九二號）

- 第一條 都市計畫法第九條ノ規定ニ依リ下附ヲ受ケタル土地ハ本規程ニ據リ都市計畫事業ノ財源
ニ充ツル爲メ基本財産トシテ之ヲ管理ス
- 前項ノ土地ト交換シタル土地ノ管理ニ付亦同シ
- 第二條 基本財産ヨリ生スル收入ハ都市計畫事業費又ハ基本財産管理ノ爲要スル費用ニ充ツルノ
外之ヲ蓄積ス
- 第三條 第一條ノ土地ハ都市計畫事業用地ニ充ツル場合ノ外之ヲ貸貸スルモノトス但シ堅固ノ建
物ノ所有ヲ目的トスルモノニ對シテハ此ノ限ニ在ラス
- 本規程施行前既ニ許可ヲ得テ建物ヲ築造セルモノハ前項但書ノ制限ニ據ラサルコトヲ得
- 第四條 土地ノ貸付ヲ受ケムトスル者ハ使用ノ目的、期間並方法ヲ記載シタル願書ヲ提出シ市長
ノ許可ヲ受クヘシ貸付ヲ受ケタル土地ノ形質ヲ變更シ又ハ工作物ヲ附加セムトスルコトキ亦同シ
- 第五條 貸貸期間ハ建物ノ所有ヲ目的トスル場合ハ三十年其ノ他ノ目的ノ爲ニスル場合ハ十年以
内トス
- 前項ノ期間ハ之ヲ更新スルコトヲ得但シ更新ノトキヨリ前項ノ期間ヲ超ユルコトヲ得ス
- 第六條 貸貸料ハ壹箇月ニ付時價千分ノ三以上トス但シ市長ハ公益上必要ト認ムルトキハ千分ノ
一迄減額スルコトヲ得
- 第七條 貸貸料ハ之ヲ前納セシム但シ期間カ二以上ノ會計年度ニ跨ルトキハ各所屬年度毎ニ徴收
ス
- 貸貸料ヲ指定ノ期日ニ納付セサルトキハ其ノ翌日ヨリ金百圓ニ付日歩五錢ノ割合ヲ以テ延滞金

第七類 土地及水面 河岸地管理規程

三三九

第七類 土地及水面 河岸地管理規程

三四〇

ヲ徴收ス

第八條 市長ニ於テ必要アリト認メタル場合ハ賃借人ヲシテ保證人ヲ立テシメ又ハ保證金ヲ徴收スルコトヲ得

第九條 借受人土地返還ノ場合ハ土地ヲ原形ニ復シ且使用ニ基因シテ生シタル損害ハ市長ノ指定スル所ニ從ヒ之ヲ辨償スヘシ

借受人前項ノ義務ヲ怠リタルトキハ市長ハ代テ之ヲ施行シ又ハ第三者ヲシテ之ヲ爲サシメ之ニ要スル費用ハ借受人ヨリ納付セシムルモノトス

第十條 土地ノ貸付ニ關シテハ本規程ニ定ムルモノノ外市長ハ必要ト認ムル條件ヲ附スルコトヲ得

第十一條 左ノ各號ノ一ニ該當スルトキハ市長ハ第四條ノ許可ヲ取消シ若クハ貸付地ノ全部又ハ一部ヲ返還セシムルコトヲ得

一 本規程又ハ許可條件ニ違反シタルトキ

二 市ニ於テ土地使用ノ必要アルトキ

第十二條 左ニ掲クル場合ニ於テ市長ハ市參事會ノ議決ヲ經テ他ノ土地ト交換スルコトヲ得

一 公用ニ供シ又ハ公共ノ利益トナルヘキ事業ノ爲必要アリト認ムルトキ

二 土地整理ノ爲必要アルトキ

第十三條 本規程施行ノ爲必要ナル事項ハ市長之ヲ定ム

附 則

本規程ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

◎市有不動産管理規程 (大正一〇年一二月九日) 改 (大正一四年一月)
(大阪市告示第一五七號) 正 (市告示第一號)

第一條 市有不動産ハ法令其ノ他別段ノ定アル場合ヲ除クノ外本規程ニ依リ之ヲ管理スルモノトス

第二條 現ニ公用ニ供セサル不動産ハ市參事會ノ議決ヲ經テ貸貸スルコトヲ得其ノ隨意契約ニ依ル場合亦同シ

貸貸期間ハ貳箇年ヲ超ユルコトヲ得ス但シ之ヲ更新スルコトヲ得

第三條 貸貸不動産ハ其ノ期間中ト雖モ公益上必要アルトキハ市長ハ何時ニテモ之ヲ返還セシムルコトヲ得

前項ノ場合ニ於ケル貸貸料ハ日割計算ニ依ル

第四條 貸貸料ハ左ノ標準ニ依リ之徴收ス

一 土地 一箇月ニ付 時價千分ノ三以上

二 建物 一箇月ニ付 時價千分ノ四以上

第七類 土地及水面 河岸地管理規程 市有不動産管理規程

三四一

第七類 土地及水面 市有不動産管理規程

三四二

日ヲ以テ期間ヲ定メタル場合ニ於ケル貸貸料ハ一日ニ付前項ノ三十分ノ一トス
使用期間一箇月未滿ニシテ公益ヲ目的トスルモノニ對シテハ市長ハ前項ノ貸貸料ヲ減免スルコ
ヲ得

第五條 貸貸料ノ納付ハ左ノ區分ニ依ル

年ヲ以テ貸貸期間ヲ定メタルモノハ契約後若ハ年度開始後十日以内ニ其ノ會計年度ノ全額ヲ納
付セシム但シ事宜ニ依リ之ヲ分納セシムルコトヲ得

月又ハ日ヲ以テ貸貸期間ヲ定メタルモノハ契約締結後十日以内ニ其ノ全額ヲ納付セシム

貸貸料ヲ納期日迄ニ納付セサル場合ハ其ノ遲滞ニ對シ百圓ニ付一日金五錢ニ相當スル損害賠償
ヲ爲サシム

第六條 市長ハ貸貸人ヲシテ相當ノ保證人ヲ立テシメ又ハ保證金ヲ徵收スルコトヲ得

第七條 貸借物ニ對シ必要費又ハ有益費ヲ支出スルコトアルモ本市ハ其ノ補償ヲ爲ササルモノト
ス

第八條 賃借人賃借物ヲ返還セムトスルトキハ之ヲ原狀ニ回復セシム

賃借人前項ノ義務ヲ履行セサルトキハ本市ニ於テ之ヲ回復シ其ノ費用ヲ辨償セシム
前項ノ場合ト雖モ損害賠償ノ請求ヲ妨ケス

第九條 土地ノ分割若ハ合併ヲ要スルトキハ市長之ヲ行フ但シ著シク其ノ價格ヲ減少シ若ハ減少
ノ虞アル場合ハ此ノ限ニ在ラス

第十條 地種、地類又ハ地目ノ變換ヲ要スルトキハ市長ニ於テ之ヲ行フ此ノ場合ニ於ケル新地種
地類又ハ地目ハ市長之ヲ定ム

第十一條 不動産ノ保存ニ必要ナル行爲ハ市長ニ於テ之ヲ爲スコトヲ得

第十二條 本規程施行ニ關シ必要ナル事項ハ市長之ヲ定ム

◎市有不動産整理規程 (昭和二年六月一日 大阪市達第五二號)

第一條 市有不動産ハ本規程ノ定ムル所ニ依リ之ヲ整理スヘシ

第二條 局、部、課、區長ハ其ノ所管ニ屬スル不動産ニ付臺帳ヲ備ヘ常ニ其ノ狀況ヲ明ニスヘシ

第三條 前條ノ臺帳ノ様式ハ別表第一號又ハ第二號ニ依ル但シ別表ニ依リ難キ不動産ニ付テハ該
様式ニ準シ局、部、課、區長ニ於テ別ニ其ノ様式ヲ定ムルコトヲ得

局、部、課、區長前項但書ノ様式ヲ定ムル場合ニ於テハ庶務部長及檢査課長ニ合議シ市長ノ決
裁ヲ受クヘシ其ノ之ヲ變更セムトスルトキ亦同シ

第四條 局、部、課、區長其ノ所管事業ノ爲不動産ヲ取得シ若ハ不動産ノ移管ヲ受ケタルトキ又
ハ其ノ所管ニ屬スル不動産ノ全部若ハ一部左ノ各號ノ一ニ該當スルトキハ直ニ其ノ事實、年月

日其ノ他必要ナル事項ヲ臺帳ニ登錄スヘシ

一 賣却其ノ他ノ處分アリタルトキ

二 天災地變其ノ他ノ原因ニ因リ滅失シタルトキ

三 局、部、課、區等ノ廢置分合、組替其ノ他ノ事由ニ因リ移管アリタルトキ

四 用途ノ變更アリタルトキ

五 公用ノ廢止其ノ他ノ事由ニ因リ直接事業ノ用ニ供セラレサルニ至リタルトキ

六 前號ニ該當シタル後再ヒ公用其ノ他直接事業ノ用ニ供セラレタルトキ

第七類 土地及水面 市有不動産管理規程

三四三

第七類 土地及水面 市有不動産整理規程

三四四

七 改良、改築、天災地變其ノ他ノ原因ニ因リ價格ニ著シキ變動アリタルトキ
八 地上權、地役權又ハ抵當權ノ設定アリタルトキ
九 分筆、合筆、地目變換其ノ他ノ重要ナル事實ヲ生シタルトキ

第五條 前條第三號ノ場合ニ於テハ所管局、部、課、區長ハ移管ヲ受クヘキ局、部、課、區長ニ對シ其ノ臺帳ノ抄本ヲ交付スヘシ

前條第五號ノ場合ニ於テハ所管局、部、課、區長ハ遲滞ナク其ノ臺帳ノ抄本ヲ添ヘ其ノ旨庶部長ニ通知スヘシ通知ヲナシタル不動産前條第一號乃至第三號若ハ第六號ニ該當スルニ至リタルトキ又ハ第七條ノ規定ニ依ル價格ノ更訂アリタルトキ亦同シ但シ此ノ場合ニ於テハ臺帳ノ抄本ヲ添付スルコトヲ要セス

第六條 臺帳ニ登錄スヘキ不動産ノ價格ハ其ノ取得價格ニ依ル但シ寄附其ノ他ノ原因ニ因リ無償取得ヲ爲シタル不動産ニ付テハ局、部、課、區長ニ於テ相當ト認ムル價格ニ依ル

第七條 前條ニ依リ登錄シタル不動産ノ價格ハ土地建物ニ在リテハ市長ノ命スル評價員ノ合議ヲ經テ各四箇年毎ニ其ノ他ノ不動産ニ在リテハ毎年其ノ時價ヲ定メ之ヲ更訂スヘシ但シ道路、公園、堤防、突堤、橋梁等ニ付テハ此ノ限ニ在ラス

前項ノ更訂ハ更訂スヘキ年ノ八月卅一日迄ニ之ヲ爲スヘシ
第八條 第四條第七號ノ場合ニ於テハ局、部、課、區長ニ於テ適當ニ評價シ其ノ登錄價格ヲ更訂スヘシ

第九條 特種ノ不動産ニシテ本規程ニ依リ整理シ難キモノニ付テハ局、部、課、區長ハ庶務部長及検査課長ニ合議シ市長ノ決裁ヲ經テ別段ノ方法ニ依リ之ヲ整理スルコトヲ得

附 則

本規程ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

本規程ニ依リ初テ調製スヘキ臺帳ハ昭和二年七月三十一日迄ニ之ヲ調製シ其ノ登錄價格ニ關スル第七條ノ更訂ハ同年八月三十一日迄ニ之ヲ爲スヘシ

本規程施行ノ際ニ於テ各局、部、課、區長ノ所管ニ屬スヘキ不動産ノ範圍ハ事務章程ノ定ムル所ニ依ル

前項ニ依リ難キ事情アルモノ又ハ所屬分明ナラサルモノニ付テハ關係局、部、課、區長ハ他ノ關係局、部、課、區長、庶務部長及検査課長ニ合議シ市長ノ決裁ヲ受ケ其ノ所屬ヲ決定スヘシ

◎市ノ一部有不動産ノ整理ニ關スル件 (昭和二年六月一日 大阪市達第五三號)

市ノ一部ノ所有ニ屬スル不動産ノ整理ニ付テハ昭和二年六月達第五二號市有不動産整理規程第二條、第三條第一項本文、第四條、第六條乃至第八條ノ規定ヲ準用ス

附 則

本規定ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

本規定ニ依リ初テ調製スヘキ臺帳ハ昭和二年七月三十一日迄ニ之ヲ調製シ其ノ登錄價格ニ關スル市有不動産整理規程第七條ノ更訂ハ同年八月三十一日迄ニ之ヲ爲スヘシ

◎市有土地賃貸ニ關スル件 (大正一三年三月 二七日市會議決)

大正十一年三月三十日日本市ニ下付ヲ受ケタル舊物揚場敷地ハ左記ニ據リ賃貸スルモノトス

第七類 土地及水面 市有不動産整理規程 市ノ一部有不動産ノ整理ニ 三四五
關スル件 市有土地賃貸ニ關スル件

第七類 土地及水面

市ノ一部有不動産ノ整理ニ關スル件 監獄跡地賣却並賃貸規程

三四六

記

- 一 左ニ掲クルモノハ市長ニ於テ隨意契約ニ依リ賃貸スルコトヲ得
 - (一) 本市ニ下付ヲ受ケタル大阪府ノ許可ヲ得テ現ニ使用中ニ係ルモノ
 - (二) 一時使用ニシテ市長ニ於テ特殊ノ事由アリト認ムルモノ
- 二 賃貸料ハ一箇月ニ付土地價格ノ千分ノ三以上ニ於テ市長之ヲ定ム但前項第一號ノ賃貸料ハ其期限ノ到來スル迄從前ノ使用料ト同額ト爲スコトヲ得公益ヲ目的トスルモノニ對シテハ市長ハ前記ノ賃貸料ヲ減免スルコトヲ得
- 三 賃貸契約ニ付テハ市長ニ於テ必要ナル條件ヲ附スルコトヲ得

◎監獄跡地賣却並賃貸規程 (大正一一年三月一〇日)

(大阪市告示第一五號)

- 第一條 監獄跡地ハ市長ニ於テ其ノ使用ノ目的ヲ考量シ適當ニ區劃ノ上本規程ニ依リ之ヲ賣却又ハ賃貸ス
- 第二條 前條ノ土地ハ本市都市計畫事業ノ爲土地ヲ買收セラレ又ハ買收セラルヘキ者若ハ其ノ土地ノ上ニ存シタル家屋ヲ所有スル者ニ競争入札ニ依リ之ヲ賣却又ハ賃貸ス但シ都市計畫法施行令第二十四條ニ依リ土地ノ賣却又ハ賃付ヲ受ケタル者ニ對シテハ此ノ限ニ在ラス
前項ノ外一般希望者ニ對シ競争入札ニ依リ之ヲ賃貸スルコトヲ得前二項ノ場合ニ於テ競争入札ニ付スルモ入札者ナキトキ又ハ入札金豫定價格ニ達セサルトキハ隨意契約ニ依ルコトヲ得
- 第三條 公益ヲ目的トスル事業其ノ他市長ニ於テ已ムヲ得サル事由アリト認ムル者ニ對シテハ市長ノ認定ニ依リ有償又ハ無償ニテ之ヲ賃與スルコトアルヘシ

第四條 賃貸期間ハ三十箇年以内トス

前項ノ期間ハ之ヲ更新スルコトヲ得

第五條 賃貸契約締結ノ場合ハ左ノ保證ヲ要ス

一 市内ニ居住シ且直接國稅年額拾五圓以上ヲ納ムル者ヲ保證人タラシムルコト但シ第二號ノ保證金ノ外賃貸料二箇年分ニ相當スル保證金ヲ納付スル者ハ此限ニ在ラス

二 賃貸料六箇月分ニ相當スル保證金ヲ納付セシムルコト

第六條 保證金ハ市長ニ於テ確實ト認メタル有價證券ヲ以テ代用スルコトヲ得其ノ價格ハ時價ノ十分ノ九以内トス

前項ノ代用證券ハ其ノ時價ニ著シキ變動ヲ生シタルトキハ市長ノ認定ニ依リ其ノ不足額ヲ補充セシム

第七條 保證金ハ市長ニ於テ土地ノ賃貸料若ハ市ノ損害補償ニ充當ス

第八條 賃貸料ハ會計年度ニ依リ三箇月分宛ヲ一期トシ其ノ初ノ月ノ二十五日迄ニ納付セシム但シ納期日後賃貸ニ係ルモノハ契約締結後十日以内ニ其ノ期分ヲ納付セシメ其ノ月分ノ賃貸料ハ日割計算トス

前項ノ納期日カ休廳日ニ當ルトキハ其ノ翌日ニ繰下ク

第九條 賃貸料納付ヲ遲延シタルトキハ前條ノ納期日ノ翌日ヨリ百圓ニ付一日五錢ノ割合ヲ以テ損害金ヲ徴收ス

前項ノ規定ハ契約ノ解除ヲ妨ケス

第十條 賃借人ハ築造スヘキ工作物ノ設計書及圖面ヲ提出シ市長ノ承認ヲ受ケヘシ入札加入者ハ入札前豫メ建築豫定略圖ヲ提示シ市長ノ承認ヲ受クルコトヲ要ス

第七類 土地及水面 監獄跡地賣却並賃貸規程

三四七

第七類 土地及水面 監獄跡地賣却並貸貸規程 公園管理規則

三四八

- 第十一條 賃借人返地ノ際ハ市長ノ承認ヲ得タル場合ノ外土地ヲ原狀ニ回復スヘシ
賃借人前項ノ義務ヲ履行セサルトキハ市長ニ於テ之ヲ施行シ其ノ費用ヲ辨償セシム
- 第十二條 賃借人賃借地ニ對シ必要費又ハ有益費ヲ支出スルコトアルモ市長ハ其ノ補償ノ責ニ任
セス
- 第十三條 本規程施行ニ關シ必要ナル事項ハ市長之ヲ定ム

◎公園管理規則 (明治三十四年二月二十八日)
大阪市規則第一一號

- 第一條 本則ニ於テ公園ト稱スルハ本市ノ所有ニ屬スル公園ヲ謂フ
- 第二條 公園ニ於テハ左ノ行爲ヲ禁止ス
- 一 魚鳥ヲ殺傷捕獲スルコト
 - 二 焚火若クハ火技ヲ弄シ其他危險ノ遊戲ヲ爲スコト
 - 三 行商ヲ爲スコト
 - 四 牛馬及諸車ヲ入ルルコト
 - 五 樹木及花卉等ヲ採折スルコト
 - 六 前各號ノ外風致ヲ害スルコト
- 第三條 特ニ公園ノ使用ヲ出願スルモノアルトキハ當廳ニ於テ其目的公衆ノ快樂若クハ便益ニ供
スルモノト認ムル者ニ限り特ニ許可スルコトアルヘシ
- 第四條 前條ノ出願者又ハ許可ヲ得テ設置シタル物件ニシテ爾後其變更又ハ修繕ヲ加ヘントスル
トキハ別紙第一號書式ニヨリ願出ツヘシ

- 第五條 使用地内物件ノ所有權移轉ノ爲メ使用者ノ變更ヲ願出ツルモノアルトキハ特ニ許可スル
コトアルヘシ
- 第六條 第三條及第五條ニヨリ許可ヲ受ケタル者ハ遲滞ナク別紙第二號書式ノ請書ヲ差出スヘシ
- 第七條 使用地ハ許可ヲ受ケタル者ノ外使用スルコトヲ得ス
- 第八條 使用地ハ常ニ清潔ヲ保持スヘシ
- 第九條 使用者ノ物件ニシテ公園ノ風致ヲ損スルモノト認ムルトキハ其物件ノ改良又ハ撤去ヲ命
スルコトアルヘシ
- 第十條 本市ノ都合ニヨリ使用ノ許可ヲ取消シタルトキハ使用者ハ何時ニテモ其指定期間内ニ使
用地ヲ原狀ニ復スヘシ
- 第十一條 使用者ノ都合ニヨリ使用期間内ニ不用ニ歸シ又ハ使用期間ノ終了スル場合ニ於テハ其
期日迄ニ使用地ヲ原狀ニ復スヘシ
- 第十二條 第三條及第四條ニヨリ許可ヲ得テ物件ノ設置及變更ヲ爲シタルトキ其他第九條乃至第
十一條及第十三條ニヨリ使用地ヲ原狀ニ復シタルトキハ速ニ其旨ヲ届出ツヘシ
- 第十三條 左ノ場合ニ於テハ使用ノ許可ヲ取消スコトアルヘシ
- 一 第七條及第八條ニ違背シタルトキ
 - 二 第九條ノ命ニ應セサルトキ
 - 三 使用許可後三十日以内ニ使用ヲ開始セサルトキ
 - 四 使用料ヲ期間内ニ納付セサルトキ
- 前項ノ場合ニ於テハ其土地ハ指定期間内ニ原狀ニ復スヘシ
- 第十四條 當廳ニ於テ必要ト認メタルトキハ何時ニテモ當該吏員ヲシテ使用ノ現狀ヲ検査セシム
- 第七類 土地及水面 公園管理規則

三四九

第七類 土地及水面 公園管理規則 公園地使用料條例

三五〇

ルコトアルヘシ

- 第十五條 本則ニヨリ使用者ニ命シタル一切ノ事項ニ對シテハ渾テ損害賠償ノ責ニ任セス
- 第十六條 本則ニヨリ當廳ヘ差出ス願書ハ其公園所屬ノ區役所ヲ經由スヘシ
- 第十七條 使用料ニ關スル規程ハ別ニ之ヲ定ム

◎公園地使用料條例 (明治三十四年七月二十四日) (大阪市條例第一號)

改正 (明治四十二年二月條例第一號、大正九年四月第五號、同 第五號、同 一年四月同 第五號)

- 第一條 使用料ハ左ノ金額ノ範圍内ニ於テ實地ヲ參酌シ市參事會之ヲ定ム但公益事業ノ爲メ使用スルモノハ之ヲ徵收セサルコトアルヘシ
 - 一 年ヲ以テ使用ヲ許可スルモノハ一箇年一坪ニ付金拾六圓
 - 二 月ヲ以テ使用ヲ許可スルモノハ一箇月一坪ニ付金壹圓六拾錢
 - 三 日ヲ以テ使用ヲ許可スルモノハ一日一坪ニ付金六錢
 - 四 公園管理規則第七條第十條第十一條及第十三條第二項ニ違背シ若クハ第九條ノ命令ニ違背シタルモノ又ハ許可ヲ得スシテ使用シタルモノヨリ徵收スル特別使用料ハ一日一坪ニ付金六拾錢
- 廣告ノ爲使用スルモノハ前項料金ノ三倍ニ達スルマテ増額スルコトヲ得但シ廣告板ノ利用セラレヘキ各面ノ加算面積カ敷地面積ヨリ廣キトキハ廣告板ノ面積ニ依リテ之ヲ徵收ス
- 第二條 使用料ノ計算方法ハ左ノ如シ
 - 一 年ヲ以テ使用料ヲ定メタルモノニシテ其使用期間ノ四月ニ起リ三月ニ終了スルモノハ年額トシ五月以後ニ起リ若クハ二月以前ニ終了スルモノハ年額ノ月割ヲ以テ算定ス
 - 二 月ヲ以テ使用料ヲ定メタルモノハ初月終月ヲ間ハス總テ全月額トス
- 第三條 使用料ノ徵收期ハ左ノ如シ
 - 一 年ヲ以テ使用ヲ許可シタルモノハ會計年度ニ依リ全年度分ヲ其年度ノ四月中ニ徵收ス但四月以後新ニ許可シタルモノハ初年度分ニ限り許可ノ日ヨリ十日以内ニ徵收ス
 - 二 月又ハ日ヲ以テ使用ヲ許可シタルモノハ其許可ノ日ヨリ十日以内ニ全額ヲ徵收ス
- 第四條 本市ノ都合ニヨリ使用ノ許可ヲ取消シタル爲メ土地ヲ原狀ニ復シタル旨届出タル場合ニ於テ其使用料ノ年又ハ月ヲ以テ定メタルモノハ届出ノ月ヨリ日ヲ以テ定メタルモノハ届出ノ日ヨリ免除ス
- 第五條 公園管理規則第十三條ニヨリ使用ノ許可ヲ取消シタルトキハ既納ノ使用料ハ之ヲ還付セス

公有水面埋立法 (大正十年四月九日) (法律第五七號)

- 第一條 本法ニ於テ公有水面ト稱スルハ河、海、湖、沼其ノ他ノ公共ノ用ニ供スル水流又ハ水面ニシテ國ノ所有ニ屬スルモノヲ謂ヒ埋立ト稱スルハ公有水面ノ埋立ヲ謂フ
- 公有水面ノ干拓ハ本法ノ適用ニ付テハ之ヲ埋立ト看做ス
- 本法ハ耕地整理法ニ依ル溝渠又ハ溜池ノ變更ノ爲必要ナル埋立其ノ他勅令ヲ以テ指定スル埋立ニ付之ヲ適用セス

第七類 土地及水面 公園地使用料條例 公有水面埋立法

三五二

第七類 土地及水面 公有水面埋立法

三五二

第二條 埋立ヲ爲サムトスル者ハ地方長官ノ免許ヲ受クヘシ

第三條 前條ノ免許ハ地方長官期間ヲ指定シテ地元市町村會ノ意見ヲ徴シ之ヲ爲スヘシ

第四條 地方長官ハ埋立ニ關スル工事ノ施行區域内ニ於ケル公有水面ニ關シ權利ヲ有スル者アルトキハ左ノ各號ノ一ニ該當スル場合ヲ除クノ外埋立ノ免許ヲ爲スコトヲ得ス

- 一 其ノ公有水面ニ關シ權利ヲ有スル者埋立ニ同意シタルトキ
- 二 其ノ埋立ニ因リテ生スル利益ノ程度カ損害ノ程度ヲ著シク超過スルトキ
- 三 其ノ埋立カ法令ニ依リ土地ヲ收用又ハ使用スルコトヲ得ル事業ノ爲必要ナルトキ

第五條 前條ニ於テ公有水面ニ關シ權利ヲ有スル者ト稱スルハ左ノ各號ノ一ニ該當スル者ヲ謂フ

- 一 法令ニ依リ公有水面占用ノ許可ヲ受ケタル者
- 二 漁業權者又ハ入漁權者
- 三 法令ニ依リ公有水面ヨリ引水ヲ爲シ又ハ公有水面ニ排水ヲ爲ス許可ヲ受ケタル者
- 四 慣習ニ依リ公有水面ヨリ引水ヲ爲シ又ハ公有水面ニ排水ヲ爲ス者

第六條 埋立ノ免許ヲ受ケタル者ハ勅令ノ定ムル所ニ依リ第四條ノ權利ヲ有スル者ニ

對シ其ノ損害ノ補償ヲ爲シ又ハ其ノ損害ノ防止ノ施設ヲ爲スヘシ
漁業權者及入漁權者ノ前項ノ規定ニ依ル補償ヲ受クル權利ハ共同シテ之ヲ有スルモノトス

第一項ノ補償又ハ施設ニ關シ協議調ハサルトキ又ハ協議ヲ爲スコト能ハサルトキハ地方長官ノ裁定ヲ求ムヘシ

第七條 前條ノ規定ニ依リ漁業權者ニ對シ損害ノ補償ヲ爲スヘキ場合ニ於テ其ノ漁業權カ登録シタル先取特權又ハ抵當權ノ目的タルトキハ埋立ノ免許ヲ受ケタル者ハ其ノ補償ノ金額ヲ供託スヘシ但シ先取特權者又ハ抵當權者ノ同意ヲ得タルトキハ此ノ限ニ在ラス

前項ノ規定ハ埋立ニ關スル工事ノ施行區域内ニ於ケル公有水面ニ付存スル漁業權又ハ入漁權カ訴訟ノ目的タル爲訴訟當事者ヨリ請求アリタル場合ニ之ヲ準用ス
登録シタル先取特權若ハ抵當權ヲ有スル者又ハ訴訟當事者ハ前二項ノ規定ニ依ル供託金ニ對シテモ其ノ權利ヲ行フコトヲ得

第八條 埋立ノ免許ヲ受ケタル者ハ第六條ノ規定ニ依リ損害ノ補償ヲ爲スヘキ場合ニ於テハ其ノ補償ヲ爲シ又ハ前條ノ規定ニ依ル供託ヲ爲シタル後ニ非サレハ第四條ノ權利ヲ有スル者ニ損害ヲ生スヘキ工事ニ著手スルコトヲ得ス但シ其ノ權利ヲ有スル者ノ同意ヲ得タルトキ又ハ地方長官ノ裁定シタル補償ノ金額ヲ供託シタルトキハ此ノ限ニ在ラス

第七類 土地及水面 公有水面埋立法

三五三

第七類 土地及水面 公有水面埋立法

三五四

埋立ノ免許ヲ受ケタル者ハ第六條ノ規定ニ依リ損害防止ノ施設ヲ爲スヘキ場合ニ於テハ其ノ施設ヲ爲シタル後ニ非サレハ第四條ノ權利ヲ有スル者ニ損害ヲ生スヘキ工事ニ著手スルコトヲ得ス但シ其ノ權利ヲ有スル者ノ同意ヲ得タルトキハ此ノ限ニ在ラス

第九條 第六條ノ規定ニ依リ損害ノ補償ヲ爲スヘキ漁業權ヲ目的トスル先取特權又ハ抵當權ヲ有スル者ハ前條第一項但書ノ規定ニ依ル供託金ニ對シテモ其ノ權利ヲ行フコトヲ得

第十條 公有水面ノ利用ニ關シテ爲シタル施設カ埋立ノ爲其ノ效用ヲ妨ケラルルトキハ地方長官ハ勅令ノ定ムル所ニ依リ埋立ノ免許ヲ受ケタル者ヲシテ其ノ施設ヲ爲シタル者ニ對シ之ニ代ルヘキ施設若ハ其ノ效用ヲ保全スル爲必要ナル施設ヲ爲サシメ又ハ損害ノ全部若ハ一部ヲ補償セシムルコトヲ得

第十一條 地方長官埋立ヲ免許シタルトキハ其ノ免許ノ日及其ノ事件ノ要領ヲ告示スヘシ

第十二條 地方長官ハ埋立ニ付免許料ヲ徵收スルコトヲ得

前項ノ免許料ノ徵收及歸屬ニ關シ必要ナル事項ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

第十三條 埋立ノ免許ヲ受ケタル者ハ埋立ニ關スル工事ノ著手及工事ノ竣功ヲ地方長官ノ指定スル期間内ニ爲スヘシ地方長官正當ノ事由アリト認ムルトキハ前項ノ期間ノ伸長ヲ許可スルコトヲ得

第十四條 埋立ノ免許ヲ受ケタル者埋立ニ關スル測量又ハ工事ノ爲必要アルトキハ地方長官ノ許可ヲ受ケ他人ノ土地ニ立入り又ハ其ノ土地ヲ一時材料置場トシテ使用スルコトヲ得

前項ノ規定ニ依ル立入又ハ使用ヲ爲サムトスル者ハ其ノ日時及場所ヲ少クトモ五日前ニ其ノ土地ノ市町村長ニ通知スヘシ

市町村長前項ノ規定ニ依ル通知ヲ受ケタルトキハ其ノ旨土地ノ占有者ニ通知スヘシ通知スルコト能ハサルトキハ告示スヘシ

前三項ノ規定ハ埋立ノ免許ヲ受ケムトスル者ニ關シ之ヲ準用ス

第十五條 前條ノ規定ニ依ル立入又ハ使用ニ因リテ生シタル損害ハ其ノ立入又ハ使用ヲ爲シタル者之ヲ補償スヘシ

第十六條 埋立ノ免許ヲ受ケタル者ハ地方長官ノ許可ヲ受クルニ非サレハ埋立ヲ爲ス權利ヲ他人ニ讓渡スルコトヲ得ス

前項ノ規定ニ依リ埋立ヲ爲ス權利ヲ讓受ケタル者ハ埋立ニ關スル法令又ハ之ニ基キテ爲ス處分若ハ其ノ條件ニ依リ讓渡人ニ生シタル權利義務ヲ承繼ス但シ第六條第一項、第十條又ハ前條ノ規定ニ依ル義務ハ讓渡人及讓受人連帶シテ之ヲ負フ

第十七條 埋立ノ免許ヲ受ケタル者ノ相續人ハ其ノ被相續人ノ有シタル埋立ヲ爲ス權利ヲ承繼ス

前條第二項ノ規定ハ前項ノ場合ニ之ヲ準用ス

第七類 土地及水面 公有水面埋立法

三五五

第十八條 埋立ヲ爲ス會社ノ發起人カ會社成立ノ後ニ於テ會社ノ爲ス埋立ニ付免許ヲ

受ケタル場合ニ於テ會社成立シタルトキハ埋立ヲ爲ス權利其ノ他ノ埋立ニ關スル法

令又ハ之ニ基キテ爲ス處分若ハ其ノ條件ニ依リ生シタル權利義務ハ會社之ヲ承繼ス

第十九條 埋立ノ免許ヲ受ケタル會社合併ニ因リテ消滅シタルトキハ埋立ヲ爲ス權利

其ノ他ノ埋立ニ關スル法令又ハ之ニ基キテ爲ス處分若ハ其ノ條件ニ依リ生シタル權

利義務ハ合併後存續スル會社又ハ合併ニ因リテ成立シタル會社之ヲ承繼ス

第二十條 前三條ノ規定ニ依リ權利義務ヲ承繼シタル者ハ其ノ承繼ノ日ヨリ起算シ十

四日內ニ地方長官ニ届出ツヘシ

第二十一條 第十六條乃至第十九條ノ規定ニ依ル權利義務ノ承繼アリタル場合ニ於テ

ハ本法ノ適用ニ付テハ其ノ權利義務ヲ承繼シタル者ヲ以テ埋立ノ免許ヲ受ケタル者

トス

第二十二條 埋立ノ免許ヲ受ケタル者ハ埋立ニ關スル工事竣功シタルトキハ遲滞ナク

地方長官ニ竣功認可ヲ申請スヘシ

第二十三條 埋立ノ免許ヲ受ケタル者ハ前條ノ竣功認可前ニ於テ埋立地ヲ使用スルコ

トヲ得但シ埋立地ニ埋立ニ關スル工事用ニ非サル工作物ヲ設置セムトスルトキハ命

令ヲ以テ指定スル場合ヲ除クノ外地方長官ノ許可ヲ受クヘシ

第二十四條 第二十二條ノ竣功認可アリタルトキハ埋立ノ免許ヲ受ケタル者ハ其ノ竣

功認可ノ日ニ於テ埋立地ノ所有權ヲ取得ス但シ公用又ハ公共ノ用ニ供スル爲必要ナ

ル埋立地ニシテ埋立ノ免許條件ヲ以テ特別ノ定ヲ爲シタルモノハ此ノ限ニ在ラス

前項但書ノ埋立地ノ歸屬ニ付テハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

第二十五條 公共ノ用ニ供スル國有地ニシテ埋立ニ關スル工事ノ施行ニ因リ不用ニ歸

シタルモノハ勅令ノ定ムル所ニ依リ有償又ハ無償ニテ埋立ノ免許ヲ受ケタル者ニ之

ヲ下付スルコトヲ得

第二十六條 前二條ノ規定ハ耕地整理法第十一條ノ規定ノ適用ヲ妨ケス

第二十七條 埋立地ニ關スル權利ノ設定又ハ讓渡ニ付テハ埋立ノ免許條件ヲ以テ地方

第三十條 地方長官ハ前二條ノ埋立地ニ關スル權利ヲ取得シタル者ニ對シ埋立ノ免許條件ノ範圍内ニ於テ義務ヲ命スルコトヲ得

第三十一條 第八條第一項ノ規定ニ依リ埋立ニ關スル工事ニ著手スルコトヲ得ル場合ニ於テハ地方長官ハ其ノ工事ノ施行區域内ニ於ケル公有水面ニ存スル工作物其ノ他ノ物件ノ除却ヲ其ノ所有者ニ命スルコトヲ得

第三十二條 左ニ掲クル場合ニ於テハ埋立ニ關スル工事竣功認可前ニ限り地方長官ハ埋立ノ免許ヲ受ケタル者ニ對シ本法若ハ本法ニ基キテ發スル命令ニ依リテ其ノ爲シタル免許其ノ他ノ處分ヲ取消シ其ノ效力ヲ制限シ若ハ其ノ條件ヲ變更シ、埋立ニ關スル工事ノ施行區域内ニ於ケル公有水面ニ存スル工作物其ノ他ノ物件ヲ改築若ハ除却セシメ、損害ヲ防止スル爲必要ナル施設ヲ爲サシメ又ハ原狀回復ヲ爲サシムルコトヲ得

- 一 埋立ニ關スル法令ノ規定又ハ之ニ基キテ爲ス處分ニ違反シタルトキ
- 二 埋立ニ關スル法令ニ依ル免許其ノ他ノ處分ノ條件ニ違反シタルトキ
- 三 詐欺ノ手段ヲ以テ埋立ニ關スル法令ニ依ル免許其ノ他ノ處分ヲ受ケタルトキ
- 四 埋立ニ關スル工事施行ノ方法公害ヲ生スルノ虞アルトキ
- 五 公有水面ノ狀況ノ變更ニ因リ必要ヲ生シタルトキ
- 六 公害ヲ除却シ又ハ輕減スル爲必要ナルトキ
- 七 前號ノ場合ヲ除クノ外法令ニ依リ土地ヲ收用又ハ使用スルコトヲ得ル事業ノ爲

必要ナルトキ

前項第七號ノ場合ニ於テ損害ヲ受ケタル者アルトキハ地方長官ハ同號ノ事業ヲ爲ス者ヲシテ損害ノ全部又ハ一部ヲ補償セシムルコトヲ得

第三十三條 埋立ニ關スル工事竣功認可後埋立ニ關スル法令ニ依ル免許其ノ他ノ處分ノ條件又ハ第三十條ノ規定ニ依リ命スル義務ニ違反スル者アルトキハ地方長官ハ其ノ違反ニ因リテ生シタル事實ヲ更正セシメ又ハ其ノ違反ニ因リテ生スル損害ヲ防止スル爲必要ナル施設ヲ爲サシムルコトヲ得

第三十四條 左ニ掲クル場合ニ於テハ埋立ノ免許ハ其ノ效力ヲ失フ但シ地方長官ハ宥恕スヘキ事由アリト認ムルトキハ效力ヲ失ヒタル日ヨリ起算シ三月内ニ限り其ノ效力ヲ復活セシムルコトヲ得此ノ場合ニ於テハ埋立ノ免許ハ始ヨリ其ノ效力ヲ失ハサリシモノト看做ス

一 免許條件ニ依リ埋立ニ關スル工事ノ實施設計認可ノ申請ヲ要スル場合ニ於テ申請ニ對シ不認可ノ處分アリタルトキ又ハ免許條件ニ於テ指定スル期間内ニ申請ヲ爲ササルトキ

二 第十三條ノ期間内ニ埋立ニ關スル工事ノ著手又ハ工事ノ竣功ヲ爲ササルトキ
前項但書ノ規定ニ依リ免許ノ效力ヲ復活セシメタル場合ニ於テハ地方長官ハ免許條件ヲ變更スルコトヲ得

第三十五條 埋立ノ免許ノ效力消滅シタル場合ニ於テハ免許ヲ受ケタル者ハ埋立ニ關

スル工事ノ施行區域内ニ於ケル公有水面ヲ原狀ニ回復スヘシ但シ地方長官ハ原狀回復ノ必要ナシト認ムルモノ又ハ原狀回復ヲ爲スコト能ハスト認ムルモノニ付埋立ノ免許ヲ受ケタル者ノ申請アルトキ又ハ催告ヲ爲スニ拘ラス其ノ申請ナキトキハ原狀回復ノ義務ヲ免除スルコトヲ得

前項但書ノ義務ヲ免除シタル場合ニ於テハ地方長官ハ埋立ニ關スル工事ノ施行區域内ニ於ケル公有水面ニ存スル土砂其ノ他ノ物件ヲ無償ニテ國ノ所有ニ屬セシムルコトヲ得

第三十六條 第三十二條第一項及前條ノ規定ハ埋立ノ免許ヲ受ケスシテ埋立工事ヲ爲シタル者ニ關シ之ヲ準用ス

埋立ノ免許ヲ受ケスシテ埋立工事ヲ爲シタル者アル場合ニ於テ地方長官原狀回復ノ必要ナシト認ムルトキハ埋立ノ追認ヲ爲スコトヲ得此ノ場合ニ於テハ追認ノ日ニ於テ埋立ノ免許アリタルモノト看做ス

第三十七條 地方長官第六條第三項ノ裁定ヲ爲シ又ハ第十條若ハ第三十二條第二項ノ規定ニ依ル補償ヲ爲サシムル場合ニ於テ鑑定人ノ意見ヲ聞キタルトキハ其ノ鑑定ニ要スル費用ハ第三十二條第二項ノ場合ニ於テハ同項ノ事業ヲ爲ス者、其ノ他ノ場合ニ於テハ埋立ノ免許ヲ受ケタル者ノ負擔トス

第三十八條 第十二條ノ免許料ニシテ國ニ歸屬スルモノ及前條ノ鑑定ニ要スル費用ハ地方長官國稅滯納處分ノ例ニ依リ之ヲ徵收スルコトヲ得但シ先取特權ノ順位ハ國稅ニ次クモノトス

第三十九條 左ノ各號ノ一ニ該當スル者ハ一年以下ノ徵役又ハ三千圓以下ノ罰金ニ處ス

- 一 埋立ノ免許ヲ受ケスシテ埋立工事ヲ爲シタル者
- 二 詐欺ノ手段ヲ以テ埋立ニ關スル法令ニ依ル免許其ノ他ノ處分ヲ受ケタル者
- 三 埋立ニ關スル法令ニ依ル免許其ノ他ノ處分ノ條件ニ違反シ公有水面ノ公共ノ利用ヲ妨害シタル者

第四十條 左ノ各號ノ一ニ該當スル者ハ二千圓以下ノ罰金ニ處ス

- 一 第二十三條但書ノ規定ニ違反シ工作物ヲ設置シタル者
- 二 第二十七條第二項ノ登記ヲ爲シタル埋立地ニ於テ埋立ニ關スル法令ニ依ル免許其ノ他ノ處分ノ條件ニ違反シ工事ヲ爲シタル者
- 三 第三十條ノ規定ニ依リ命スル義務ニ違反シ埋立地ニ於テ工事ヲ爲シタル者

第四十一條 第二十條又ハ第二十九條ノ規定ニ依ル届出ヲ怠リタル者ハ百圓以下ノ罰金又ハ科料ニ處ス

第四十二條 國ニ於テ埋立ヲ爲サムトスルトキハ當該官廳地方長官ノ承認ヲ受クヘシ埋立ニ關スル工事竣功シタルトキハ當該官廳直ニ地方長官ニ之ヲ通知スヘシ

第三條乃至第十一條、第十四條、第十五條、第三十一條、第三十七條及第四十四條

ノ規定ハ第一項ノ埋立ニ關シ之ヲ準用ス但シ第十四條ノ規定ノ準用ニ依リ地方長官ノ許可ヲ受クヘキ場合ニ於テハ之ニ代ヘ地方長官ニ通知スヘシ

第四十三條 地方長官ハ公共ノ用ニ供スル爲必要アルトキハ勅令ノ定ムル所ニ依リ國ニ於テ埋立ヲ爲シタル埋立地ノ一部ヲ公共團體ニ歸屬セシムルコトヲ得

第四十四條 第六條第三項ノ規定ニ依ル補償ノ裁定ニ不服アル者ハ其ノ裁定書ノ送付ヲ受ケタル日ヨリ起算シ六月内ニ通常裁判所ニ出訴スルコトヲ得此ノ場合ニ於テハ訴願シ又ハ行政裁判所ニ出訴スルコトヲ得ス

第四十五條 本法又ハ本法ニ基キテ發スル命令ニ規定シタル事項ニ付行政廳ノ爲シタル處分ニ不服アル者ハ訴願スルコトヲ得

本法ニ依リ行政裁判所ニ出訴スルコトヲ得ル場合ニ於テハ主務大臣ニ訴願スルコトヲ得ス

第四十六條 本法又ハ本法ニ基キテ發スル命令ニ規定シタル事項ニ付行政廳ノ爲シタル違法處分ニ因リ權利ヲ毀損セラレタリトスル者ハ行政裁判所ニ出訴スルコトヲ得

第四十七條 本法ニ依リ地方長官ノ職權ニ屬スル事項ハ勅令ノ定ムル所ニ依リ主務大臣ノ認可ヲ受ケシムルコトヲ得

第四十八條 本法ニ依リ地方長官ノ職權ニ屬スル事項ハ勅令ノ定ムル所ニ依リ其ノ輕易ナルモノニ限り下級行政廳ニ之ヲ委任スルコトヲ得

第四十九條 本法中市會又ハ市長ニ關スル規定ハ〔北海道區制又ハ沖繩縣區制ニ依

ル區ニ付テハ區會又ハ區長〕ニ關シ之ヲ適用ス

本法中町村會又ハ町村長ニ關スル規定ハ町村制ヲ施行セサル地ニ付テハ町村會又ハ町村長ニ準スルモノニ關シ之ヲ適用ス

第五十條 本法ハ勅令ノ定ムル所ニ依リ公有水面ノ一部ヲ區劃シ永久的設備ヲ築造スル場合ニ之ヲ準用ス

附 則

本法施行ノ期日ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

本法施行前爲シタル處分及之ニ附シタル條件ハ本法又ハ本法ニ基キテ發スル命令ニ牴觸セサル限り本法ニ依リ爲シタル處分及之ニ附シタル條件ト看做ス但シ地方長官ハ公益上必要アリト認ムルトキハ本法施行ノ日ヨリ起算シ三月内ニ限り第三十二條ノ規定ニ拘ラス處分ニ付シタル條件ヲ變更シ又ハ處分ニ條件ヲ附スルコトヲ得

地方長官ニ對スル申請其ノ他ノ埋立ニ關スル手續ニシテ本法施行前爲シタルモノハ本法ニ依リ之ヲ爲シタルモノト看做ス (大正十一年四月勅令第一九三號ニテ) (大正十一年四月十日ヨリ施行セラル)

公有水面埋立法施行令

(大正十一年四月八日勅令第一九四號)

改 (大正十五年九月十五) 正 (日勅令第三〇八號)

第一條 公有水面埋立法第一條第三項ノ規定ニ依リ左ノ通指定ス

第七類 土地及水面 公有水面埋立法 公有水面埋立法施行令

第七類 土地及水面 公有水面埋立法施行令

三六四

都市計畫法第十二條ノ土地區劃整理トシテ施行スル溝渠又ハ溜池ノ變更ノ爲必要ナル埋立

第二條

埋立ノ免許ヲ受ケムトスル者ハ左ノ事項ヲ記載シタル願書ヲ地方長官ニ提出スヘシ此ノ場合ニ於テ埋立ニ關スル工事ノ施行區域カ數府縣ニ亘ルトキハ關係地方長官宛ニテ同一願書ヲ各地方長官ニ提出スヘシ

一 出願人ノ住所、職業及氏名尙埋立ヲ爲ス會社ノ發起人カ會社ノ爲ス埋立ニ付意願ヲ爲ス場合ニ於テハ其ノ旨ヲ記載スヘシ

二 埋立ノ場所及其ノ面積

三 埋立ノ目的

四 埋立ニ關スル工事ノ著手及竣工ニ付指定ヲ受ケムトスル期間尙埋立ニ關スル工事ノ施行區域ヲ分割シ各區域ニ付異ル竣工期間ノ指定ヲ受ケムトスルトキハ其ノ區分及事由ヲ記載スヘシ

前項ノ願書ニハ左ノ書類及圖面ヲ添附スヘシ

一 埋立ニ關スル工事ノ計畫說明書

二 埋立ニ關スル費用ノ明細書

三 公有水面埋立法第四條ノ權利ヲ有スル者アルトキハ其ノ同意ヲ證スル書面、其ノ同意ヲ得ルコト能ハサルトキハ其ノ事由書

四 公有水面ノ利用ニ關シテ爲シタル施設ニシテ埋立ノ爲其ノ效用ヲ妨ケラルヘキ

五 一般平面圖、實測平面圖、求積平面圖、縱斷面圖、橫斷面圖及工作物構造圖但シ

埋立ニ關スル工事簡易ナル場合ニ於テハ縱斷面圖、橫斷面圖及工作物構造圖ハ之ヲ省略スルコトヲ得

六 海面ノ埋立ニ在リテハ前各號ニ掲クルモノノ外埋立ニ關スル工事ノ施行區域ヲ記載シタル海軍海圖又ハ其ノ謄寫圖ニ通

第三條 埋立出願人ハ出願名義ノ變更ヲ爲スコトヲ得其ノ變更ハ屆書ニ新出願人ニ關スル前條第一項第一號ニ掲クル事項ヲ記載シ新舊出願人ヨリ連名ニテ地方長官ニ之ヲ届出ツルニ非サレハ其ノ效力ヲ生セス

出願人死亡シタルトキハ其ノ相續人ハ被相續人ノ出願ヲ承繼スルコトヲ得其ノ承繼ハ相續人ヨリ屆書ニ其ノ住所、職業及氏名ヲ記載シ相續開始ノ日ヨリ起算シ三月以内ニ地方長官ニ之ヲ届出ツルニ非サレハ其ノ效力ヲ生セス

數人ノ相續人前項ニ規定スル承繼ノ届出ヲ爲シタルトキハ之ヲ共同出願人トス

第二項ノ規定ハ埋立ヲ爲ス會社カ其ノ發起人ノ爲シタル出願ヲ承繼スル場合又ハ會社ノ合併ノ場合ニ於テ合併後存續スル會社若ハ合併ニ因リテ成立シタル會社カ合併ニ因リテ消滅シタル會社ノ出願ヲ承繼スル場合ニ之ヲ準用ス但シ相續開始ノ日トアルハ設立又ハ合併ノ登記ノ日トス

第四條 地方長官ハ埋立區域ヲ制限シテ其ノ出願ヲ免許スルコトヲ得

第七類 土地及水面 公有水面埋立法施行令

三六五

第七類 土地及水面 公有水面埋立法施行令

三六六

第五條ノ場合ニ於テ埋立區域ヲ制限シ二以上ノ埋立ヲ併立セシメ得ルトキ亦前項ニ同シ

第五條 同一區域ニ巨ル埋立ノ出願ニシテ免許シ得ヘキモノ數件アルトキハ公益上及經濟上ノ價值最モ大ナルモノヲ免許スヘシ

前項ノ事情ニ優劣ナキトキハ先ツ沿岸土地所有者ノ出願ニ係ル埋立ニシテ其ノ土地ノ利用ニ著シキ關係アルモノ、次ニ出願受理ノ日先ナルモノヲ免許スヘシ
前二項ノ規定ハ先願ヲ受理シタル日ヨリ起算シ六月ヲ經過シ又ハ地元市町村會ニ諮問ヲ發シタル後ニ受理シタル出願ニ付テハ之ヲ適用セス

第六條 地方長官埋立ノ免許ヲ爲サムトスルトキハ第二條第一項第一號乃至第三號ニ掲クル事項及埋立ニ關スル工事ノ計畫ノ要領ヲ具シ三月以内ノ期間ヲ指定シテ地元市町村會ノ意見ヲ徵スヘシ

第七條 地方長官ハ埋立ニ關スル法令ニ規定スルモノノ外埋立ノ免許ニ公益上又ハ利害關係人ノ保護ニ關シ必要ト認ムル條件ヲ附スルコトヲ得

第八條 公有水面埋立法第四條ノ權利ヲ有スル者ハ同法第十一條ノ規定ニ依ル告示アリタル後爲シタル公有水面ノ利用ニ關スル施設ニ付テハ埋立ニ因リテ生スル損害ノ防止ノ施設又ハ其ノ損害ノ補償ヲ請求スルコトヲ得ス但シ特別ノ事由アル場合ニ於テ地方長官ノ許可ヲ受ケテ爲シタル施設ニ付テハ此ノ限ニ在ラス

第九條 埋立ノ免許ヲ受ケタル者ハ公有水面埋立法第四條ノ權利ヲ有スル者ノ受クヘ

キ損害ニシテ防止スルコトヲ得ルモノニ付テハ其ノ損害ノ防止ノ施設ヲ爲スヘシ但シ當事者間ニ於テ協議調ヒタルトキ又ハ其ノ施設ノ費用カ損害ノ程度ヲ著シク超過スルモノナルトキハ損害ノ補償ヲ以テ之ニ代フルコトヲ得

埋立ノ免許ヲ受ケタル者ハ公有水面埋立法第四條ノ權利ヲ有スル者ノ受クヘキ損害ニシテ前項ノ施設ニ依リ防止スルコト能ハサルモノニ付テハ其ノ損害ノ補償ヲ爲スヘシ前項ノ施設又ハ補償ハ埋立ニ因リ通常生スヘキ損害ニ付テノミ之ヲ爲スヘシ

第十條 埋立ノ免許ヲ受ケタル者ハ前條ノ施設又ハ補償ニ關シ公有水面埋立法第四條ノ權利ヲ有スル者ト協議ヲ爲スヘシ
前項ノ協議調ヒタルトキハ當事者ハ連名ニテ協議調ヒタル日ヨリ起算シ十四日以内ニ其ノ顛末ヲ地方長官ニ届出ツヘシ

第十一條 前條ノ協議調ヒタルトキ又ハ協議ヲ爲スコト能ハサルトキハ埋立ノ免許ヲ受ケタル者ハ地方長官ニ對シ裁定ノ申請ヲ爲スヘシ
裁定ノ申請書ニハ申請ノ目的及事由ヲ記載シ協議調ヒタルトキハ其ノ顛末書、協議ヲ爲スコト能ハサルトキハ其ノ事由書ヲ添附スヘシ

第十二條 地方長官ハ前條ノ申請ヲ受理シタルトキハ公有水面埋立法第四條ノ權利ヲ有スル者ニ對シ申請ノ要領及指定スル期間内ニ意見書ヲ差出スヘキ旨ヲ告知スヘシ但シ告知スルコト能ハサル場合ニ於テハ告示ヲ以テ之ニ代フルコトヲ得

第七類 土地及水面 公有水面埋立法施行令

三六七

第七類 土地及水面 公有水面埋立法施行令

三六八

前項ノ期間内ニ意見書ヲ差出ササルトキハ地方長官ハ之ヲ俟タスシテ裁定ヲ爲スコトヲ得

第十三條 地方長官ハ裁定ヲ爲シタルトキハ埋立ノ免許ヲ受ケタル者及公有水面埋立法第四條ノ權利ヲ有スル者ニ裁定書ノ謄本ヲ交付スヘシ但シ裁定書ノ謄本ヲ交付スルコト能ハサルトキハ其ノ要領ノ告示ヲ以テ之ニ代フルコトヲ得

第十四條 第八條及第九條第一項第二項ノ規定ハ埋立ノ免許ヲ受ケタル者ヲシテ公有水面埋立法第十條ノ規定ニ依ル施設又ハ補償ヲ爲サシムル場合ニ之ヲ準用ス

第十五條 公有水面埋立法第十條ノ規定ニ依ル施設又ハ補償ヲ求メムトスル者ハ其ノ目的及事由ヲ具シ地方長官ニ同條ノ規定ニ依ル處分ノ申請ヲ爲スヘシ

地方長官ハ前項ノ申請ヲ受理シタルトキハ埋立ノ免許ヲ受ケタル者ニ對シ申請ノ要領及指定スル期間内ニ意見書ヲ差出スヘキ旨ヲ告知スヘシ

前項ノ期間内ニ意見書ヲ差出ササルトキハ地方長官ハ之ヲ俟タスシテ處分ヲ爲スコトヲ得

地方長官ハ申請ヲ理由アリト認メタルトキハ埋立ノ免許ヲ受ケタル者ニ對シ相當ノ期間ヲ指定シテ施設又ハ補償ヲ命シ且申請者ニ其ノ旨ヲ通知スヘシ

地方長官ハ第一項ノ申請ナキ場合ト雖必要アリト認ムルトキハ前三項ノ規定ニ準シ施設又ハ補償ヲ命スルコトヲ得

第十六條 地方長官ハ埋立ノ免許ヲ受ケタル者ニ歸屬スヘキ埋立地ノ價額ノ百分ノ三

ヲ埋立ノ免許料トシテ徵收スヘシ
埋立地ノ價額ハ埋立ノ免許ノ日ヲ標準トシ比隣ノ土地ノ價格ヲ參酌シテ地方長官之ヲ認定ス

第十七條 公共團體ノ爲ス埋立、祭祀宗教慈善學術技藝其ノ他ノ公益事業ニシテ營利ヲ目的トセサルモノノ用ニ供スル目的ヲ以テ爲ス埋立又ハ土地ノ農業上ノ利用ヲ増進スル目的ヲ以テ爲ス埋立ニ付テハ免許料ヲ徵收スルコトヲ得ス

公共團體ノ爲ス埋立ヲ除クノ外埋立竣功認可後十年以内ニ其ノ埋立地ノ利用方法ヲ變更シタルトキハ前條ノ例ニ依リ免許料ヲ徵收ス但シ埋立地ノ價額ニ付テハ其ノ利用方法變更ノ日ヲ標準トス

前項ニ規定スル埋立地利用方法ノ變更ヲ爲シタル者ハ遲滞ナク地方長官ニ之ヲ届出ツヘシ

第十八條 免許料ハ國庫ノ收入トス但シ地方公共團體カ修築又ハ維持ノ費用ヲ現ニ支出シ又ハ支出シタル河川、港灣其ノ他ノ公有水面ノ埋立ニ付テハ地方長官ハ其ノ免許料ノ全部又ハ一部ヲ其ノ地方公共團體ニ歸屬セシムルコトヲ得

前項但書ノ規定ニ依リ免許料ヲ歸屬セシムル地方公共團體及其ノ歸屬ノ割合ハ地方長官之ヲ定メ且其ノ地方公共團體及埋立ノ免許ヲ受ケタル者ニ之ヲ通知スヘシ

第十九條 免許料ハ埋立ノ免許ノ日ヨリ起算シ一月以内ニ之ヲ納付スヘシ但シ其ノ半額ニ付テハ地方長官ハ竣功期間内ニ於テ其ノ定ムル期限迄ニ之ヲ納付セシムルコト

第七類 土地及水面 公有水面埋立法施行令

三六九

ヲ得

免許料ノ額及前項但書ノ規定ニ依ル納付期限ハ免許條件ヲ以テ之ヲ定ムヘシ
第十七條第二項ノ規定ニ依リ免許料ヲ徴收スル場合ニ於テハ地方長官ハ免許料ノ額
及納付期限ヲ定メ之ヲ告知スヘシ

第二十條 埋立ノ免許ヲ受ケタル者埋立ニ關スル工事ノ著手又ハ竣功ヲ爲スヘキ期間
ノ伸長ノ許可ヲ受ケムトスルトキハ其ノ事由及伸長ノ期間ヲ具シ期間滿了ノ日ヨリ
起算シ少クトモ二週間前ニ之ヲ申請スヘシ

第二十一條 公有水面埋立法第十四條ノ規定ニ依ル立入ハ邸内ニ付テハ日出前日没後
ハ占有者ノ意ニ反シテ之ヲ爲スコトヲ得ス

第二十二條 公有水面埋立法第十四條ノ規定ニ依ル許可ヲ受ケムトスルトキハ立入又
ハ使用ヲ爲スヘキ土地ノ所在、區域及現況、所有者及占有者ノ住所及氏名竝立入又
ハ使用ノ目的、時期及期間ヲ記載シタル願書ニ圖面ヲ添ヘ地方長官ニ出願スヘシ

第二十三條 公有水面埋立法第十四條第三項ノ規定又ハ同項ノ規定ノ準用ニ依ル通知
又ハ告示ハ少クトモ三日前ニ之ヲ爲スヘシ

第二十四條 公有水面埋立法第十六條ノ許可ヲ受ケムトスルトキハ願書ニ埋立ヲ爲ス
權利ヲ讓受クル者ニ關スル第二條第一項第一號ニ掲クル事項ヲ記載シ埋立ノ免許ヲ
受ケタル者及埋立ヲ爲ス權利ヲ讓受クル者ヨリ連名ニテ出願スヘシ
地方長官ハ公有水面埋立法第十六條ノ許可ヲ爲シ又ハ同法第二十條ノ規定ニ依ル届

出ヲ受理シタルトキハ埋立ヲ爲ス權利ノ讓渡又ハ承繼アリタルコト及埋立ヲ爲ス聯
利ヲ讓受ケタル者又ハ承繼シタル者ニ關スル第二條第一項第一號ニ掲クル事項ヲ告
示スヘシ

第二十五條 竣功認可ノ申請書ニハ實測平面圖及求積平面圖ヲ添附スヘシ

第二十六條 公有水面埋立法第二十三條ノ規定ニ依リ左ノ通指定ス
一 耕地整理法ニ依リ施行スル工作物ノ設置
二 開墾助成法ニ依リ助成金ヲ受ケテ施行スル埋立ニ係ル土地ノ利用ニ關シ必要ナ
ル工作物ノ設置

三 簡易ナル一時的的工作物ノ設置

第二十七條 公有水面埋立法第二十四條第一項但書ノ埋立地ハ國ニ於テ必要ナルモノ
ヲ除クノ外公共團體ニ歸屬ス

第二十八條 公共團體ハ竣功認可ノ日ニ於テ前條ノ規定ニ依リ之ニ指定セラレタル埋
立地ノ所有權ヲ取得ス

第二十九條 公共ノ用ニ供スル國有地ニシテ埋立ノ免許ヲ受ケタル者カ埋立ニ關スル
工事トシテ其ノ國有地ト同一又ハ同種ノ用途ニ供スル工作物ヲ施設シタルニ因リ不
用ニ歸シタルモノハ其ノ工作物ヲ構成スル土地及物件ヲ無償ニテ國ニ歸屬セシムル
場合ニ限り無償ニテ埋立ノ免許ヲ受ケタル者ニ之ヲ下付ス

第七類 土地及水面 公有水面埋立法施行令

三七二

前項ノ場合ヲ除クノ外公共ノ用ニ供スル國有地ニシテ埋立ニ關スル工事ノ施行ニ因リ不用ニ歸シタルモノハ有償ニテ埋立ノ免許ヲ受ケタル者ニ之ヲ下付スルコトヲ得

前二項ノ國有地ハ國ノ所有ニ屬スル水流又ハ水面ヲ包含ス

第三十條 本令ハ國ニ於テ埋立ヲ爲ス場合ニ公有水面埋立法第四十二條第三項ノ規定ニ依ル準用ノ範圍内ニ於テ之ヲ準用ス

第三十一條 第二十七條第二項及第二十八條ノ規定ハ國ニ於テ埋立ヲ爲シタル埋立地ノ一部ヲ公共ノ用ニ供スル爲必要アルトキ公共團體ニ歸屬セシムル場合ニ之ヲ準用ス

第三十二條 左ニ掲クル事項ニ付テハ地方長官ハ内務大臣ノ認可ヲ受クヘシ

一 第四條第二項又ハ第五條ノ場合ニ於ケル埋立ノ免許又ハ其ノ拒否

二 内務大臣ノ指定スル河川ノ埋立ノ免許

三 前號ノ河川ノ流域ニ於ケル水面又ハ其ノ河川ノ河口附近ニ於ケル海面ノ埋立ノ免許但シ其ノ河川ニ著シク影響ヲ及ホスノ虞ナキ埋立ニ付テハ此ノ限ニ在ラス

四 内務大臣ガ甲號港灣トシテ指定スル港灣ノ埋立ノ免許及乙號港灣トシテ指定スル港灣ノ埋立ニシテ其ノ港灣ノ利用ニ著シク影響ヲ及ホスノ虞アルモノノ免許

五 海峽、堀割其ノ他ノ狹水道ニ於ケル埋立ニシテ航路、潮流、水流若ハ水深又ハ艦船ノ航行碇泊ニ影響ヲ及ホスノ虞アルモノノ免許

六 埋立ノ面積五十町歩ヲ超ユル埋立ノ免許

七 第二號乃至第六號ニ該當スル場合ニ於ケル公有水面埋立法第三十六條第二項ノ埋立ノ追認

第三十三條 公有水面埋立法第五十條ノ規定ニ依リ同法ヲ準用スヘキ場合左ノ如シ

一 水産物養殖場ノ築造

二 乾船渠ノ築造

本令ハ前項ノ場合ニ之ヲ準用ス

第三十四條 埋立ノ免許ヲ受ケタル者數人ナルトキハ本令ノ定ムル所ニ依リ埋立ノ免許ヲ受ケタル者ノ負擔スル義務ハ連帶シテ之ヲ負フモノトス

第三十五條 埋立ニ關スル工事ノ施行區域カ數府縣ニ亘ル場合ニ於テハ埋立ニ關スル法令中地方長官ノ職權ニ屬スル事項ハ關係地方長官共同シテ之ヲ行フ但シ利害ノ關係スル所一府縣ノ區域ニ止ルトキハ此ノ限ニ在ラス

第三十六條 本令ニ於テ住所、職業及氏名ト稱スルハ法人ニ在リテハ主タル事務所ノ所在地、法人ノ目的及名稱ヲ謂フ

第三十七條 本令中町村會ニ關スル規定ハ町村制ヲ施行セサル地ニ付テハ町村會ニ準スルモノニ關シ之ヲ適用ス

附 則

本令ハ公有水面埋立法施行ノ日ヨリ之ヲ施行ス

第七類 土地及水面 公有水面埋立法施行令

三七三

第七類 土地及水面 公有土地水面使用規則

三七四

◎公有土地水面使用規則 (大正四年三月八日 府令第十五號)

- 第一條 本則ニ於テ公有土地又ハ水面ト稱スルハ直接公用ニ供シタル道路、竝木敷、堤塘、曳船道、共同物揚場、河海、溜池、水路、溝渠ノ類及之ニ附屬セル土地又ハ水面ニシテ其ノ地盤官有ニ屬スルモノヲ謂フ
- 第二條 公有土地又ハ水面ヲ使用セムトスル者ハ他ニ別段ノ規定アルモノヲ除クノ外本則ニ依リ大阪府知事ノ許可ヲ受クヘシ
- 第三條 願書ニハ使用箇所ノ種類、位置、面積、目的、使用方法、平面圖、断面圖及丈量圖其ノ他必要ナル事項ヲ具備スヘシ
- 電柱建設ニ付テハ本柱、支柱、支線ニ區分シタル各本數其ノ他ノモノニシテ面積ニ依リ難キモノハ箇所數ヲ記載スヘシ
- 第四條 願書ニハ管内居住者ニシテ身元確實ナル保證人ノ連署ヲ要ス但シ公共團體ノ出願及電柱建設ノ爲メニスル出願ニ付テハ此ノ限ニ在ラス
- 第五條 使用期間ハ五年ヲ超ユルコトヲ得ス
使用期間ヲ更新シテ使用セムトスル者ハ期間滿了前ニ出願スヘシ其ノ期間ハ更新ノ時ヨリ五年ヲ超ユルコトヲ得ス
- 第六條 許可ヲ受ケタル者ハ指定ニ從ヒ使用料金を納付スヘシ
使用料金を徴收ニ關シテハ明治二十四年大阪府告示第五十六號官有土地森林原野收入金徴收規程ヲ準用ス

第七條 許可ヲ受ケタル者ハ使用期間中其ノ區域内ニ於ケル敷地及工作物修理保存ノ責ニ任ス使用ニ因リ區域外ニ滲リ公害ヲ生シ又ハ生セムトスル虞アル場合ハ其ノ區域外ニ付テモ亦同シ
前項ニ依リ必要ナル設備又ハ其ノ方法ニ付テハ特ニ之ヲ指定スルコトアルヘシ

第八條 使用ノ方法ニ從フ設備ノ爲メ公有ノ土地又ハ工作物ニ附合セシメタル材料物件ハ無償ニテ公有ニ歸屬ス但シ收去ヲ許可シ又ハ之ヲ命シタルトキハ其ノ分離ノ時ヨリ許可ヲ受ケタル者ノ所有ニ歸ス

第九條 許可ニ因リテ生スル權利ハ私權ノ目的ト爲スコトヲ得ス但シ他人ニ權利換ヲ爲サムトスルトキハ双方連署ノ上出願スヘシ
許可ヲ受ケタル者ノ相續人ハ使用ニ關スル一切ノ權利義務ヲ繼承シタルモノト看做ス

第十條 許可ヲ受ケタル者又ハ其ノ保證人ノ住所若ハ氏名ノ異動ハ十四日以内ニ届出ツヘシ

第十一條 使用ノ區域、面積、目的若ハ方法ハ許可ヲ受ケスシテ之ヲ變更スルコトヲ得ス但シ單ニ面積ノ縮少ノミニ止マルモノハ其ノ旨届出ツヘシ

第十二條 左記各號ノ一ニ該當スル場合ニ於テハ許可ヲ取消シ又ハ使用ヲ停止シ若ハ制限スルコトアルヘシ

一 法律命令ノ結果其ノ他公益上必要アリト認ムルトキ

二 使用ニ因リ公害ヲ生シ又ハ生セムトスル虞アリト認ムルトキ

三 許可ヲ受ケタル者本則ノ規定又ハ許可條件ニ違背シ若ハ命令ニ因ル義務ヲ履行セサルトキ

第十三條 許可ヲ受ケタル者ハ本則ノ規定又ハ許可條件若ハ命令ニ因ル處分ヲ拒ミ又ハ其ノ結果生シタル費用及損害ニ付之カ賠償ヲ請求スルコトヲ得ス

第十四條 使用期間滿了ノトキ、許可ヲ取消シタルトキ又ハ使用期間中使ヲ止メムトスルトキ

第七類 土地及水面 公有土地水面使用規則

三七五

第七類 土地及水面 公有土地水面使用規則

三七六

ハ原形ニ回復シ其ノ旨届出ツヘシ但シ第八條ノ物件ハ許可又ハ命令ニ依ル場合ノ外之ヲ收去スルコトヲ得ス

前項ノ場合ニ於テ原形ヲ知ルコト能ハサルトキハ大阪府知事ノ認定スル所ニ依ルヘシ

第十五條 共同シテ許可ヲ受ケタル者ハ各連帯シテ其ノ責ニ任ス保證人ニ付テモ亦同シ

第十六條 第二條ノ許可ヲ得スシテ公有土地又ハ水面ヲ使用シ若ハ第十一條本項ノ規定ニ違反シタル者ハ五十圓以下ノ罰金若ハ科料又ハ拘留ニ處ス

前項ノ處罰ハ使用料金ノ徴收ヲ妨ケス

第十七條 市町村ニ於テ其ノ費用ヲ負擔スル堤塘、道路又ハ竝木敷ニ關シテハ本則ヲ適用セス

第十八條 大阪府ノ管理ニ屬スル第一條記載ノ土地又ハ水面ハ地盤ノ官有ニ屬セサルモノト雖トモ仍本則ノ規定ヲ準用ス

附 則

本則ハ大正四年四月一日ヨリ之ヲ施行ス

明治三十五年四月大阪府令第四十五號ハ本則施行ノ日ヨリ之ヲ廢止ス

本則施行ノ際現ニ使用期間中ニ在ルモノハ本則ニ依リ許可ヲ受ケタルモノト看做ス

第八類 補助工事

國庫ノ補助スル公共團體ノ事業ニ關スル件 (明治三十年四月一日 日法律第三七號)

第一條 府縣郡市區町村其ノ他公共團體ノ事業ニシテ國庫ヨリ其ノ費用ヲ補助スルモノニ關シ必要アリト認ムルトキハ主務大臣ハ其ノ事業ノ設計施行管理並經費收支ノ方法等ニ付期間ヲ指定シテ之カ變更ヲ命シ若シ命ニ從ハサルトキハ直ニ之ヲ變更スルコトヲ得

主務大臣ハ必要アリト認ムルトキハ前項ノ事業ノ全部若クハ一部ヲ直接施行スルコトヲ得

第二條 前條ノ事業ニ關シ經費ノ負擔ヲ爲シ又ハ經費ノ變更ヲ爲スヘキ場合ニ於テ主務大臣ノ指定シタル期間内ニ之ヲ爲ササルトキハ主務大臣ハ直ニ豫算ヲ定メ又ハ豫算ヲ追加シ若クハ更正シ必要ナル費用ヲ支辨セシムルコトヲ得

第三條 此ノ法律ニ規定シタル主務大臣ノ職權ハ其ノ委任ヲ受ケタル地方長官ヲシテ之ヲ執行セシムルコトヲ得

第四條 府縣郡市區町村其ノ他公共團體ノ事業ニシテ國ノ事業ト關聯スル場合ニ於テハ此ノ法律ノ規程ヲ準用スルコトヲ得

第五條 此ノ法律ヲ施行スル爲ニ必要ナル規程ハ命令ヲ以テ之ヲ定ム

第八類 補助工事 國庫ノ補助スル公共團體ノ事業ニ關スル件

三七七

同上施行ノ件 (明治三十一年八月二日勅令第一八四號)

第一條 内務大臣ニ於テ府縣郡市區町村其ノ他公共團體ノ事業ヲ直接施行スルトキハ官報ヲ以テ其ノ事業ノ屬スル公共團體並其ノ施行スヘキ事業及其始期ヲ告示スヘシ内務大臣ニ於テ前項事業ノ直接施行ヲ廢止シ又ハ事業ヲ終了シタルトキハ官報ヲ以テ之ヲ告示スヘシ

第二條 府縣郡市區町村其ノ他公共團體ハ内務大臣ノ直接施行ニ係ル事業ニ要スル費用ノ豫算金額ヲ國庫ニ納付スヘシ

前項ニ依リ納付スヘキ期間並豫算金額ハ内務大臣之ヲ定ム

第三條 府縣郡市區町村其ノ他公共團體ニ於テ内務大臣ノ直接施行ニ係ル事業ノ爲取得シタル物件及權利ヲ有スルトキハ之ヲ内務大臣ニ移付スヘシ

前項ニ依リ移付ヲ爲スヘキ期間並物件及權利ノ範圍ハ内務大臣之ヲ定ム

第四條 内務大臣ハ其ノ直接施行ニ係ル事業ニ關シ必要ナルトキハ其ノ事業ノ屬スル府縣郡市區町村其ノ他公共團體ヲ管轄スル行政廳ノ有スル職權ヲ直接施行スルコトヲ得

第五條 内務大臣ニ於テ其ノ直接施行ニ係ル事業ヲ終了シタルトキハ之ヲ其ノ所屬府縣郡市區町村其ノ他公共團體ニ引渡スヘシ但シ其ノ事業ノ數年ニ涉ル場合ニ於テハ其ノ完了シタル部分ヲ順次引渡スコトヲ得

第六條 内務大臣ニ於テ前條ニ依リ事業ノ引渡ヲ爲シタルトキハ其ノ事業ノ爲取得シ

又ハ第三條ニ依リ移付ヲ受ケタル物件及權利ニシテ現存スルモノハ之ヲ其ノ事業ノ屬スル府縣郡市區町村其ノ他公共團體ニ移付スヘシ

前項ニ依リ移付ヲ爲スヘキ物件及權利ノ範圍並其ノ移付シ難キモノニ關スル處分ハ内務大臣之ヲ定ム

第七條 内務大臣ノ直接施行ニ係ル事業ニ要スル費用ノ不足額ノ補充及殘餘金ノ處分等ハ内務大臣之ヲ定ム

第八條 内務大臣ニ於テ府縣郡市區町村其ノ他公共團體ニ屬スル事業ノ直接施行ヲ廢止シタルトキハ前三條ノ規定ヲ準用ス

第九條 此ノ勅令ニ規定シタルモノノ外内務大臣ハ必要ナル命令ヲ發スルコトヲ得

第九類 土地收用

土地收用法

(明治三十三年三月七日法律第二九號) 改(大正三年三月法律第一五號、
正(昭和二年四月同第三九號)

第一章 總則

第一條 公共ノ利益ト爲ルヘキ事業ノ爲之ニ要スル土地ヲ收用又ハ使用スルノ必要アルトキハ其ノ土地ハ本法ノ規定ニ依リ之ヲ收用又ハ使用スルコトヲ得

本法ニ於テ使用ト稱スルハ權利ノ制限ヲ包含ス

第二條 土地ヲ收用又ハ使用スルコトヲ得ル事業ハ左ノ各號ノ一ニ該當スルモノナルコトヲ要ス

- 一 國防其ノ他軍事ニ關スル事業
- 二 皇室陵墓ノ營建又ハ神社若ハ官公署ノ建設ニ關スル事業
- 三 社會事業又ハ教育若ハ學藝ニ關スル事業
- 四 鐵道、軌道、索道、道路、橋梁、河川、堤防、砂防、運河、用惡水路、溜池、船渠、港灣、埠頭、水道、下水、市場、電氣裝置、瓦斯裝置又ハ火葬場ニ關スル事業
- 五 衛生、測候、航路標識、防風、防火、水害豫防其ノ他公用ノ目的ヲ以テ國道府縣市町村其ノ他公共團體ニ於テ施設スル事業

第九類 土地收用 土地收用法